

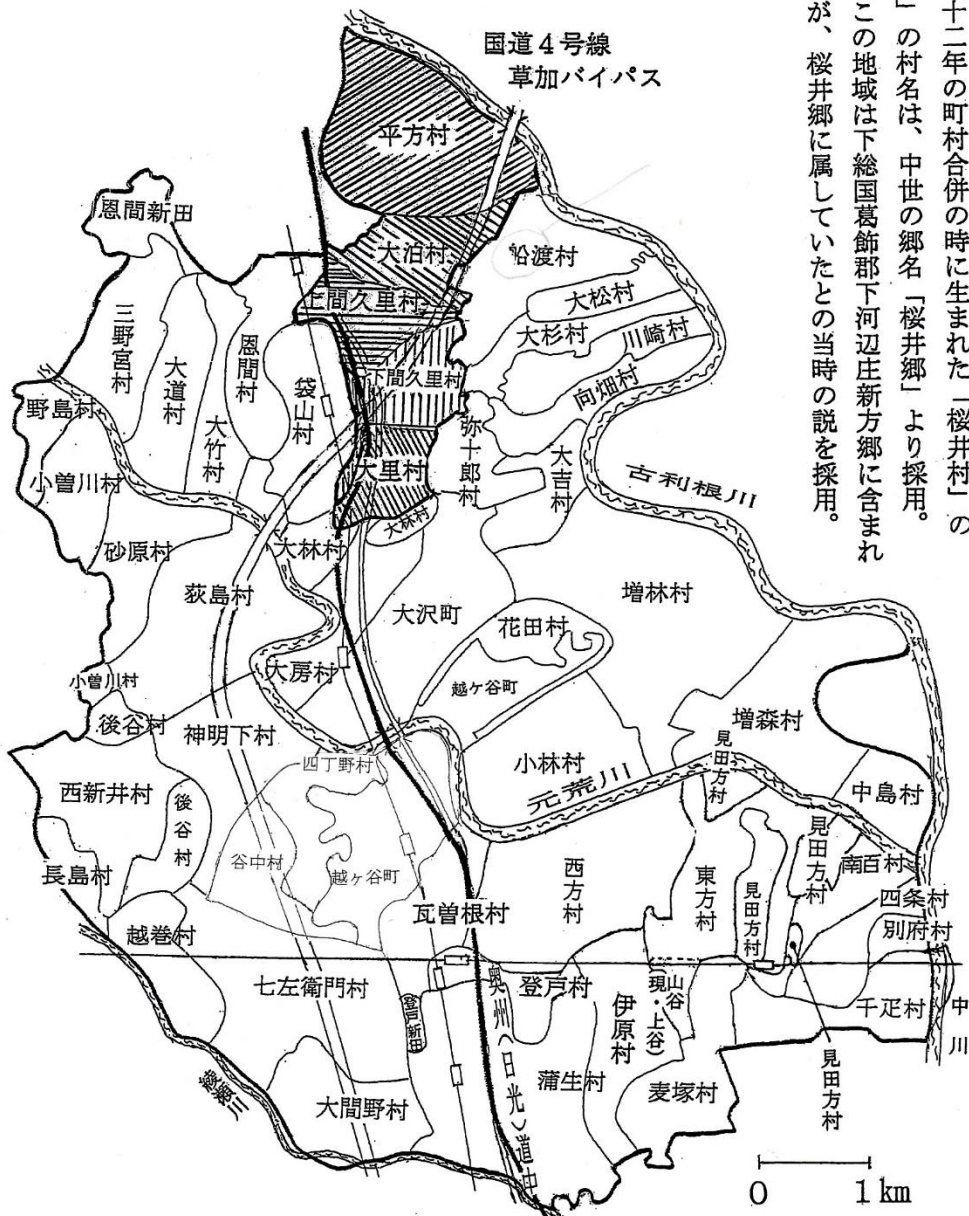
平成5・6年度調査

桜井地区 の石仏

ひらかた 平方村・大泊村・
かみまくり 上間久里村・下間久里村・大里村
おおどまり 大里村

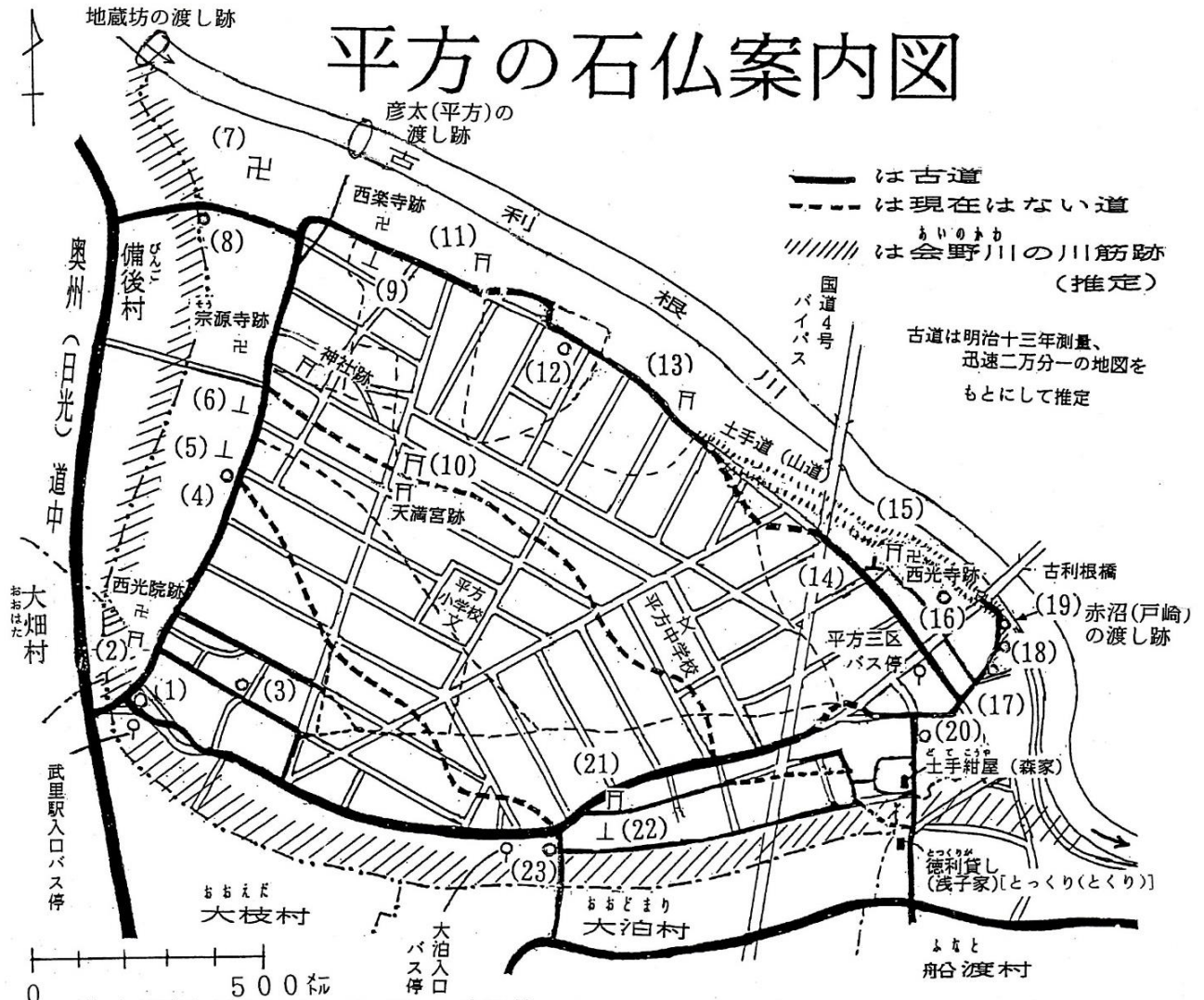
平成31年8月改訂

明治二十二年の町村合併の時に生まれた「桜井村」の「桜井」の村名は、中世の郷名「桜井郷」より採用。中世のこの地域は下総国葛飾郡下河辺庄新方郷に含まれていたが、桜井郷に属していたとの当時の説を採用。

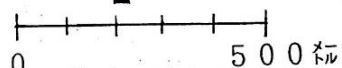


加藤幸一

平方の石仏案内図

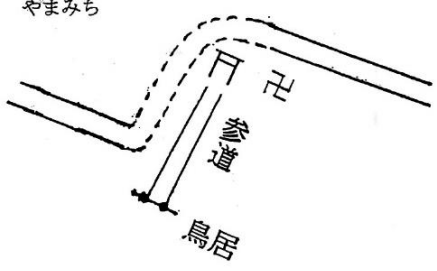


古道は明治十三年測量、迅速二万分一の地図をもとにして推定



- | | |
|-------------------------------|--------------|
| (1)旧平方村入口関根家(平1762)路傍 | No. 1~3 |
| (2)女帝(にょたい・にょてい・女神)神社 | No. 4~12 |
| (3)白鳥家(平1806)敷地内 | No. 13 |
| (4)九ノ里家(くのりや、平13101)路傍 | No. 14 |
| (5)須賀家(平141)個人墓地 | No. 15 |
| (6)中村家(平161)個人墓地 | No. 16 |
| (7)林西寺(りんさいじ) | No. 17~31・68 |
| (8)会野川(あいのかわ)筋跡路傍 | No. 32~37 |
| (9)東組共同墓地そば路傍 | No. 38 |
| (10)浅間神社 | No. 39~41 |
| (11)鹿島神社 | No. 42~46 |
| (12)小川家(平512)近くの道路南側掘割 | No. 47 |
| (13)砂間(すま)の香取神社 | No. 48~49 |
| (14)戸崎(とさき)墓地 | No. 50~53 |
| (15)戸崎稻荷神社 | No. 54 |
| (16)小早川家(平1072)敷地内 | No. 55・69路傍 |
| (17)川久保(かわくぼ)の旧道の小早川家(平963)路傍 | No. 56~57 |
| (18)川久保の旧道の大塚家(平1100)路傍 | No. 58 |
| (19)赤沼の渡し場跡地 | No. 59 |
| (20)大塚家(平1201)敷地内 | No. 60 |
| (21)山谷(やまや)の香取神社 | No. 61~64 |
| (22)覚山坊(かざんぼう)墓地(山谷共同墓地) | No. 65・66 |
| (23)富士合成工業(現在、住宅地)そば丁字路 | No. 67 |

戸崎の稻荷神社周辺のかつての山道(土手道)



----- 現在はない道

※上記の「山道」についての全体の地図は、次のページを参照のこと。

平方村の

あかぬまわた やまみち
赤沼渡し場までの山道

前頁の「平方の石仏案内図」を参照のこと。



平方のお地藏様と、近くの大枝や大畑のお地藏様

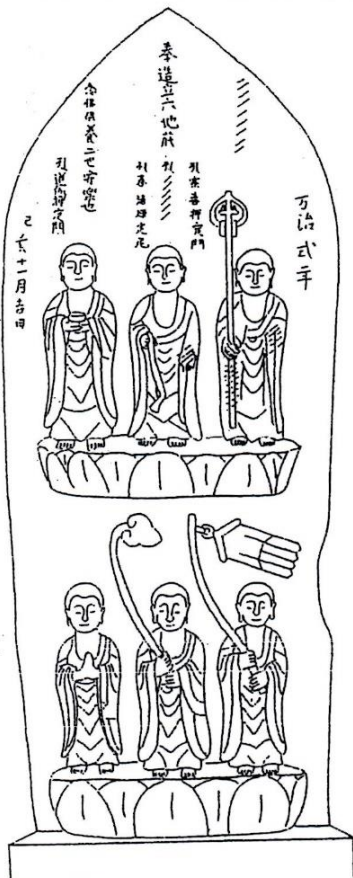
日光街道から東に平方村に入る入口に、お地藏様 (図版・平方1参照) がある。地藏の縁日の八月二十四日の前日に地藏念仏が行われてきた。

このすぐ近くにも同様の地藏信仰が見られる地藏尊がある。大畑村の地藏尊 (丸三家具店の西の路傍) と大枝村の地藏尊 (かつては歓喜院の日光街道沿いにあつたが、現在は歓喜院の墓地に移転) である。

大畑村の地藏尊 (北向き地藏) は平方村と同様に縁日の前日に行われるが、大枝村の地藏尊 (六地藏) は縁日当日の八月二十四日に行われる。向かって左図は、大枝村の地藏尊である。

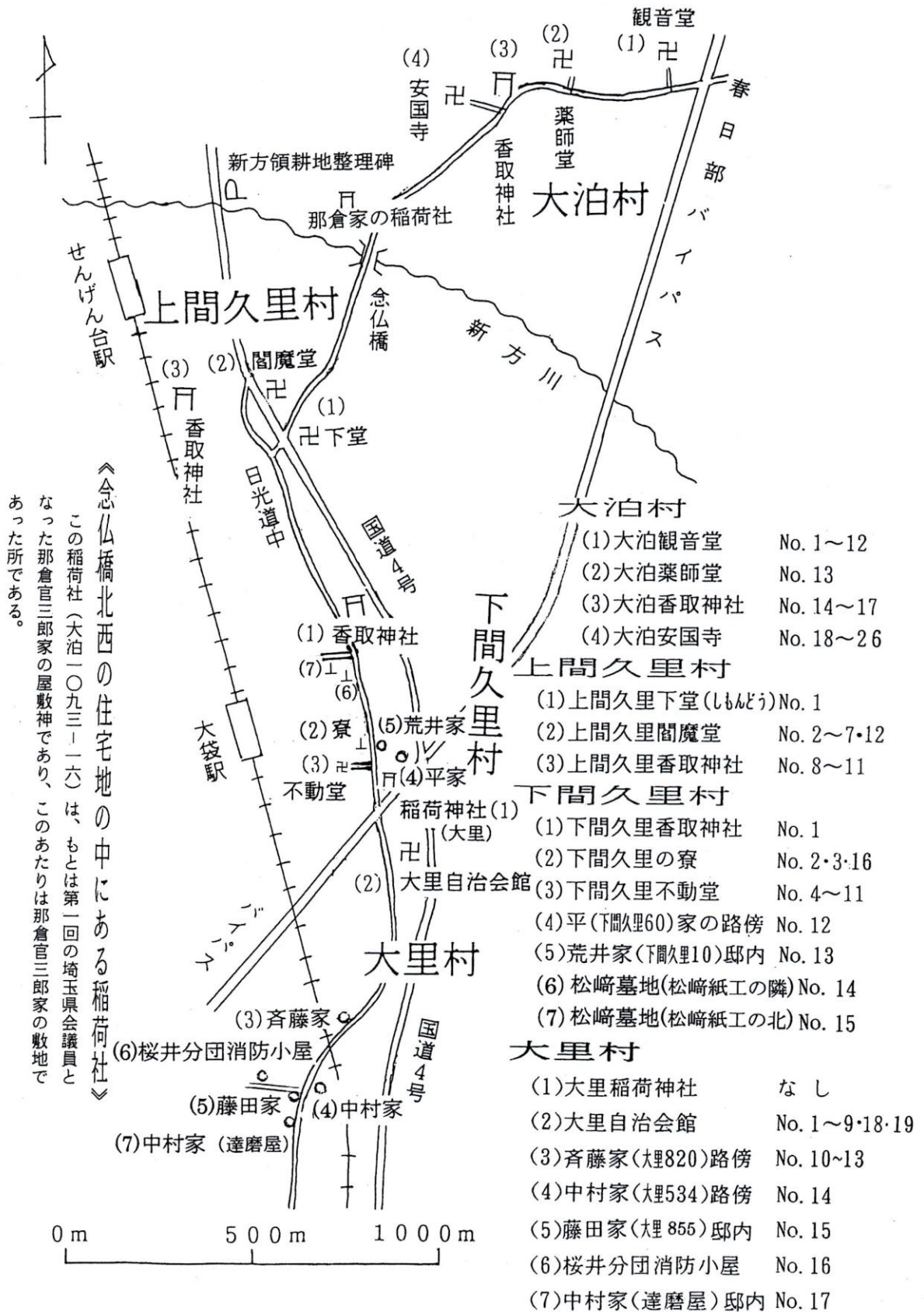
【平方村の隣村、大枝村の地藏尊】

万治貳年

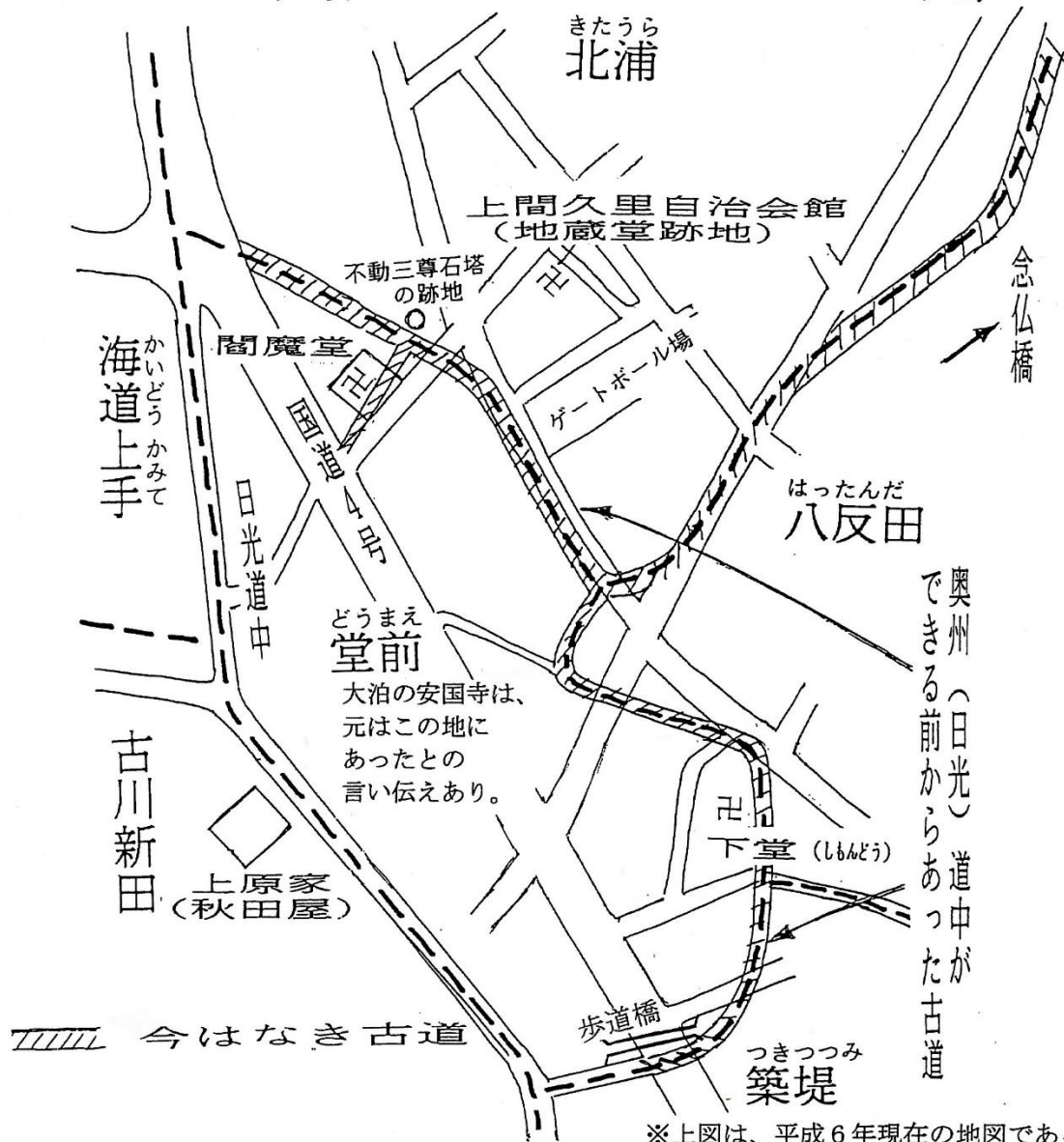


己亥十一月吉日

大泊・上間久里・下間久里・大里の 石仏案内図



旧上間久里村の古道案内図



八軒茶屋と鰻と秋田屋

江戸時代に越谷宿と粕壁宿の中間に八軒茶屋の立場たては（街道の休憩所）が置かれた。この近くの元荒川はもとは大竹村の東側から北方に流れ、袋山村の周囲を回るように曲流し、この八軒茶屋（上間久里村）の西側を南方に進み、大林村西側に流れた。その後、宝永四年（1707）頃に大竹村から大林村の間を荻島村を横切って直道じきどにした。以下は、高崎力氏の研究による。

このかつての元荒川は後に古川と呼ばれ、古川のそばに生けすが置かれ、鰻が飼われて鰻料理の名所となった。

この八軒茶屋にあった秋田屋（上原家）は、秋田藩の佐竹公が大名行列の途中で必ず立ち寄って鰻を味わったところといわれ、この時日光道中は閉鎖され、旅人は東側の古道を通ったと伝えられている。古道はいわば日光道中の臨時のバイパスといえよう。秋田屋の前の道は、大名行列のお供の者たちで埋まっていたのである。

1. 平方

『南の地藏尊』念仏供養塔

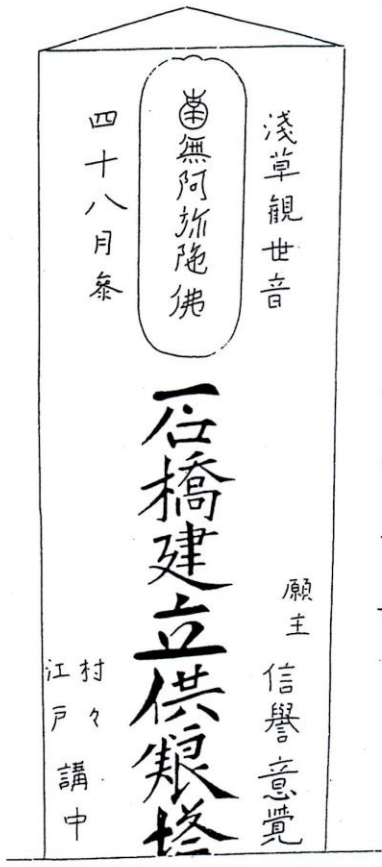


関根家「平方一七六二」路傍

延宝元 (1673)

3. 平方

石橋供養塔

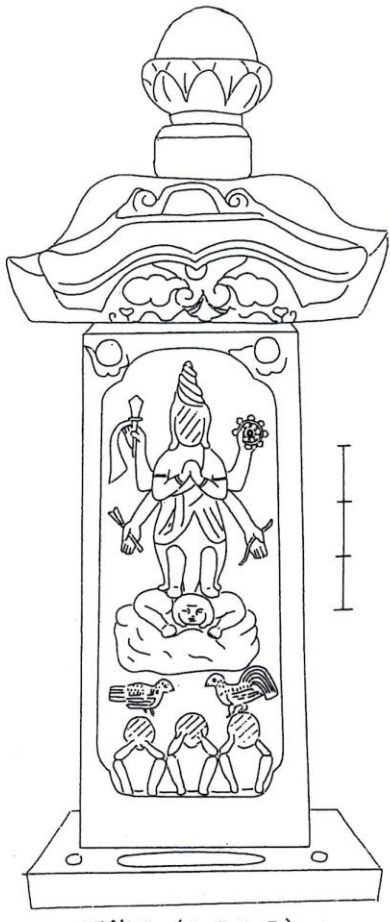


関根家「平方一七六二」路傍

宝曆12 (1762)

2. 平方

青面金剛像庚申塔

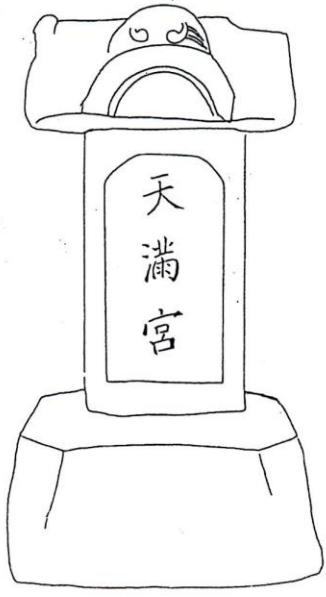


関根家「平方一七六二」路傍

正徳5 (1715)

4. 平方

「天満宮」文字塔



女帝「女体」神社

天保6 (1835)



6^{平方}

文字庚申塔

女帝〔女体〕神社

寛政8 (1796)



5^{平方}

普門品供養塔

女帝〔女体〕神社

文政5 (1822)

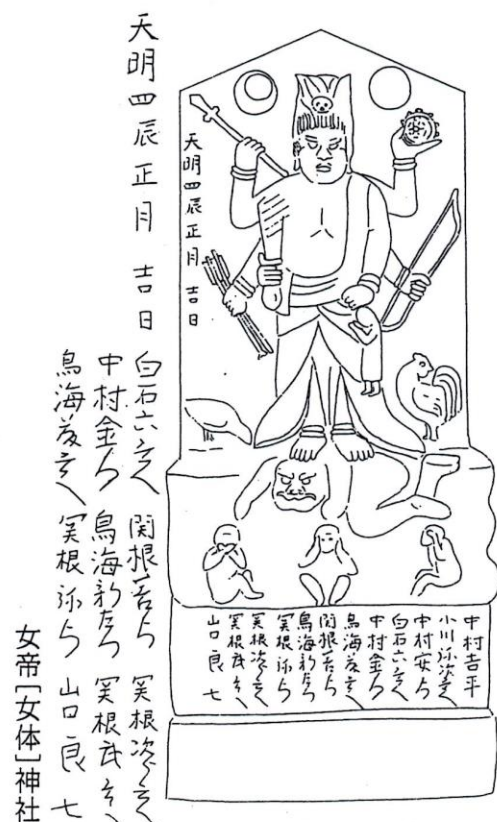


8^{平方}

文字庚申塔

女帝〔女体〕神社

文化5 (1808)



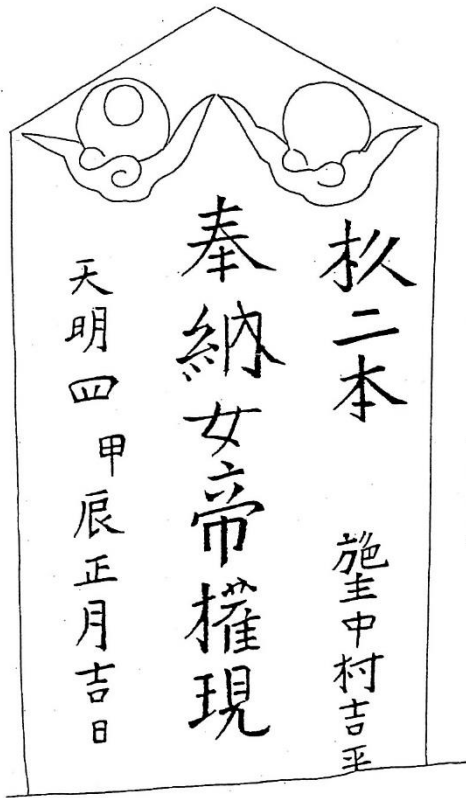
7^{平方}

青面金剛像庚申塔

中村吉平
小川源次
中村安与

女帝〔女体〕神社

天明4 (1784)

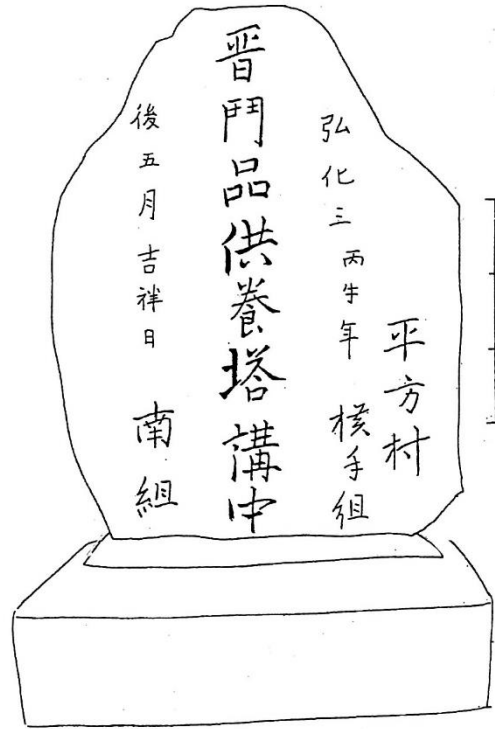


10^{平方}

杉奉納記念塔

女帝〔女体〕神社

天明4 (1784)

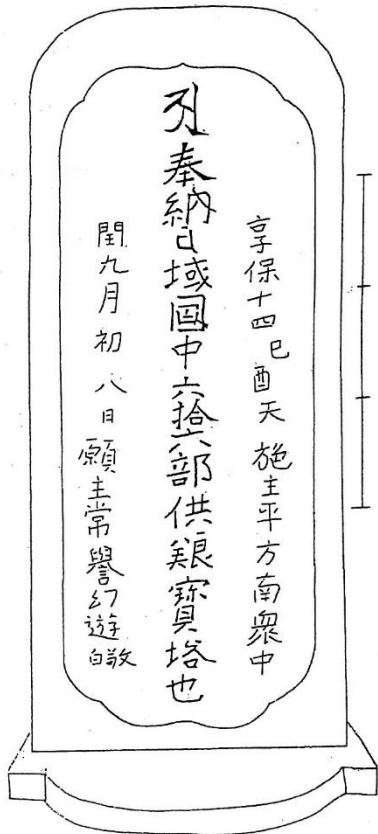


9^{平方}

普門品供養塔

女帝〔女体〕神社

弘化3 (1846)



12^{平方}

六十六部廻国塔

女帝〔女体〕神社

享保14 (1729)



11^{平方}

僧侶の墓塔

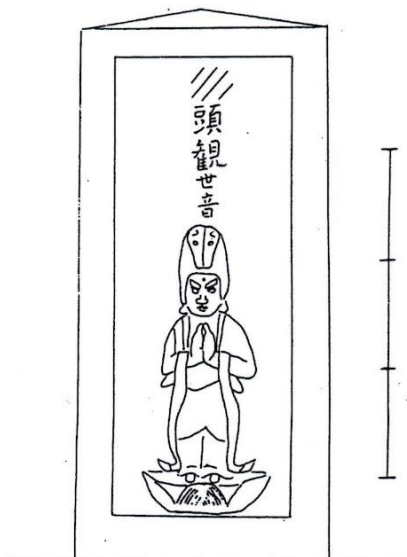
女帝〔女体〕神社

天保10 (1839)

13^{平方}

馬頭観音菩薩像

白鳥家「平方一八〇六」



享和3 (1803)

15^{平方}

宝篋印塔

須賀家「平方一四二」個人墓地



寛保元 (1741)

14^{平方}

道標付き篆書体庚申塔

九ノ里家「平方一三二」路傍

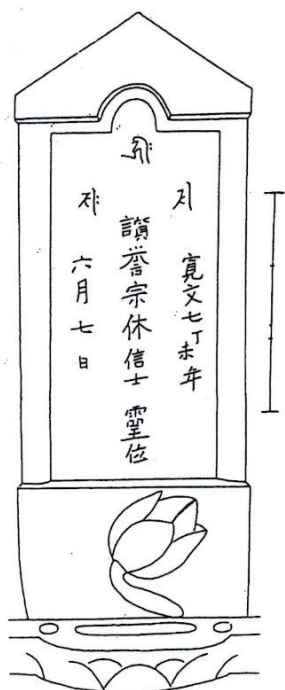


寛政7 (1795)

16^{平方}

板碑型墓塔

中村家「平方一六一」個人墓地



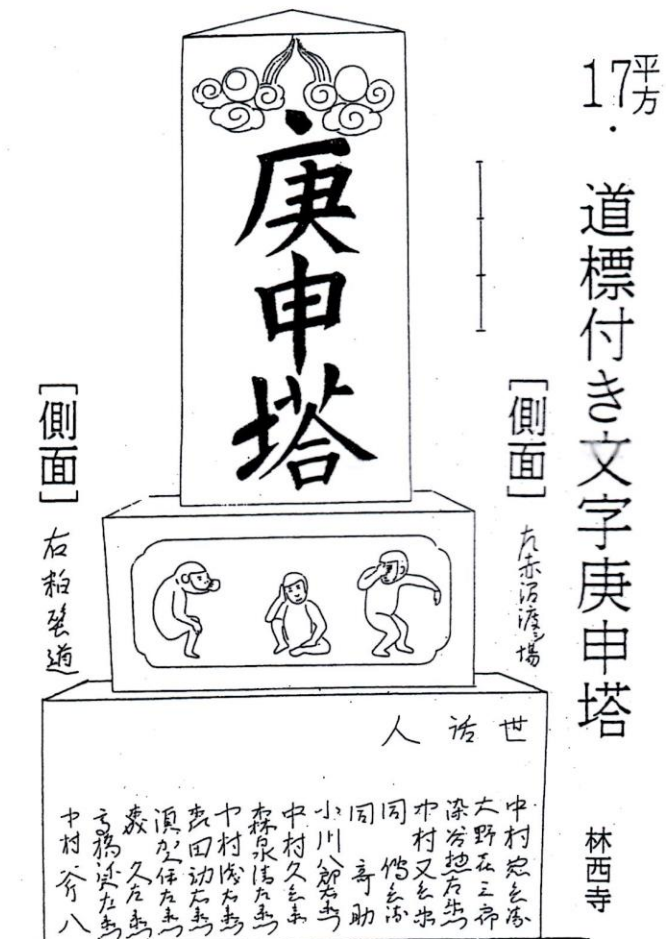
寛文7 (1667)



宝曆13 (1763)

18平方
地蔵像付き六十六部廻国塔

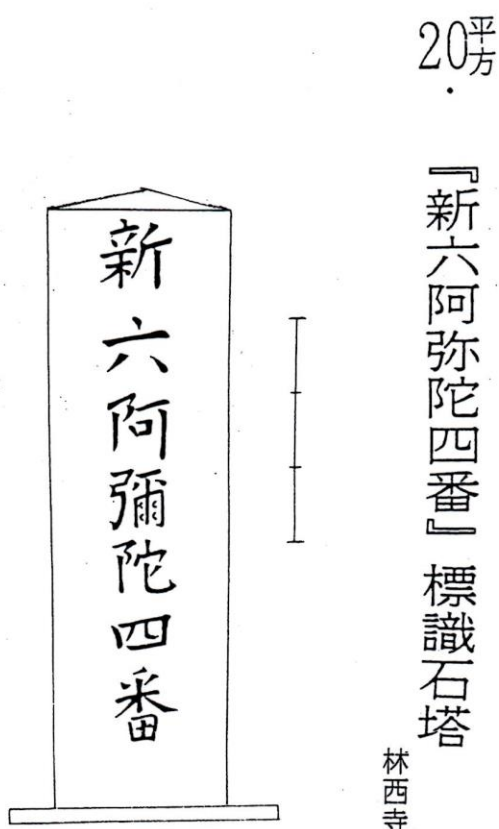
林西寺



万延元 (1860)

17平方
道標付き文字庚申塔

林西寺



天明8 (1788)

20平方
『新六阿彌陀四番』標識石塔

林西寺



宝永5 (1708)

19平方
地蔵菩薩像

林西寺

21^{平方}

青面金剛像庚申塔

林西寺

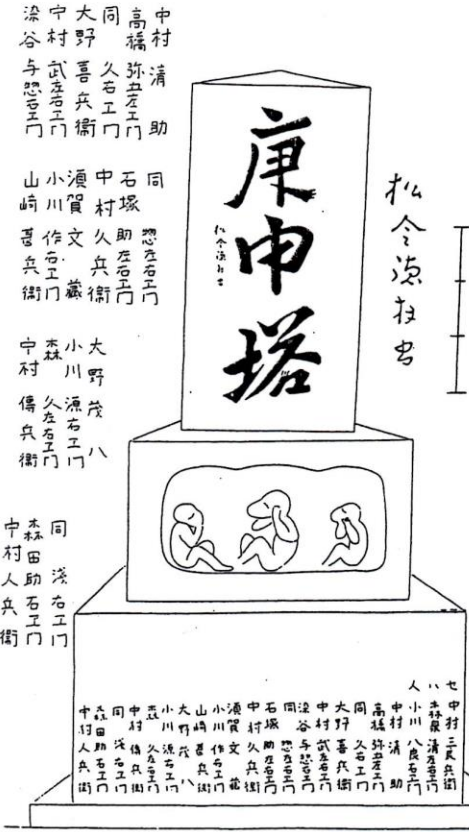


寛政10 (1798)

22^{平方}

文字庚申塔

林西寺



天保4 (1833)

23^{平方}

文字庚申塔

七中村 傳兵衛
八中村 久兵衛
人深谷 惣左工門
大野 喜兵衛

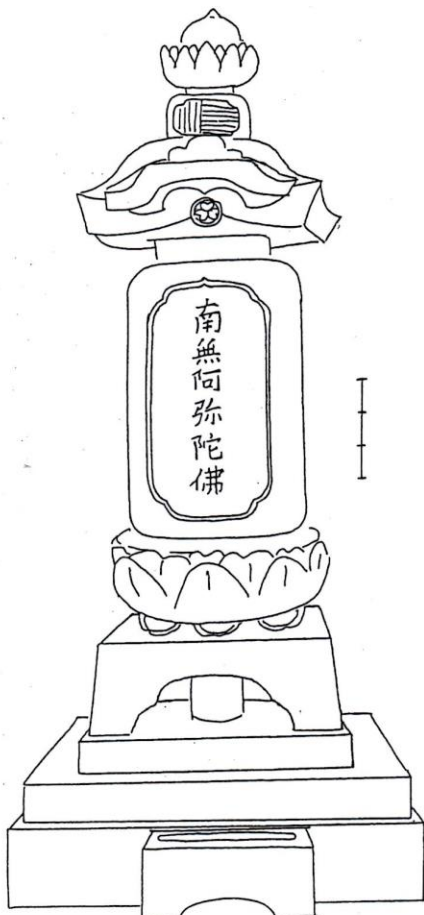


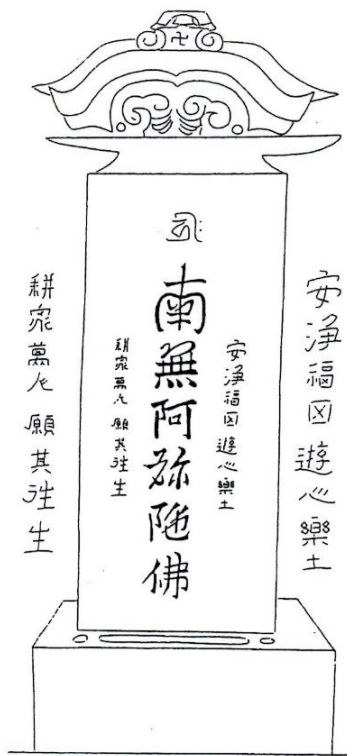
嘉永元 (1848)

24^{平方}

名号塔

林西寺





耕家黨人 願其往生

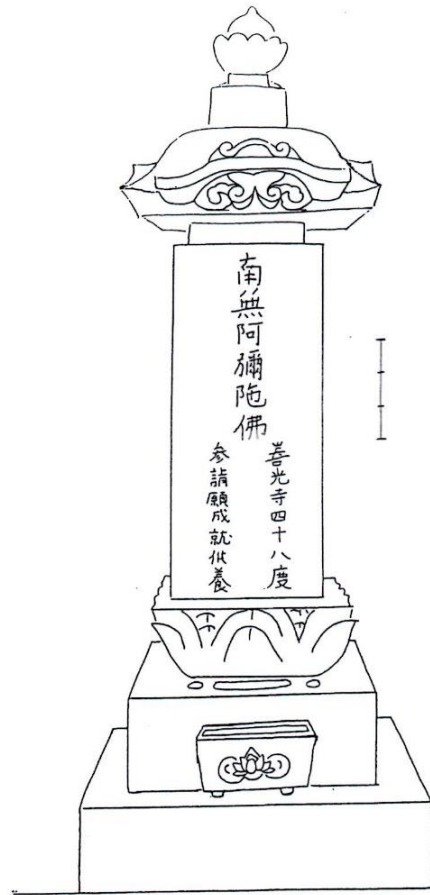
南無阿彌陀佛

安淨福田 遊心樂土

貞享4 (1687)

26平方
名号塔

林西寺

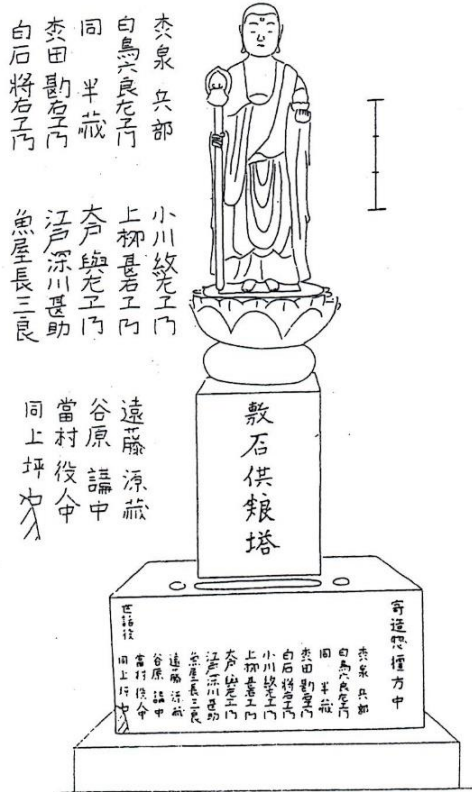


南無阿彌陀佛
善光寺四十八度
參詣願成就伏養

享保11 (1726)

25平方
名号塔

林西寺



奕泉 兵部
白鳥 良左内
同 半藏
奕田 勘右内
白石 将右内

小川 紋充内
上柳 甚右内
大戸 纒左内
江戸 深川 甚助
魚屋 長三 良

遠藤 源藏
谷原 諱中
當村 役人
同上 坪 久

敷石供養塔

寄達御禮方中
奕泉 兵部
白鳥 良左内
同 半藏
奕田 勘右内
白石 将右内
小川 紋充内
上柳 甚右内
大戸 纒左内
江戸 深川 甚助
魚屋 長三 良
遠藤 源藏
谷原 諱中
當村 役人
同上 坪 久

明和3 (1766)

28平方
地藏像付き敷石供養塔 林西寺



即登 彈 應信士
應譽 發 現信士

白子 保六 辛丑 天二月五日

季 密心 童子
妙 輪 信女

27平方
六地藏石幢

林西寺

享保6 (1721)

29^{平方}・子安地藏像



林西寺

安永8 (1779)

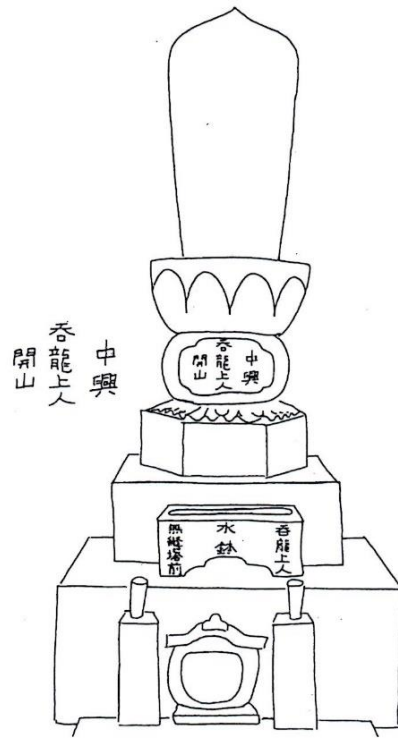
30^{平方}・六地藏石幢



林西寺

正徳5 (1715)

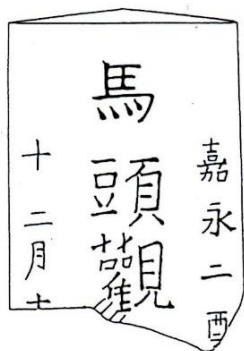
31^{平方}・吞龍上人墓標の無縫塔



林西寺

元和9 (1623)

32^{平方}・「馬頭観音」文字塔



会野川筋跡路傍

嘉永2 (1849)

33^{平方}

地藏菩薩像

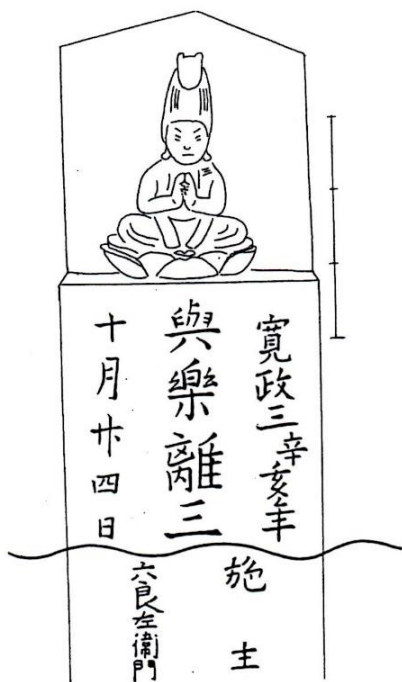
会野川筋跡路傍



34^{平方}

馬頭觀音菩薩像

会野川筋跡路傍



寛政3 (1791)

35^{平方}

馬頭觀音菩薩像

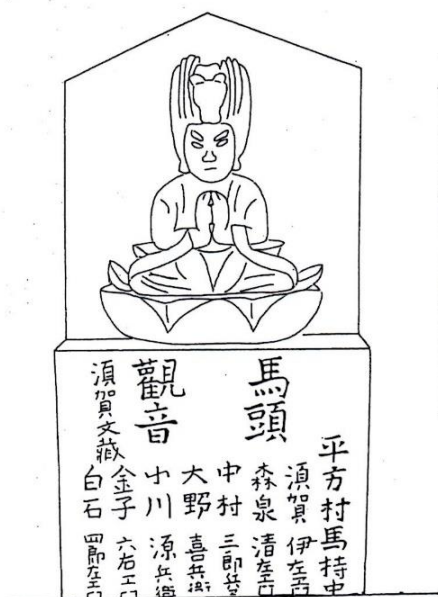
会野川筋跡路傍



36^{平方}

馬頭觀音菩薩像

会野川筋跡路傍

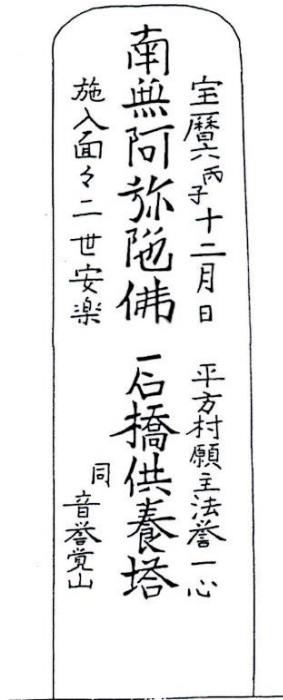


文化5 (1808)

37^{平方}

名号付き石橋供養塔

会野川筋跡路傍

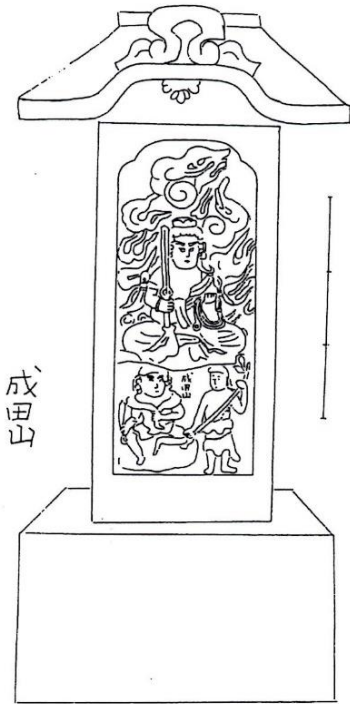


宝曆6 (1756)

38^{平方}

不動三尊像

東組共同墓地そば路傍

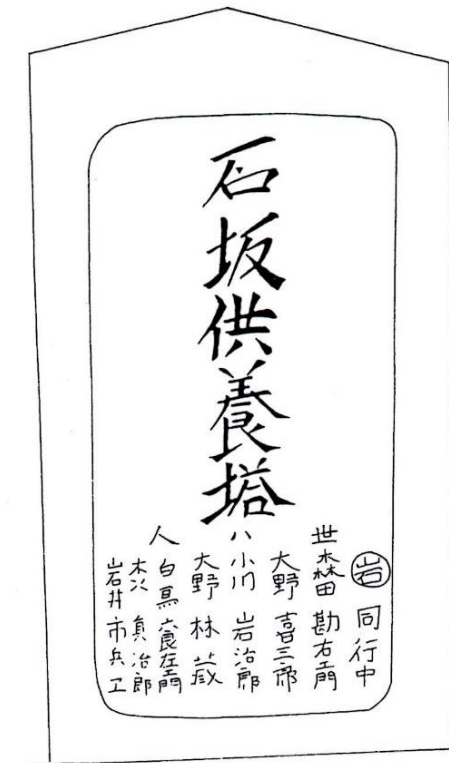


文久4 (1864)

39^{平方}

石段供養塔

浅間神社

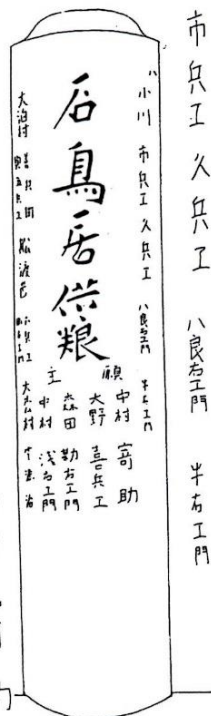


天保14 (1843)

40^{平方}

石鳥居供養塔

浅間神社



文化14 (1817)

大泊村

善五兵工 街

船渡邑

市兵工

主 大泊村 中村 浅右工門

原 中村 喜兵工

大野 喜兵工

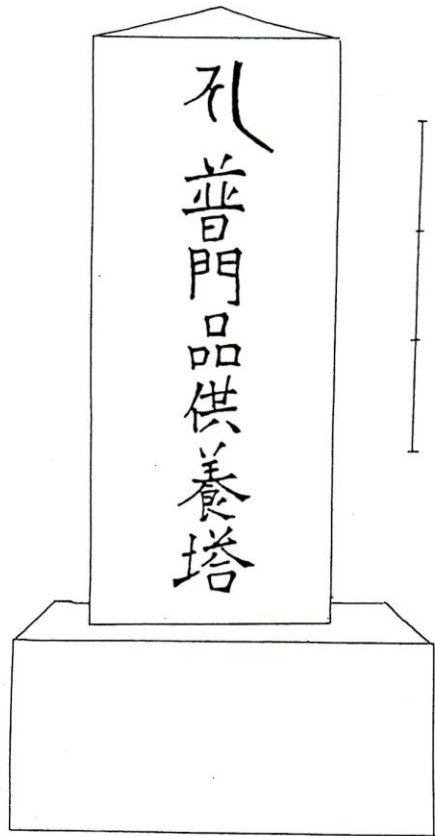
願 中村 喜助

大泊村 宇源治

中村 浅右工門

大野 喜兵工

中村 喜助

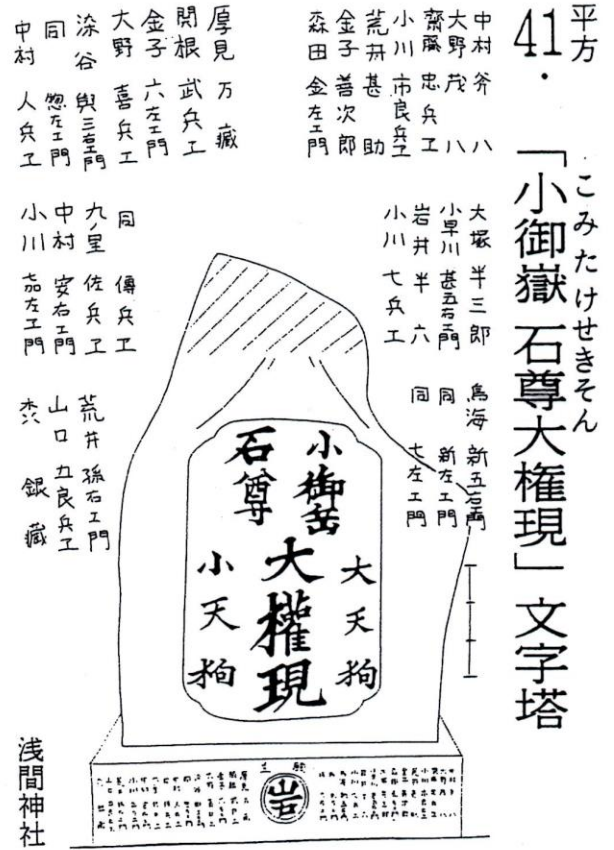


安永8 (1779)

42^{平方}

普門品供養塔

鹿島神社

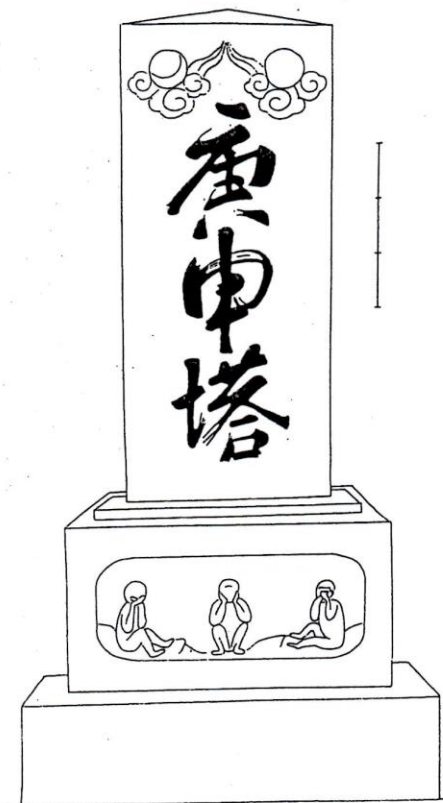


天保14 (1843)

41^{平方}

「小御嶽石尊大權現」文字塔

浅間神社

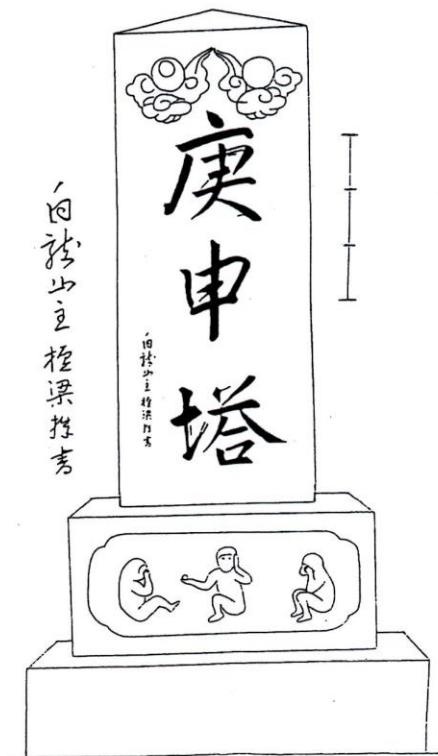


天保9 (1838)

44^{平方}

文字庚申塔

鹿島神社

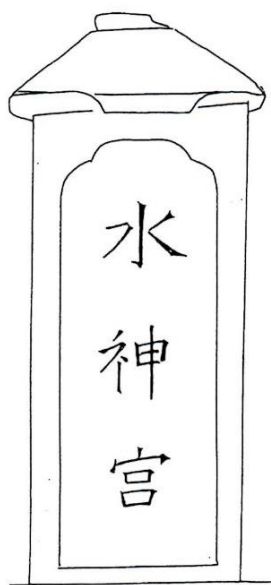


安政2 (1855)

43^{平方}

文字庚申塔

鹿島神社



嘉永4 (1851)

46^{平方}

「水神宮」文字塔

鹿島神社

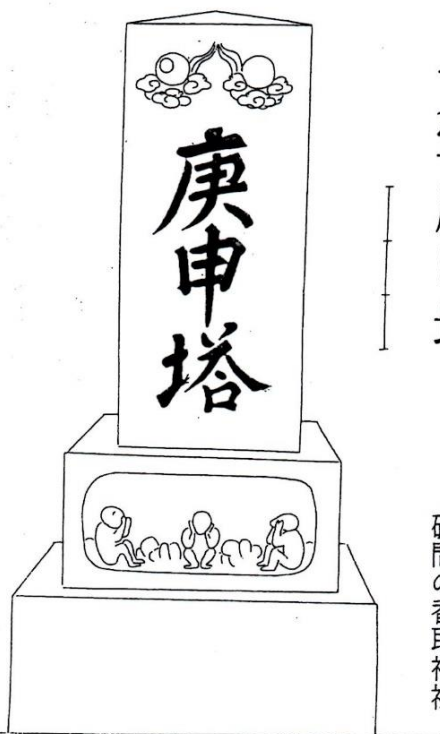
45^{平方}

文字庚申塔



寛政10 (1798)

鹿島神社



天保13 (1843)

48^{平方}

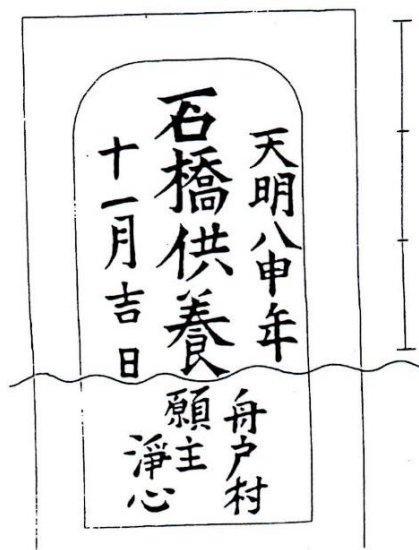
文字庚申塔

砂間の香取神社

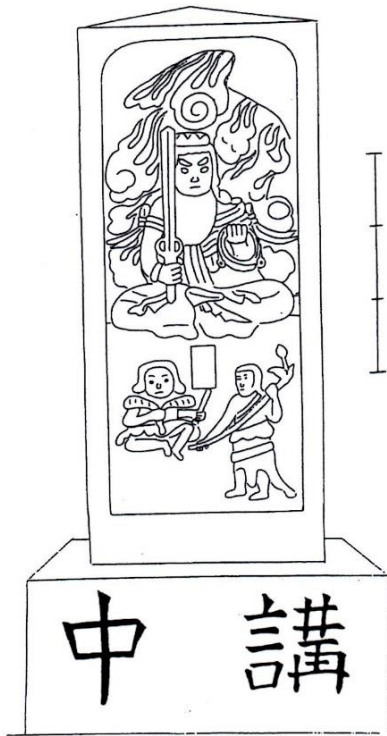
47^{平方}

石橋供養塔

小川家「平方五二」近辺



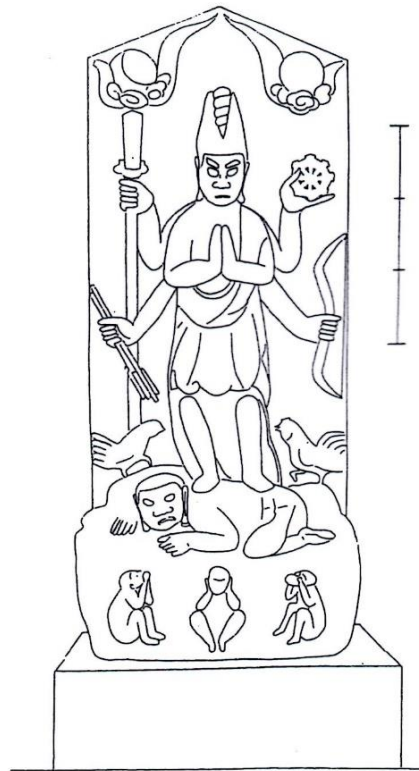
天明8 (1788)



元治元 (1864)

50^{平方}
・
不動三尊像

戸崎墓地



安永6 (1777)

49^{平方}
・
青面金剛像庚申塔

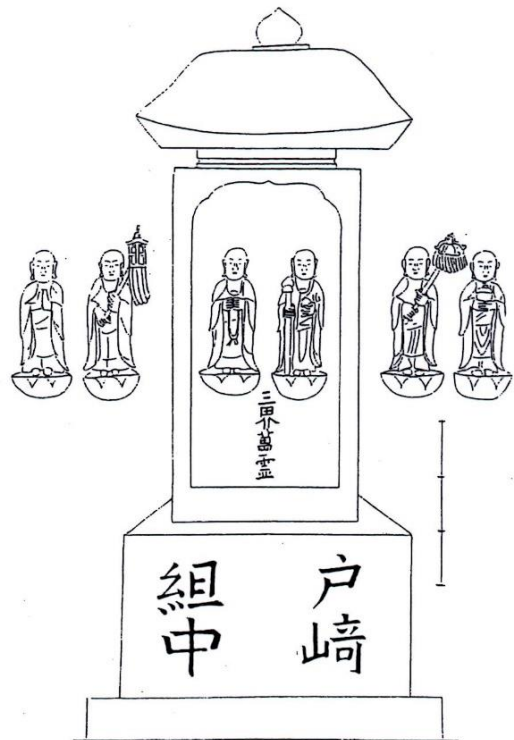
砂間の香取神社



文化9 (1811)

52^{平方}
・
十三仏像容塔
ぞうよう

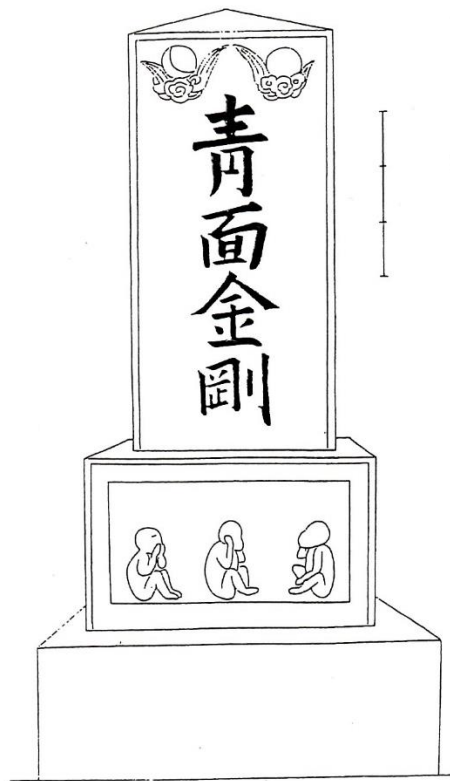
戸崎墓地



文化2 (1805)

51^{平方}
・
六地藏塔

戸崎墓地

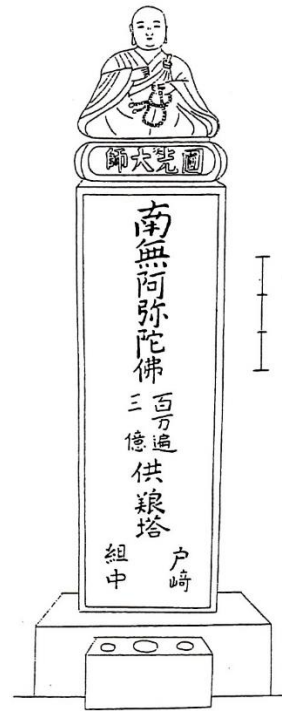


54^{平方}

文字庚申塔

戸崎稻荷神社

文化4 (1807)

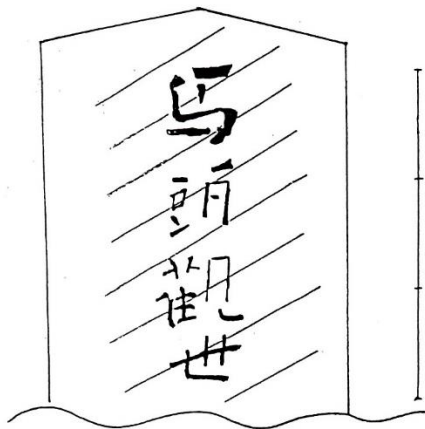


53^{平方}

丸彫り法然像付き名号塔

戸崎墓地

寛政4 (1792)

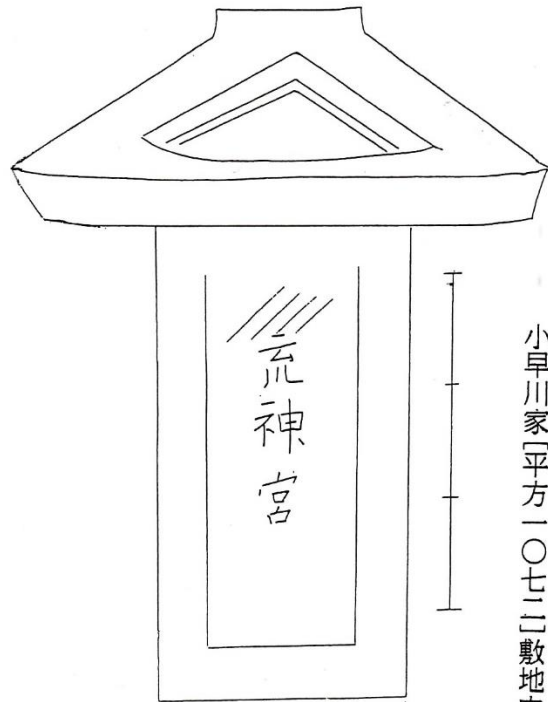


56^{平方}

「馬頭観音」文字塔

小阜川家「平方九六三」路傍

嘉永4 (1851)



55^{平方}

「荒神宮」文字塔

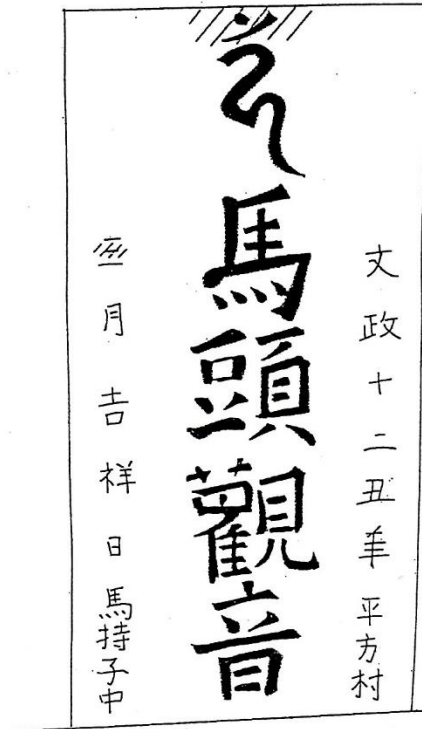
小阜川家「平方一〇七二」敷地内

延享3 (1746)

57^{平方}

「馬頭観音」文字塔

小阜川家「平方九六三」路傍



文政12 (1829)

58^{平方}

地蔵菩薩像の墓塔

大塚家「平方一一〇〇」路傍

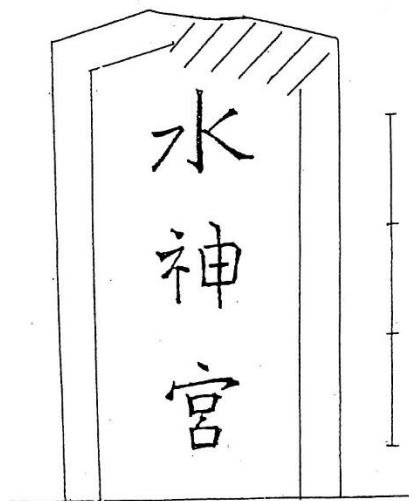


享保8 (1723)

59^{平方}

「水神宮」文字塔

赤沼の渡し場跡地



天保6 (1835)

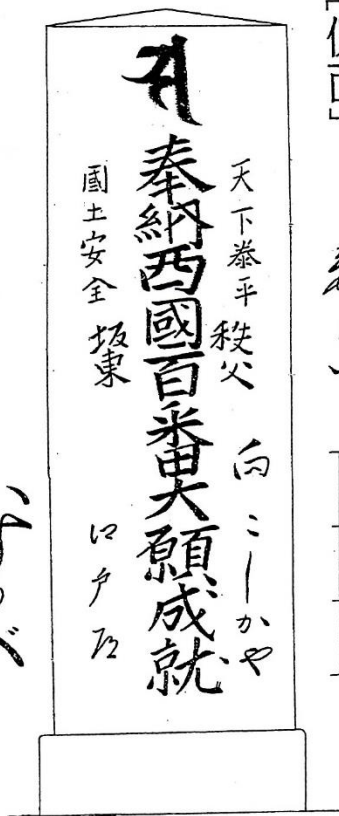
60^{平方}

道標付き百箇所巡礼塔

大塚家「平方一二〇二」邸内

「側面」

右 向かぬま 左 へんま



寛政6 (1794)

62^{平方}

「本宮大権現」文字塔

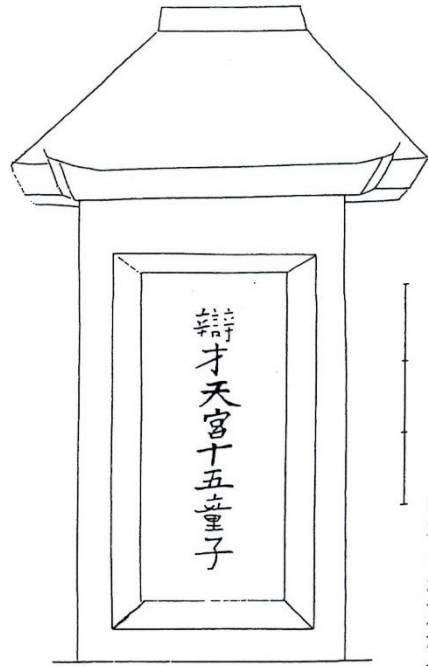


享和3 (1803)

山谷の香取神社

61^{平方}

「弁才天十五童子」文字塔

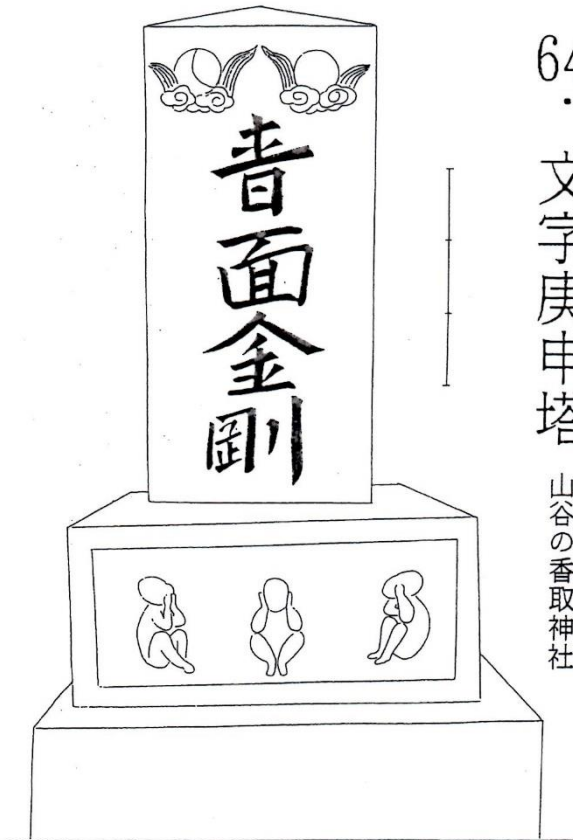


寛保2 (1742)

山谷の香取神社

64^{平方}

文字庚申塔

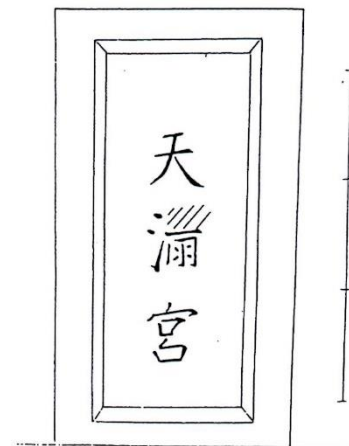


寛政8 (1796)

山谷の香取神社

63^{平方}

「天満宮」文字塔



山谷の香取神社

65^{平方}

如意輪觀音像庚申塔

覚山坊墓地「山谷共同墓地」

万治三^子庚申之供養十二人



万治3 (1660)

66^{平方}

千手觀音像付き念仏塔

覚山坊墓地「山谷共同墓地」

十月吉日

武^子菅^新方^村新^方莊

平^方村

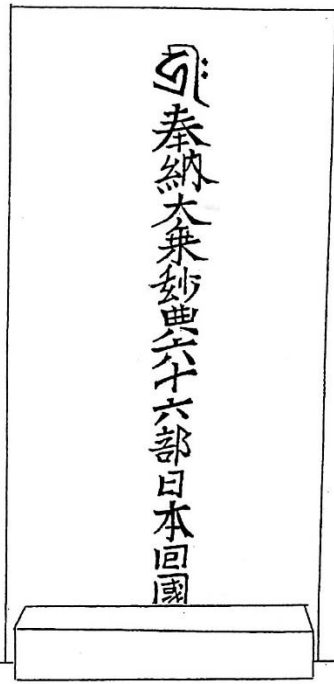


寛文12 (1672)

67^{平方}

六十六部廻国塔

クミ美容室そばT字路

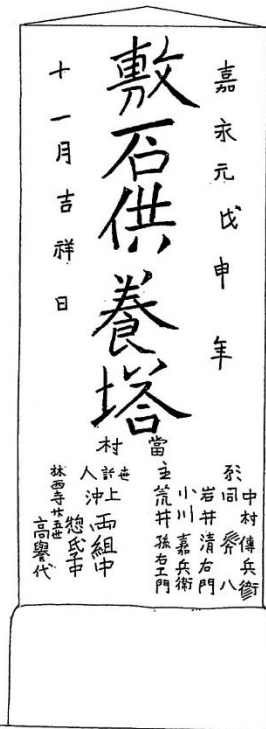


宝永6 (1709)

68^{平方}追加

敷石供養塔

林西寺



嘉永元 (1848)

69^{平方}追加

文字庚申塔

小早川家「平方一〇七二」近くの路傍



明治3 (1870)

1. 大泊

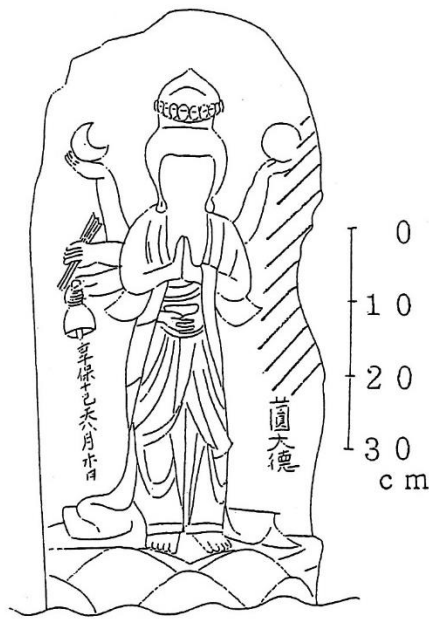
六観音石幢



宝曆5 (1755)

2. 大泊

千手観音菩薩像



享保10 (1725)

3. 大泊

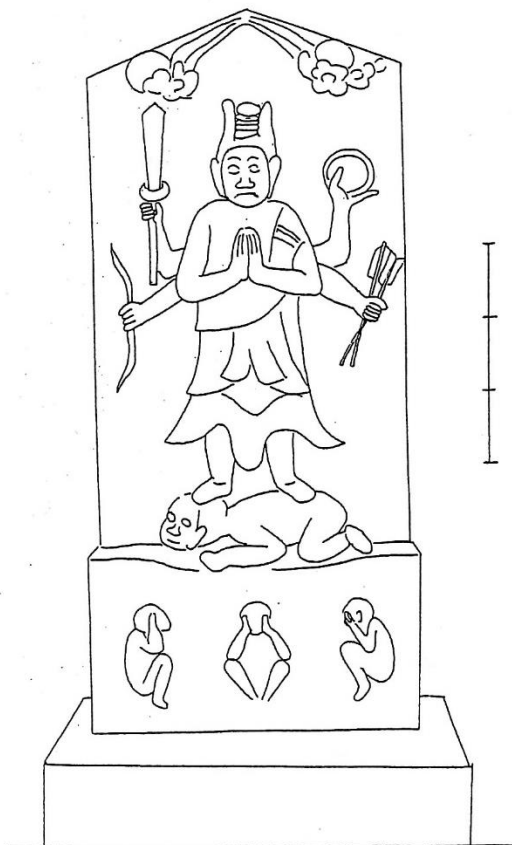
文字庚申塔



寛政9 (1797)

4. 大泊

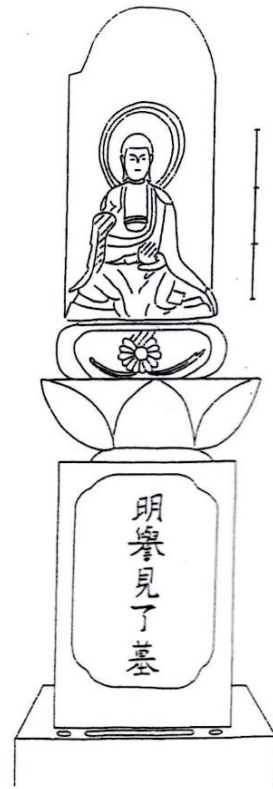
青面金剛像庚申塔



天明元 (1781)

9 大泊

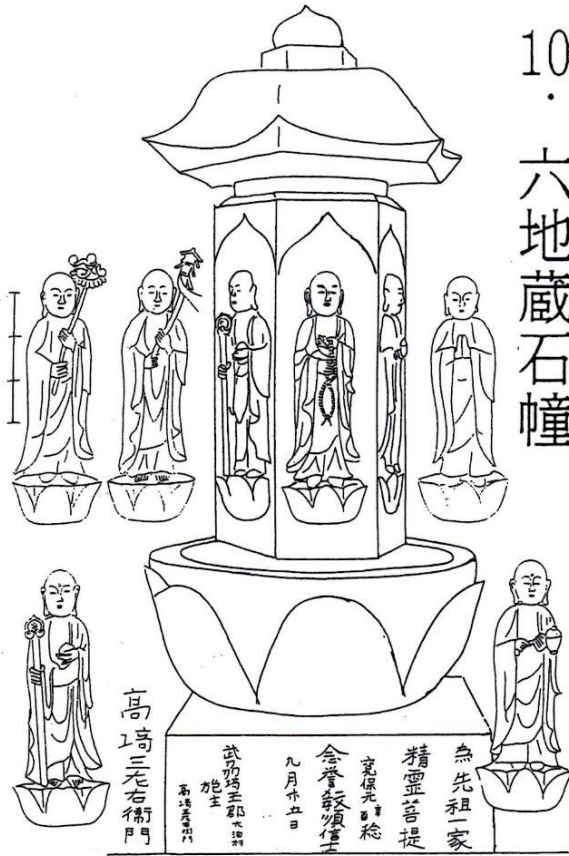
地蔵菩薩像の墓塔



大泊観音堂

10 大泊

六地蔵石幢



大泊観音堂

寛保元 (1741)

11 大泊

六地蔵石幢

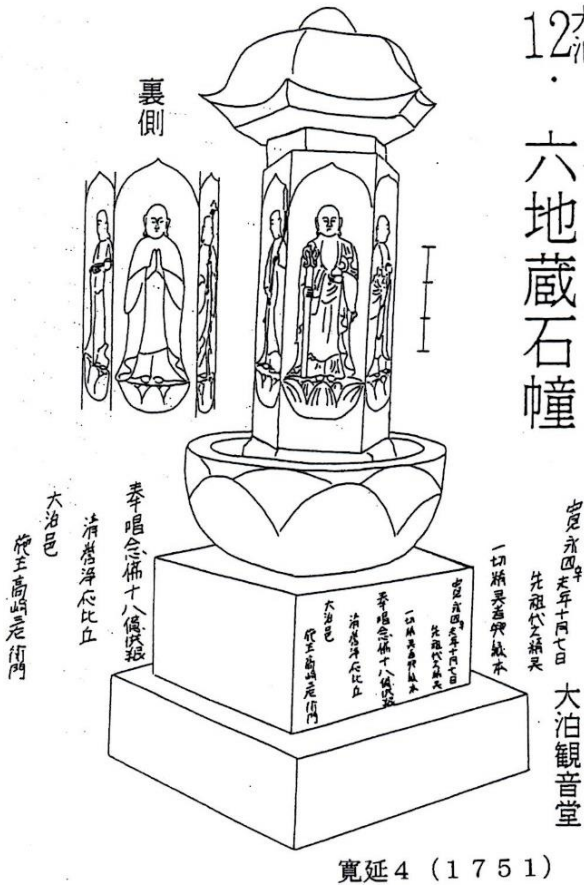


大泊観音堂

享保8 (1723)

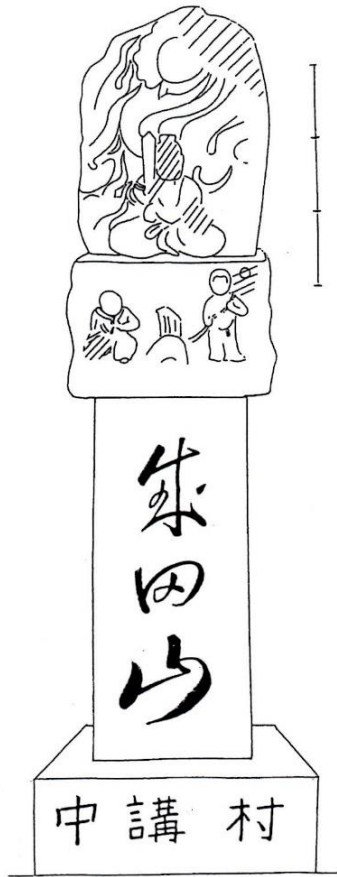
12 大泊

六地蔵石幢



大泊観音堂

寛延4 (1751)



慶応2 (1866)

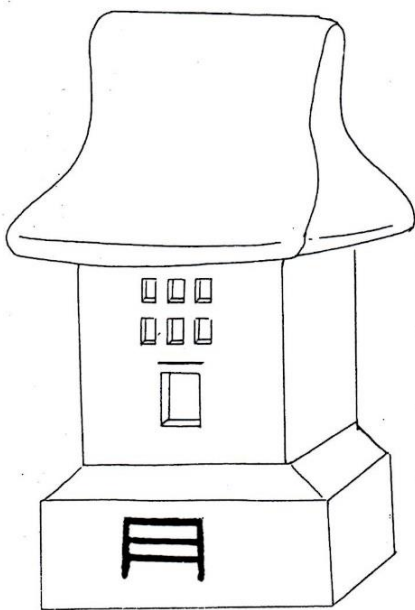
14^{大泊}
不動三尊像

大泊香取神社



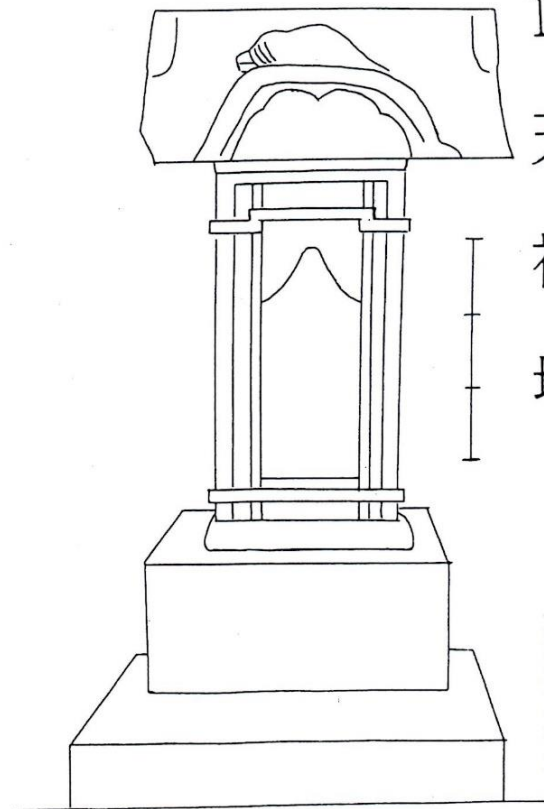
享保18 (1733)

13^{大泊}
浮彫三尊像付き墓塔
大泊薬師堂



16^{大泊}
四十九院塔

大泊香取神社



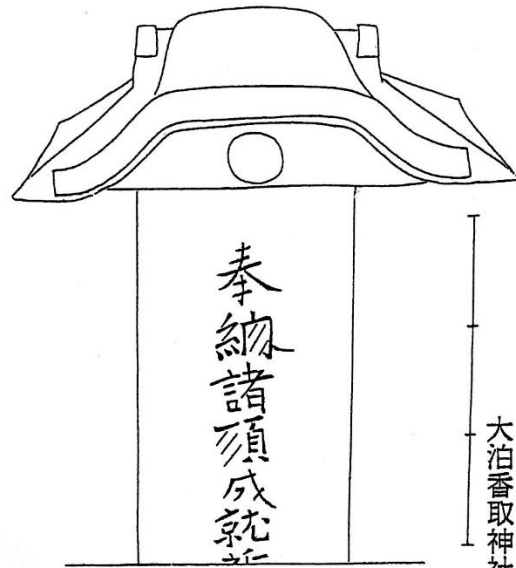
文化10 (1813)

15^{大泊}
天神塔

大泊香取神社

17^{大泊}

「諸願成就」文字塔



大泊香取神社

宝永5 (1708)

18^{大泊}

雨乞いの名号塔

〔側面〕

かまぐれ
いほちとほふ
かへりり
神のまぐら
るのうたて
まご

南無阿弥陀佛

宏喜号

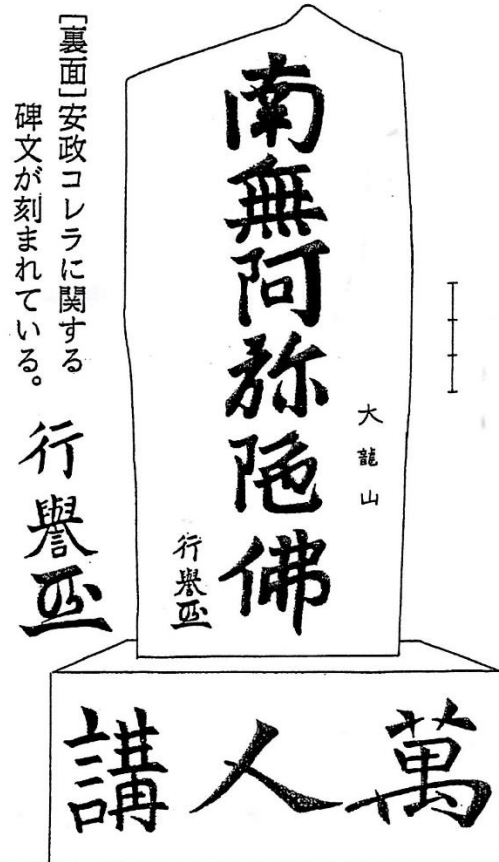
雨 請

安国寺

慶応3 (1867)

19^{大泊}

安政コレラの名号塔



大龍山

行譽正

〔裏面〕安政コレラに関する
碑文が刻まれている。

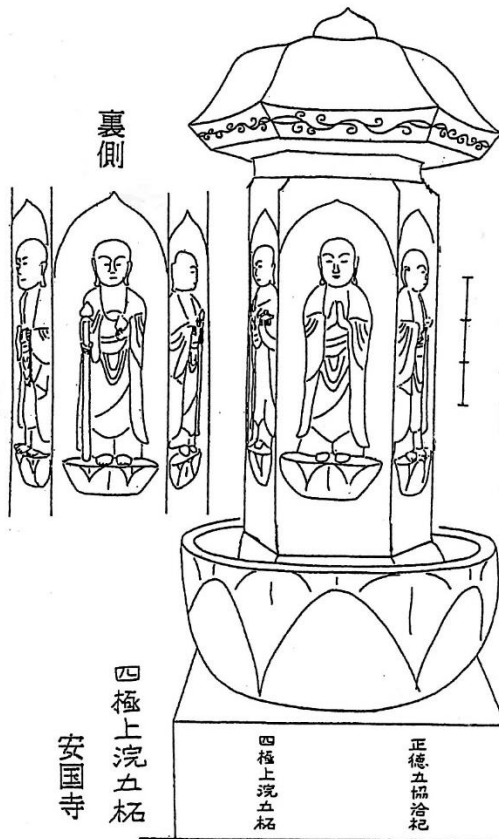
行譽正

安国寺

安政6 (1859)

20^{大泊}

六地藏石幢



裏側

四極上浣五柘

安国寺

四極上浣五柘

正徳五協洽祀

正徳五協洽祀

正徳5 (1715)

去年七月をのめいとおぼしき疾も亦初て世やふりてやみの一ア醫もえんひまをこふあつは
 何れふもそのあけうせし人よいくせいくのかとあつたの爲とて八月廿七日より

十月をの月もつてさうなれば精念ふつと心種々れんてまおわのたは陀佛の門名唱へて
 とくひつるはひともふあもあつたさるるのうきれかるふとておせふハ

あつたは其功徳の自もむひもあつたさるるのうきれかるふとておせふハ
 ありとてあつたは、いよけせうもあつたさるるのうきれかるふとておせふハ

一、其の昔ふのつぎふのほもあつたさるるのうきれかるふとておせふハ
 一、其の昔ふのつぎふのほもあつたさるるのうきれかるふとておせふハ

安政コレラの碑

去年の七月はかりいとあやしき疾出来 初て世中なへてやみのしり 医むかへん ひまたにあらで
 あはれにも はかなくうせにし人よ いくそハくか かそへも尽ぬ それか為にとて 八月廿七日より
 十月望の日までころある限 此精舎につとひ 種々の手向して 昼夜わかす 弥陀仏の御名唱へて 懇二
 とふらひつる 此ひとくハ 露もやミたるハあらざりき せらるハ おのか志しの為にとて 物せしにハ
 あらねど 其功徳の自にむくひきぬる故にやあらんと いとまたふとく 覚えて 此度碑をつくり
 尚もとてなん かくれハ いよく 此世は万の禍事をのかれ さきくならへて 後の世は彼人々とくもに
 一つ蓮の台にのり 常に月の御面をあふかん事 疑ふへくもあらすなん 其所由する さまく
 言葉の拙きを かへりみず やかて筆をとる

人の身は あさきねさしの 芝なれや しものおくにも かれぬはかりそ
 ミつせ川 わたりわつらふ 人しあらハ 手火をしとりて するへをハせん

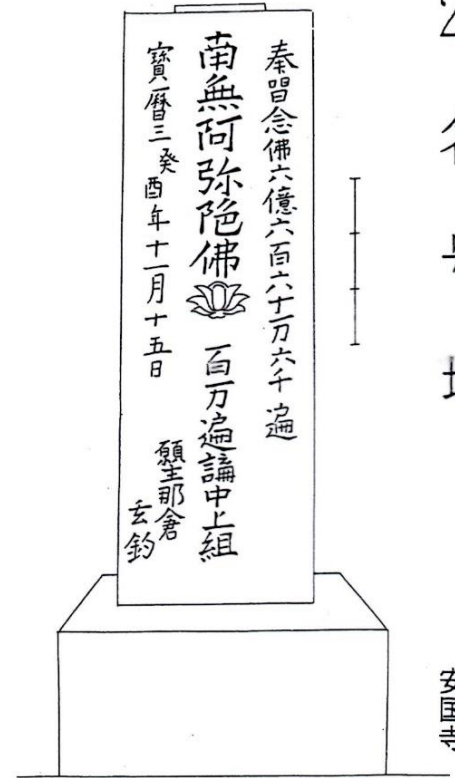
安政六年十月 行 誉 宏 善
 石工春日部宮仙蔵

※ののしる…勢いが盛んである いくそばく(幾十許)…幾何 わかす…分かす さきく…幸いに

安国寺の
 『19. 安政コレラの名号塔』
 の裏面の碑文より

※碑文のスケッチは加藤幸一

21^{大泊} · 名号塔



安国寺

宝曆3 (1753)

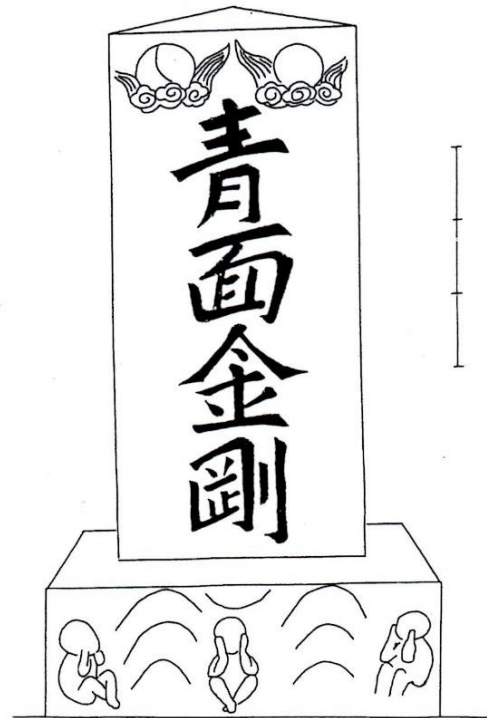
22^{大泊} · 青面金剛像庚申塔



安国寺

享保6 (1721)

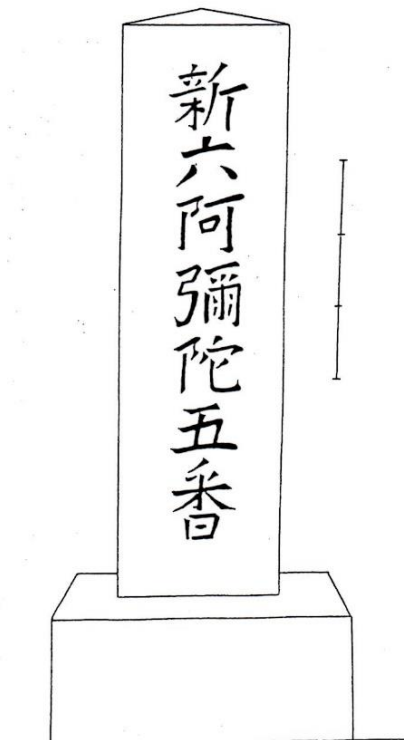
23^{大泊} · 文字庚申塔



安国寺

寛政9 (1797)

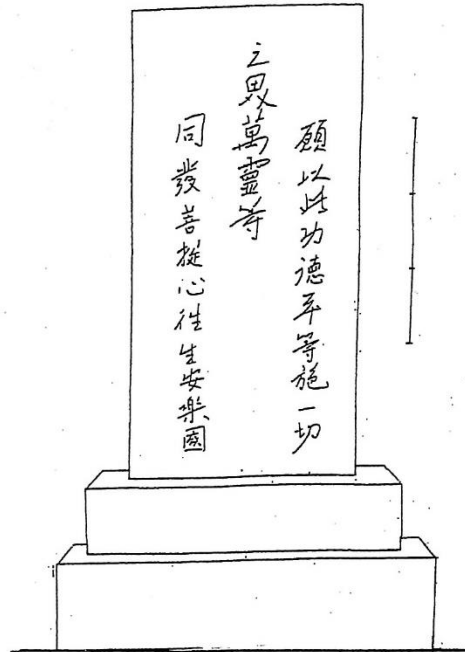
24^{大泊} · 『新六阿弥陀五番』標識石塔 安国寺



天明8 (1788)

25^{大泊}

三界万霊塔

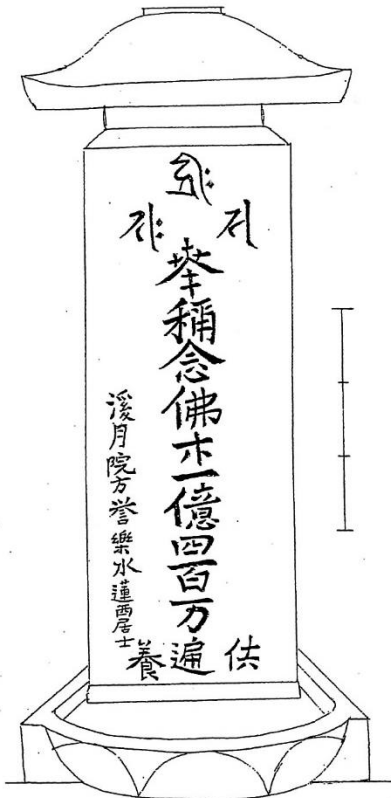


安国寺

弘化4 (1847)

26^{大泊}

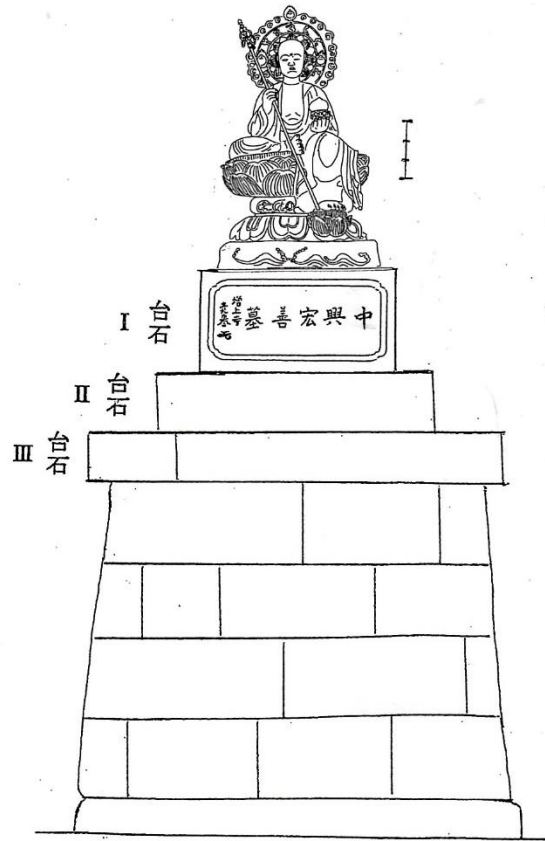
念仏供養塔



安国寺

〔参考〕安国寺中興・宏善上人の墓塔

安国寺

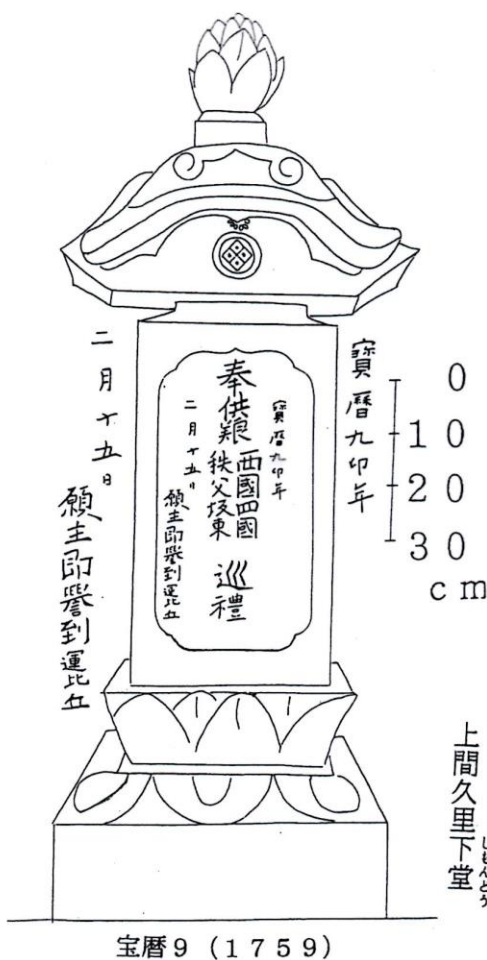


明治25・6年 (1892~93)

頭光には、地藏尊の真言「オン・カ・カ・カ・カ・ビ・サンマ・エイ・ソワ・カ」の梵字が、一番上の「オン」から始まって、時計回りに刻まれている。図では、「オン・カ・カ・カ」と「エイ・ソワ・カ」の梵字が見られる。



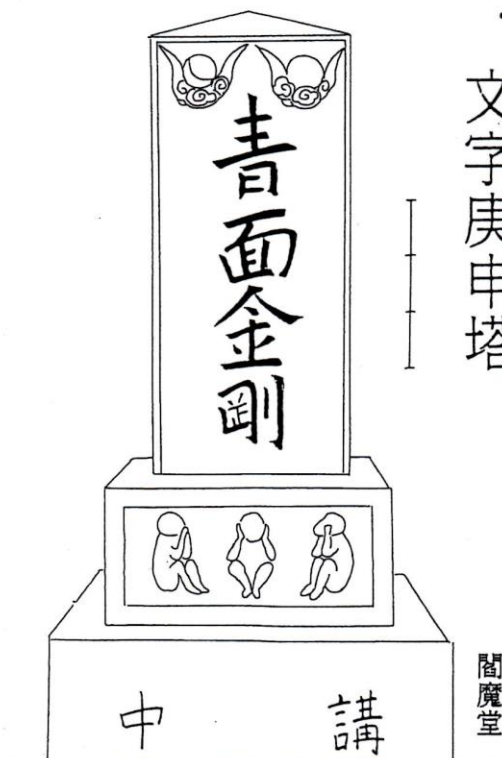
1. 上間久里
百八十八箇所巡礼塔



宝暦9 (1759)

上間久里下堂
しほんどう

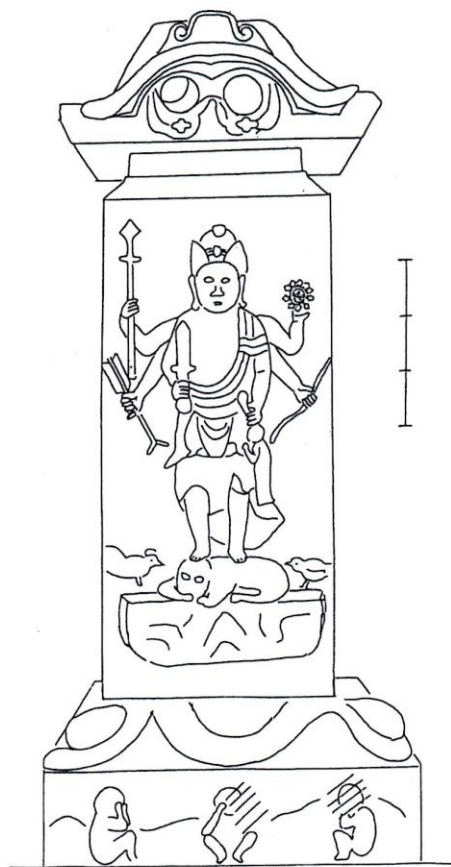
2. 上間久里
文字庚申塔



寛政7 (1795)

閻魔堂

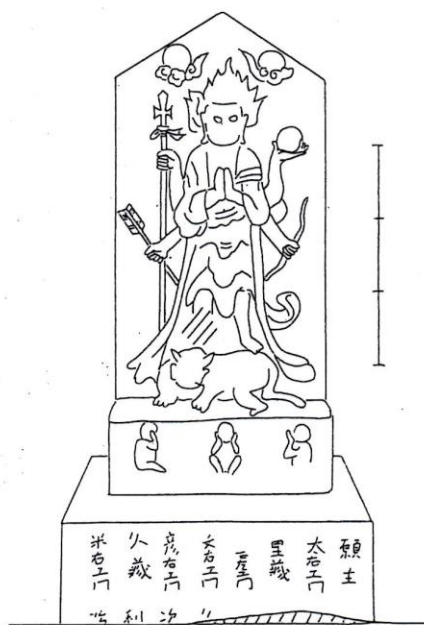
3. 上間久里
青面金剛像庚申塔



享保16 (1731)

閻魔堂

4. 上間久里
青面金剛像庚申塔



明和2 (1765)

願主
閻魔堂

願主
大右工門
里藏
三右工門
文右工門
彦右工門
久藏
米右工門
治

不動三尊線刻像(明治十八年)

發起

吉岡重太郎

三原治郎右衛門

伊川院法印榮信



印法 藤原
榮信



鶴
龜
山
鑿

村内後安全安置之

鶴
龜
山
鑿

吉岡重太郎
三原治郎右衛門

世話人

上原源太郎
上原金治郎
小倉三吉
上原勝治郎

神社

世話人
關根團藏
田川新三郎
上原佐兵衛
田川松五郎

模写 加藤幸一

上間久里閣魔堂南東側道路沿い

- ・上の図は、平成6年にスケッチしたものである。
その後、大きく四つに割れて破損したが、接着して修復され、現在に至る。
- ・次頁の野田市愛宕神社境内にある不動三尊線刻像の図柄が、大きさも含め、これとほぼ同じであることを平成24年に発見した。
- ・また、平成25年2月に野田市在住の元・越谷市郷土研究会理事の木原徹也氏にこの石塔に関する調査を依頼したところ、野田市五木の香取神社にも「伊川院法印榮信」（表面）と刻まれ、裏面には建立年月日「明治二十年十一月十三日」と刻まれたほぼ同じ大きさと図柄の石塔があることも判明した。

文久二年（一八六二）造立

伊川院法印榮信筆

藤原
信榮

〔裏面〕

文久二季歲次
壬戌夏五月吉日

願主
宮田源右工門
待山惣七

世話人
伊東平兵衛
小張四郎兵衛
岡野与吉

石工
古谷津熹兵衛

當院現住法印榮存代

葛西坂堅希撰

葛西坂堅希撰

菅本知卜刻

菅本卜刻



伊川院法印榮信筆

下總州成田山不動尊為
世所依者於其變為
故人之祈請者結社
而轉心其通財者為
力同願至者其常夜
堂宇者築壇者其佛
燈者備磬道者其德
所識其生與同社人
碑於山內勒以當伊
先生所製佛像來請
之道彼管日善哉燈
真者其志美矣然若
備滄桑而得者為公
使世人之德所舉之
於世則佛之舉之最
尚也文政丁亥三月
葛西坂堅希撰

模写 加藤幸一
上間久間の図案をもとにして作成

野田市愛宕神社境内

上間久里

5. 阿弥陀如来像付き念仏塔

四念佛誦中 菩提也

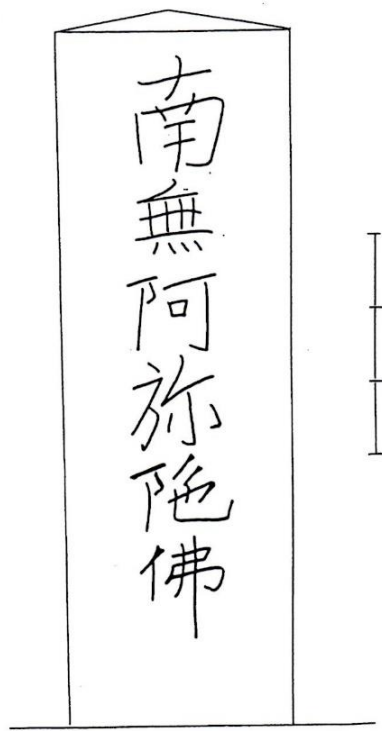
閻魔堂



寛文4 (1664)

上間久里
6. 名号塔

閻魔堂

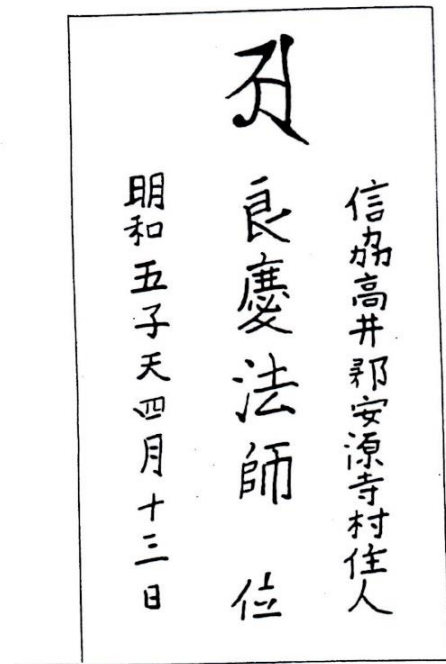


文久2 (1862)

上間久里

7. 信州出身僧侶供養塔

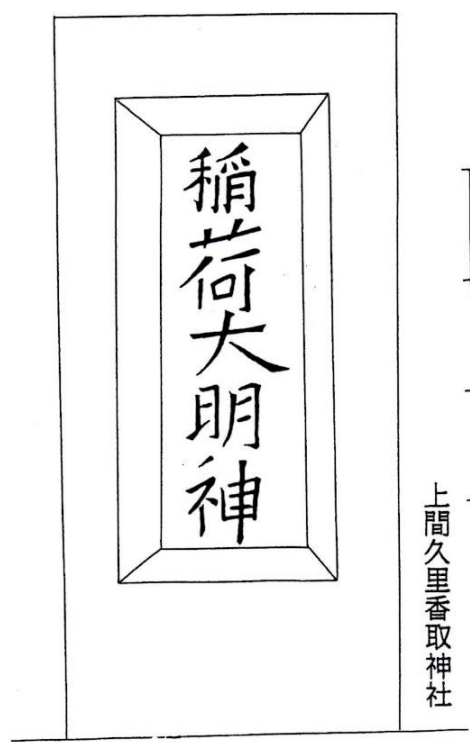
閻魔堂



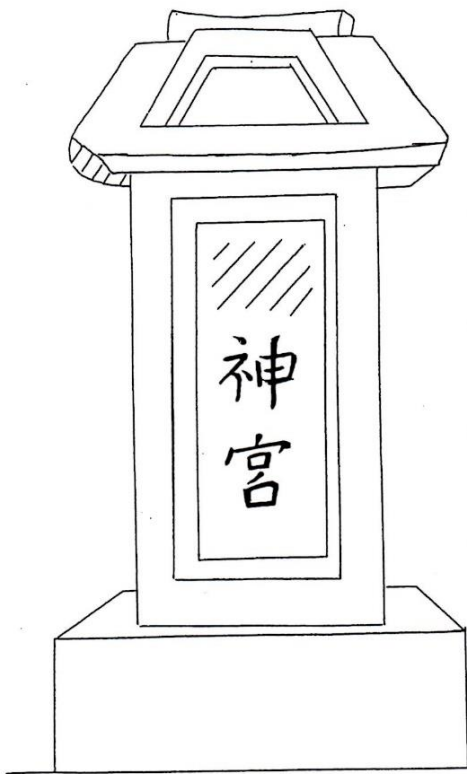
明和5 (1768)

上間久里
8. 「稻荷大明神」文字塔

上間久里香取神社



延享元 (1744)

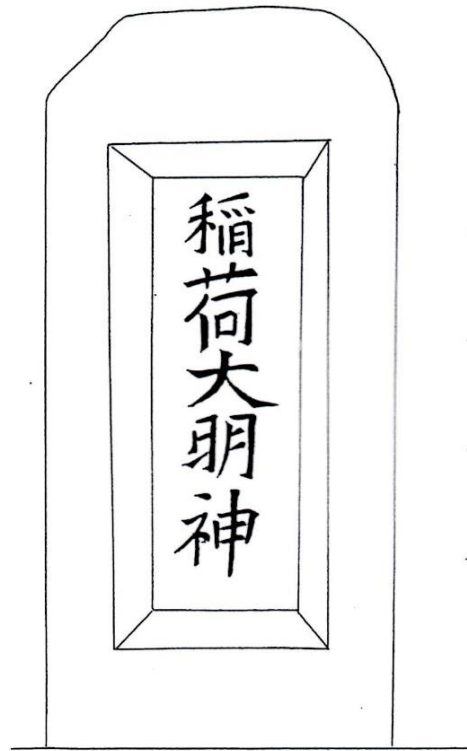


10 上間久里

「神宮」文字塔

上間久里香取神社

文化13 (1816)

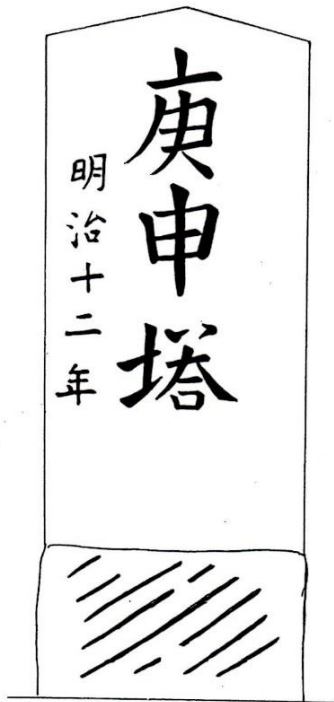


9 上間久里

「稻荷大明神」文字塔

上間久里香取神社

延享元 (1744)

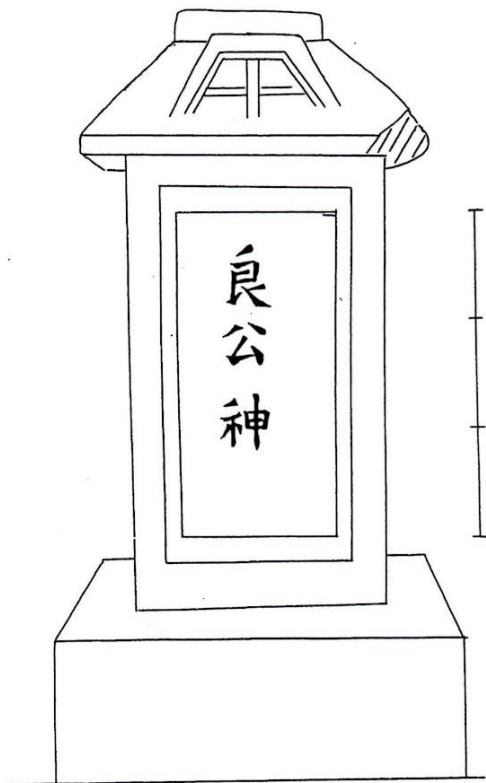


12 追加 上間久里

文字庚申塔

閻魔堂

明治12 (1879)

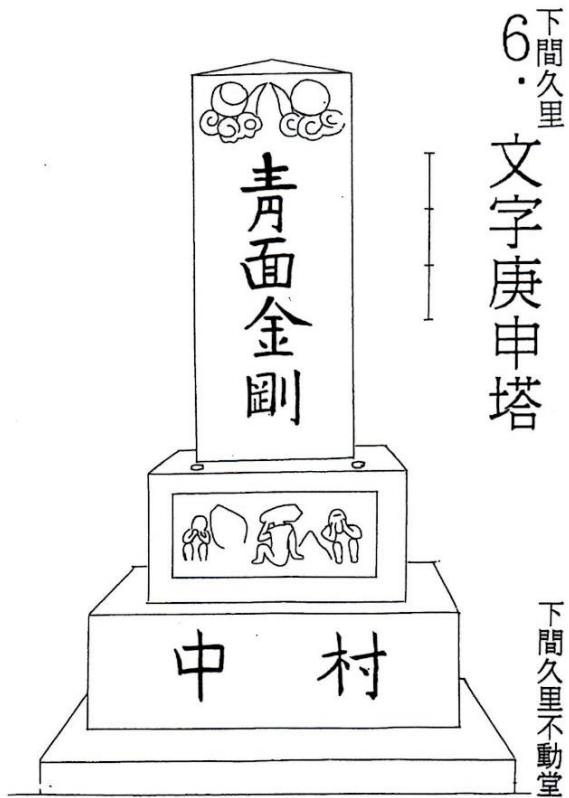


11 上間久里

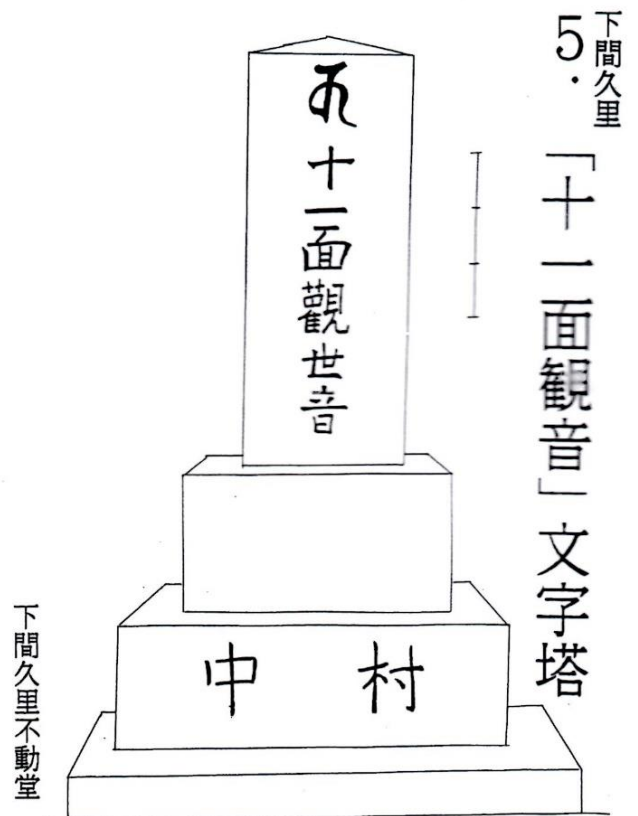
「良公神」文字塔

上間久里香取神社

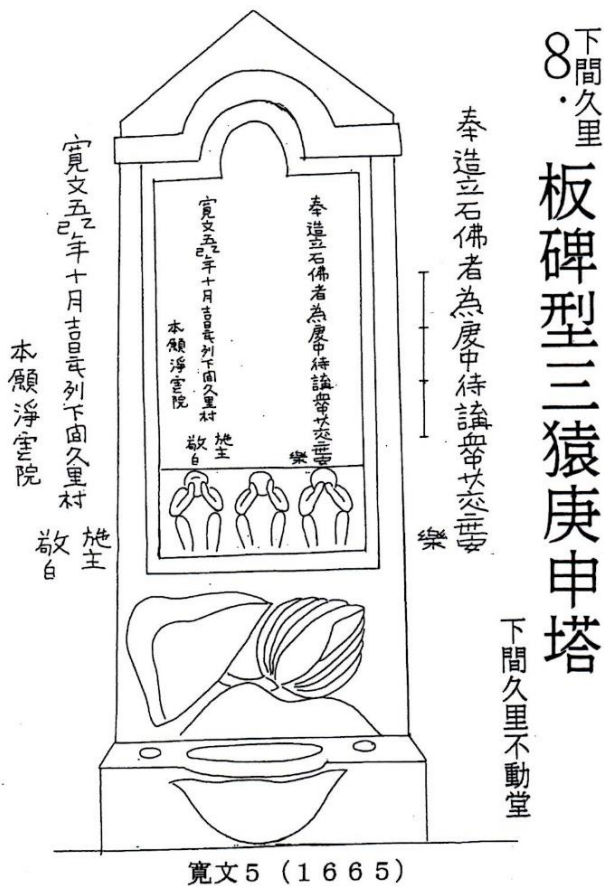
11 天明6 (1786)



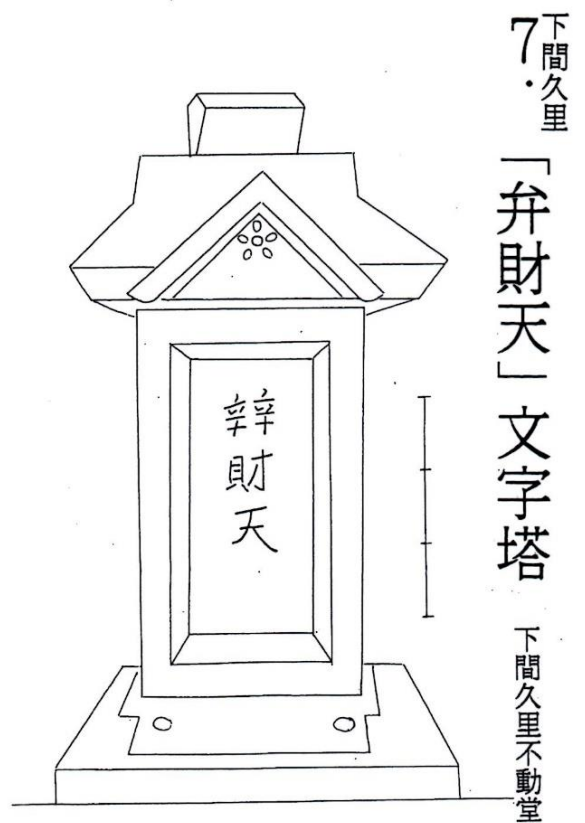
文政8 (1825)



文政8 (1825)

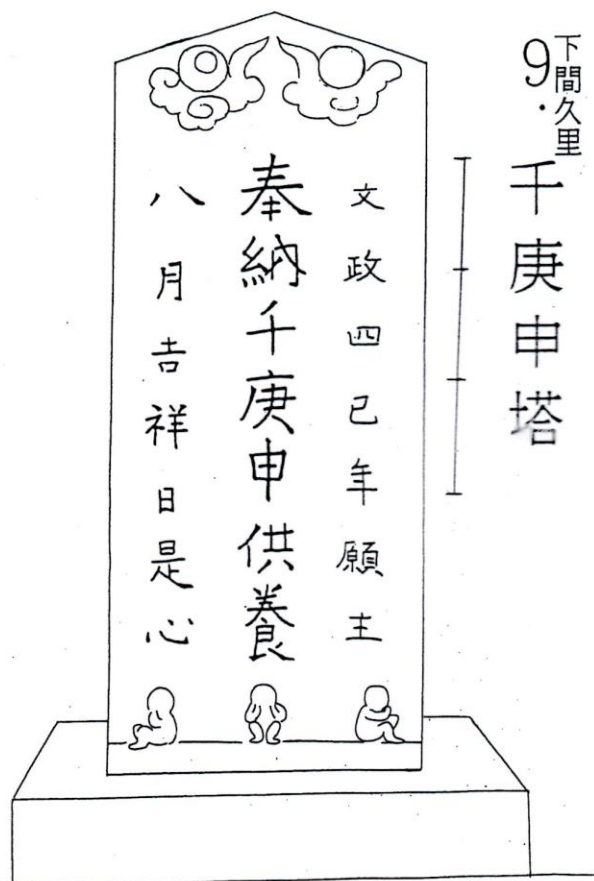


寛文5 (1665)



延享4 (1747)

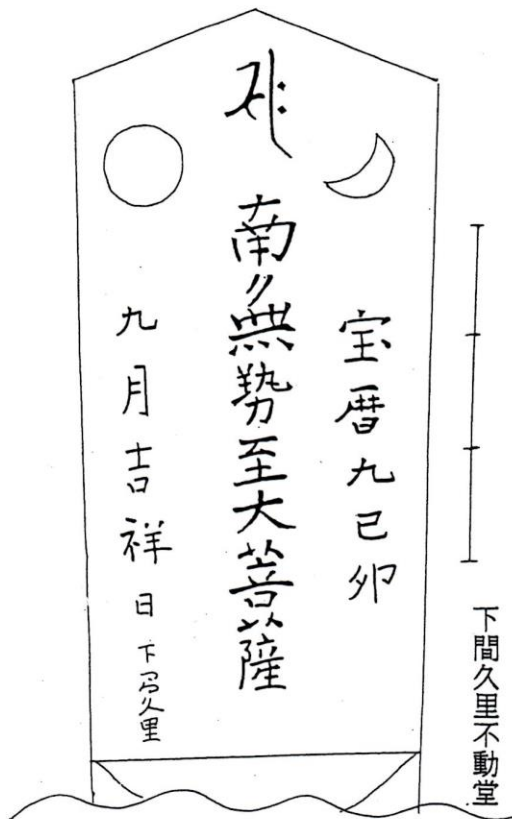
下間久里
9
千庚申塔



文政4 (1821)

下間久里不動堂

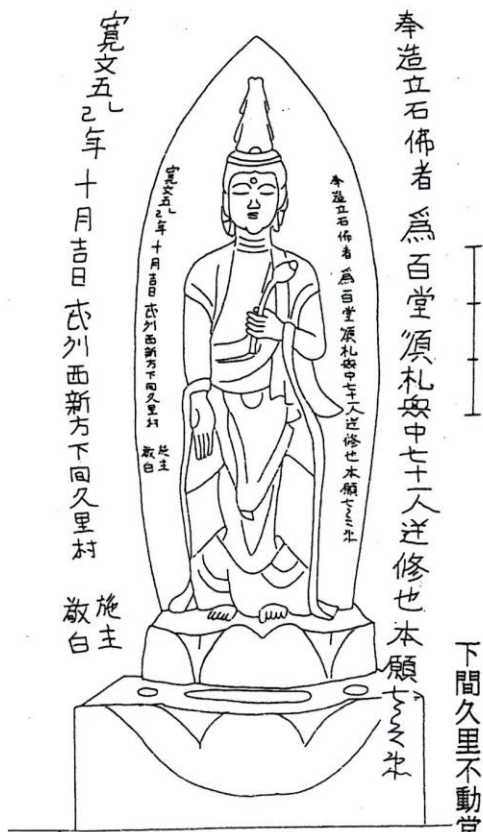
下間久里
10
「勢至菩薩」文字塔



宝曆9 (1759)

下間久里不動堂

下間久里
11
觀音像付き百堂巡礼塔



寛文5 (1665)

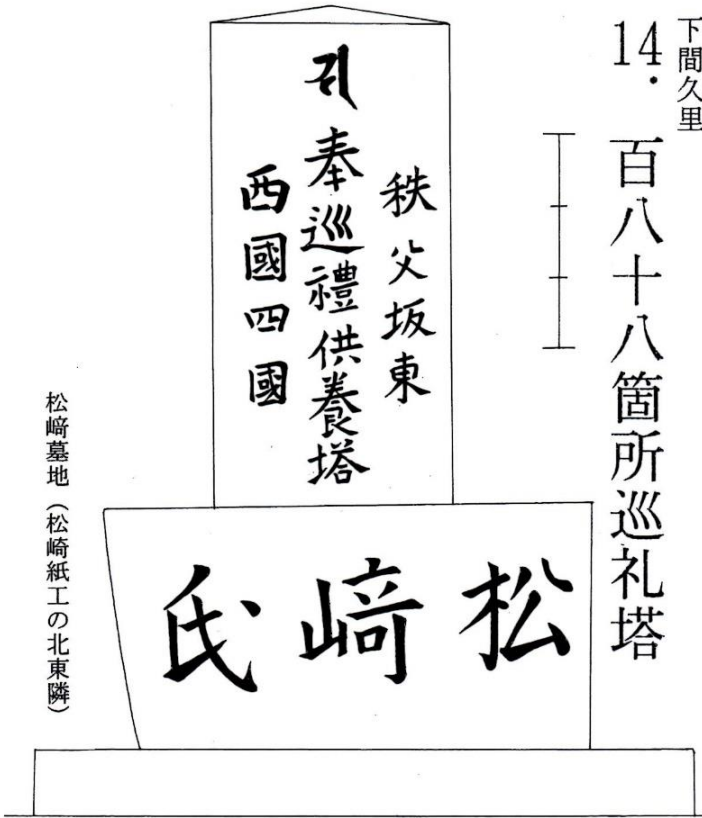
下間久里不動堂

下間久里
12
青面金剛像庚申塔

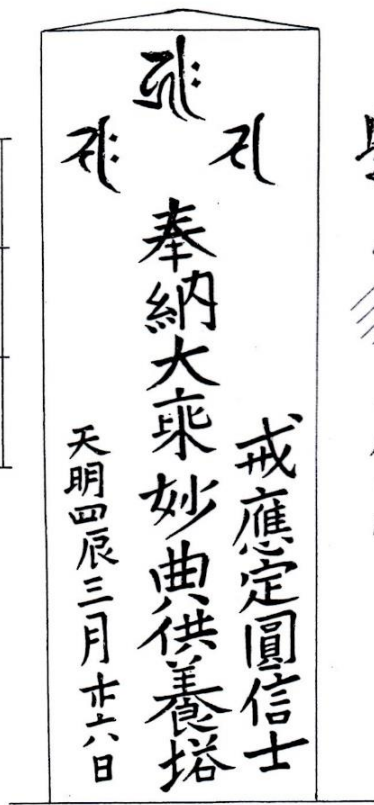


享保6 (1721)

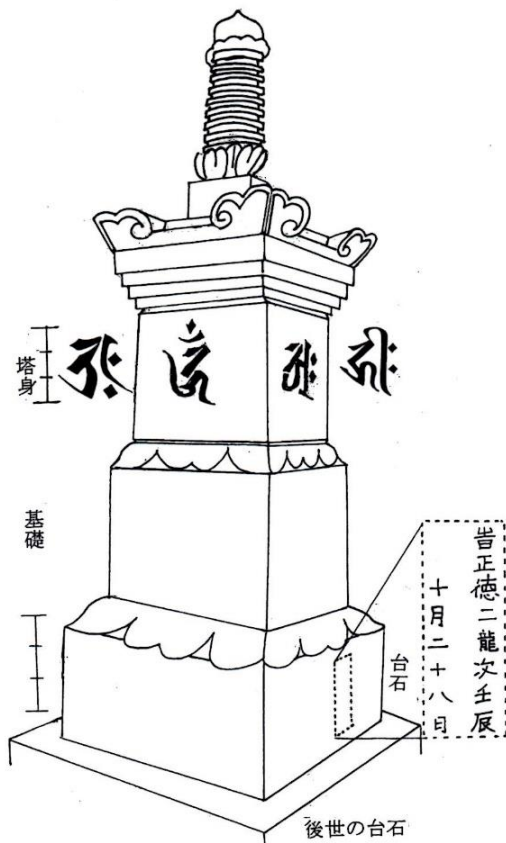
平「下間久里六〇」家の路傍



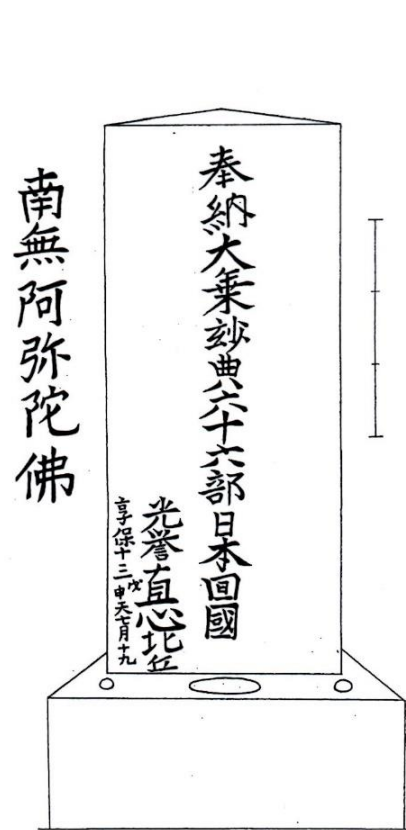
文化4 (1807)



天明4 (1784)



正徳2 (1712)

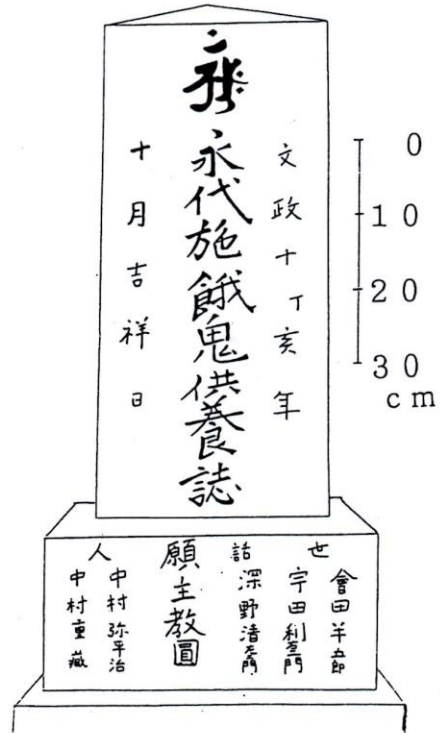


享保13 (1728)

1. 大里

永代施餓鬼供養塔

大里自治会館



文政10 (1827)

0
10
20
30
cm

3. 大里

文字庚申塔

大里自治会館

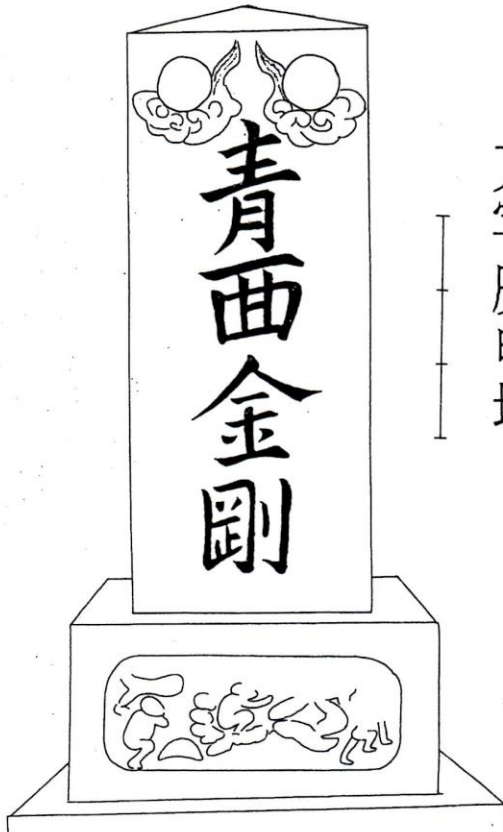


天保5 (1834)

2. 大里

文字庚申塔

大里自治会館



享和2 (1802)

4. 大里

青面金剛像庚申塔

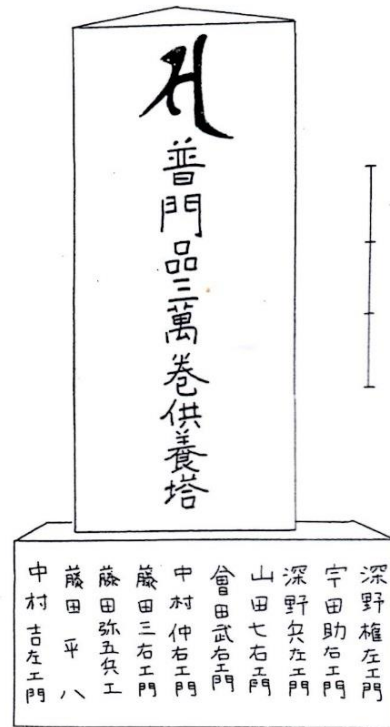
大里自治会館



正徳4 (1714)

5. 大里

普門品供養塔

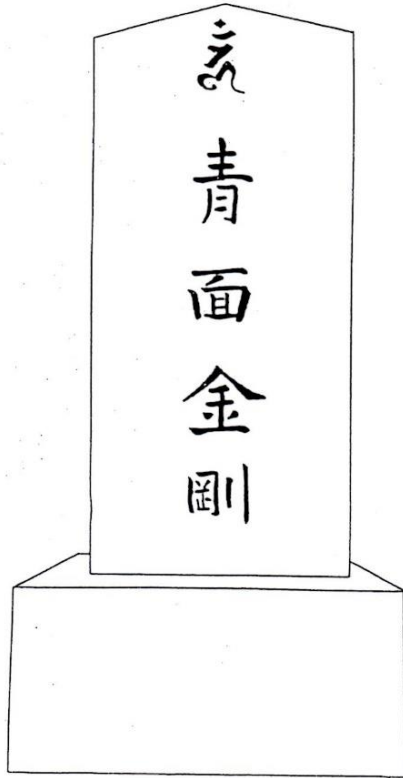


大里自治会館

文化11 (1828)

6. 大里

文字庚申塔

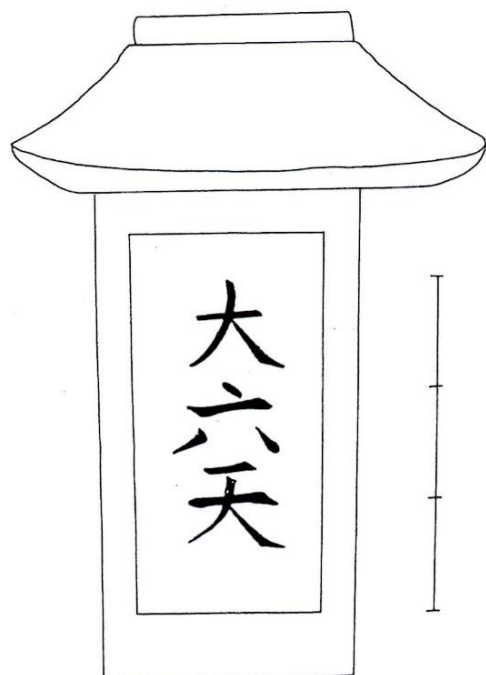


大里自治会館

寛政11 (1799)

7. 大里

「大六天」文字塔



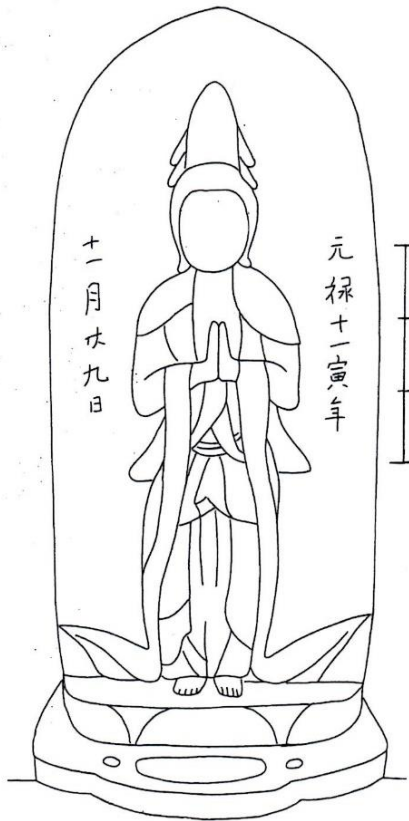
大里自治会館

8. 大里

名号塔



大里自治会館



元禄11 (1698)

10^{大里}

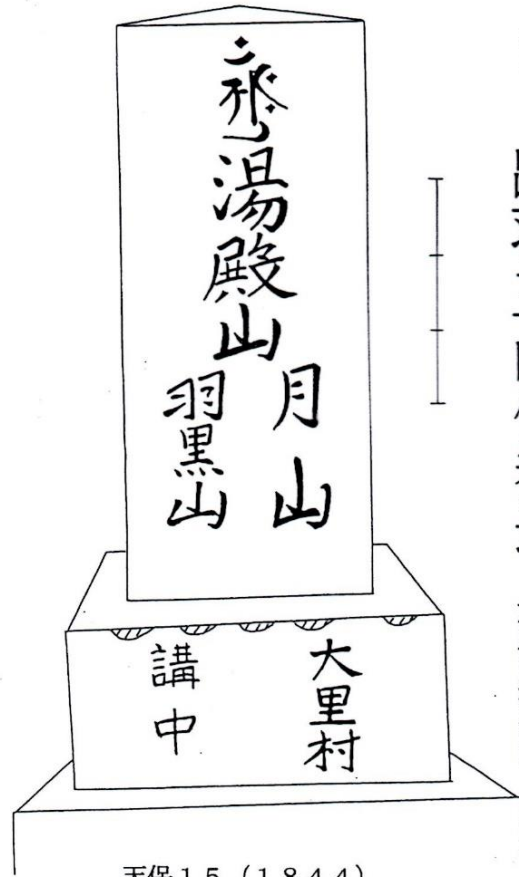
勢至菩薩像

齊藤家「大里八二〇」路傍

9^{大里}

出羽三山供養塔

大里自治会館



天保15 (1844)

12^{大里}

釈迦如来像

齊藤家「大里八二〇」路傍

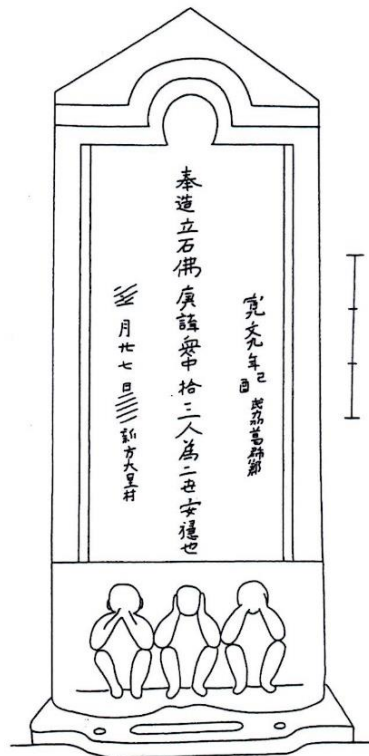
11^{大里}

三猿庚申塔

齊藤家「大里八二〇」路傍



天和2 (1682)

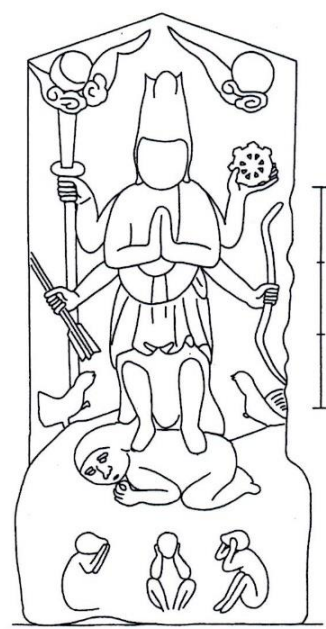


寛文9 (1669)

13^{大里}

青面金剛像庚申塔

齊藤家「大里八二〇」路傍



寛政2 (1790)

14^{大里}

青面金剛像庚申塔

中村家「大里五三四」路傍

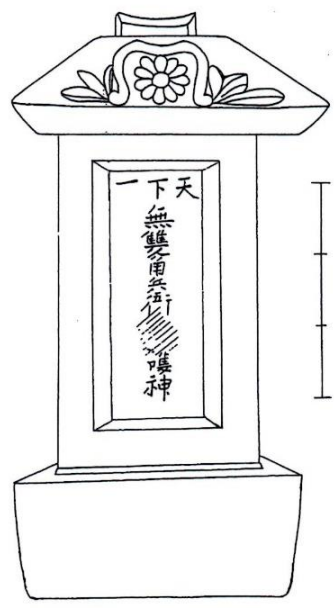


宝永7 (1710)

15^{大里 追加}

『無双角兵衛守護神』文字塔

藤田家「大里八五五」邸内



寛政2 (1790)

16^{大里 追加}

馬頭観音菩薩像

桜井分団第一部
消防小屋

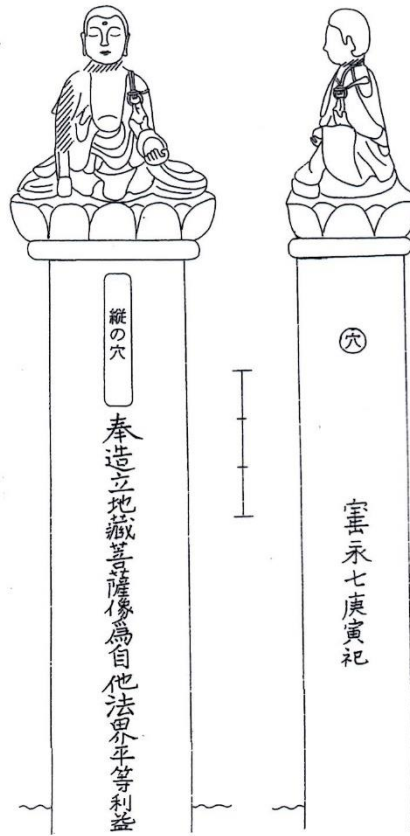


寛政6 (1794)

17 大里 追加

「車地藏」石仏

中村家（大里八七五・達磨屋）邸内

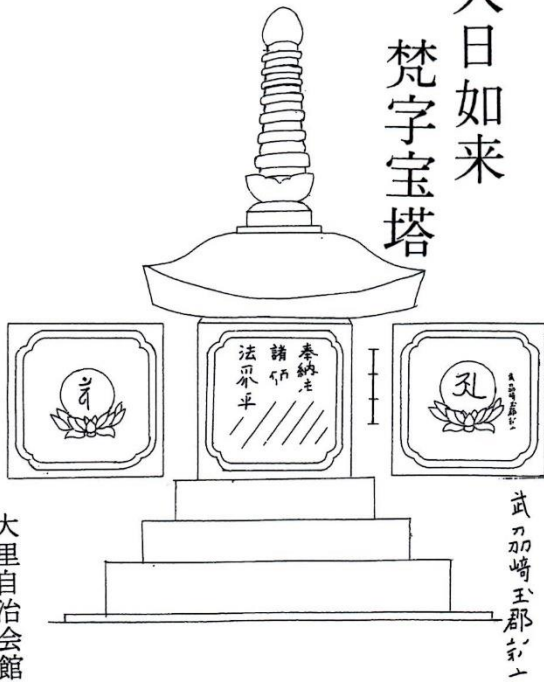


宝永7 (1710)

18 大里 追加

大日如来

梵字宝塔



大里自治会館

19 大里 追加

阿弥陀如来像

大里自治会館墓地

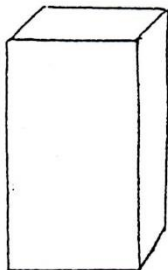


寛文3 (1663)

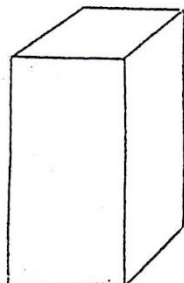
塔型分類

当資料では、石塔の型式の分類を以下のようにする。

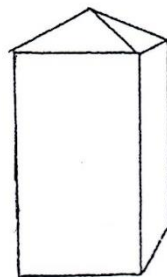
かくがた
角型



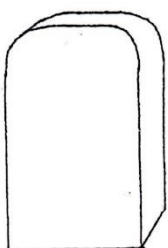
かくちゅうがた
角柱型



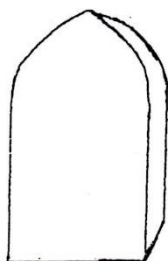
とうぶ
頭部
やまじょうかくがた
山状角型



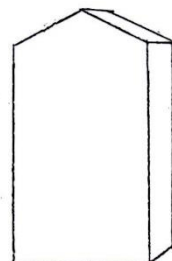
じょうぶ
上部
すみまるかくがた
隅丸角型



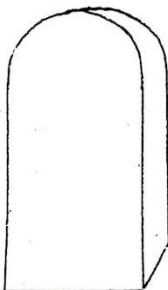
ふながた
舟型



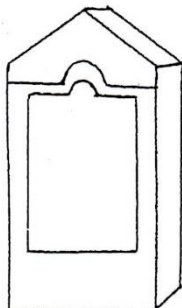
こまがた
駒型



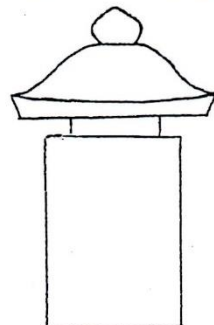
じょうぶまるがた
上部丸型



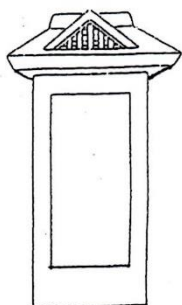
いたびがた
板碑型



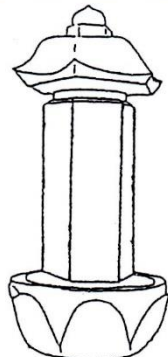
かさつきかくがた
笠付角型



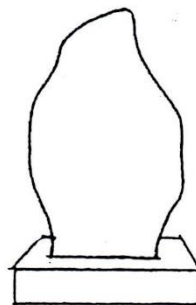
ほこらがた
祠型



ろくめんせきどう
六面石幢



しぜんせき
自然石



また、石塔の高さの目安を以下のようにする。

「低」は ~50cm 「中」は 50cm~120cm
「高」は 120cm~200cm 「超高」は 200cm~

旧平方村の石仏

平方地区は古利根川と会野川（今はない）に挟まれた地域で、江戸時代は埼玉郡新方領平方村と称し、幕府領であった。また、平方村は越ヶ谷宿よりも粕壁宿（現在の春日部市粕壁）との関係が深かった。

(1) 旧平方村入口関根家路傍

日光道中より平方村へ入る入口にあたる。

1. 「南の地藏尊」念仏供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・白鳥文具店（平方一五九〇一五）裏の古道北側、

関根家（平方一七六二）路傍 ※現在、白鳥文具店はない。

石塔型式 舟型（南西向き・高さは高）

年号 延宝元年（一六七三）

〔正面〕

奉造立地藏菩薩念仏講行五十人為二世安穩敬白

（梵字「ア」）（地 蔵 菩 薩 像）

延宝元 癸 丑年十月廿四日武州埼玉郡平方村

※これは念仏塔である。地藏供養のための念仏講（念仏信仰集団）が江戸初期に建立したものである。地元（字は南）では「南の地藏尊」と呼んでいる。主尊は、宝珠と錫杖を持った地藏菩薩である。この念仏講の信仰は今でも形を変えて地藏盆の前日である八月二十三日に南自治会の住民が中心になって続けている。この石仏を管理しているのはすぐそばに住んでおられる平方一七六二の関根弥一氏である。八月二十三日の朝、南自治会に所属する老婦人がお地藏様を拝みにきて、地元で使用している『御念仏集』のうち地藏念仏（「南地藏尊念仏」、「南」とは地元の字名）を二回程繰り返して唱えている。

きみようちよらい地藏尊 由来は遠くいにしへの平方村のせんぞたち
 延宝元年秋の月 二世安穩のためなりと こゝに建立なしたもう
 安産子育ての御誓願 あまたの衆生をすくわんと 行きかふ辻に立ち給ふ
 その靈験もあらたなり 浮世の変わりながめつ、 右手に錫杖
 左手に宝珠をもちしおん姿 無明を照す光なり 末代までもありがたや
 南無南の地藏尊 南無南の地藏尊 （以上、ルビは原文のまま）
 また、この地区の約三十軒のうち当番にあたった三軒がこの地藏の石仏と隣の庚申塔にお供えや飾り付けを行う。夕方になるとこの地区の住民

が三々五々ここにお参りにやってくる。すでに用意された縁台にすわって雑談する人もみられる。そして一方では白鳥電機店から照らされるライトの明かりのもとで何人かの婦人が中心になって盆踊りを披露する。そのような集いが十時半頃まで続く。飾り付けは、以前は白米を臼で粉にしてからふかして二段飾りのお供え餅を作って供えたり、手作りの造花を飾ったり、またお団子を供えたりした。そして翌日二十四日に各戸に半紙で包んだお供え餅と造花を配ったという。今では市販のお供え餅を供えるなどして簡略化し、さらに翌日にお供え餅や造花を各戸に配ることはない。

2. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔六二番）

所在地 平方・白鳥文具店（平方一五九〇一五）裏の古道北側

石塔型式 笠付き角型（南西向き・高さは高）

年号 正徳五年（一七一五）

〔左側面〕（向かって右側面）

武州平方村

（梵字「バン」）于時正徳五乙 未年十一月吉祥日

構中二拾人

〔正面〕

（日月・青面金剛・邪鬼・二鶏・三猿）

〔右側面〕（向かって左側面）

小嶋孫八郎	金子新五右衛門	九里作七郎	白石六兵衛
同名平八郎	同名平次郎	中山長十郎	山口与兵衛
同名清五郎	小河勘三郎	鳥海山三郎	飯山伝六郎
中村彦四郎	同名彦兵衛	同名新六	関根半三郎
同名長三郎	次賢孫三郎	同名門兵衛	同名□□□

※于時は「とき」と読む

3. 石橋供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・白鳥文具店（平方一五九〇一五）裏の古道北側

石塔型式 頭部山状角型（南西向き・高さは中）

年号 宝曆十二年（一七六二）

〔左側面〕

宝曆十二年 午年四月吉祥日

〔正面〕

浅草観世音 願主 信譽意覚
南無阿弥陀仏 石橋建立立供養食位
四十八月参 村々 江戸講中

〔右側面〕

武州埼玉郡新方領平方村

※これは石橋供養塔である。日光道中から現在地に入る所に橋が架けられていた。ここに新たに石橋が建立されたことを記念し、これを造立したのである。この石塔に刻まれた銘文によると、造立した一人である願主・信譽意覚は浅草観音に毎月参拝し、それを四年間も続けたという。江戸との人的交流がうかがえる。この供養塔には言い伝えが残っている。江戸時代のこと、この地に架かっていた橋がもろいため荷馬車が馬もろとも川に落ちてしまった。馬は死んでしまった。そこでその馬を連れて来た江戸浅草の人が土橋を頑丈な石橋になおした。その記念にこの塔が建てられたという。

(2) 女体神社

この神社は地元では女帝神社と呼んでいる。例年一月十二日に御備社の行事が行われた。明治四十五年(一九一三)神社合併の促進運動が起こり、平方村の村社である浅間神社に合併される。その後、地元では、浅間神社(大正六年に焼失)に遷宮したために不幸に見舞われたと信じられ、昭和八年に仮宮を作り、女帝大神を戻す。明治百年の年の前年昭和四十二年(一九六七)十二月に神社の新築が完成され、遷宮の式典を挙げた。なお、この女体神社の東側隣接地の敷地辺りは、西光院と呼ばれる寺院跡地である。寺院跡地にあった石仏類がこの神社境内に見られる。

4. 「天満宮」文字塔(『越谷市金石資料集』天神 一番)

所在地 平方・女帝神社(女体神社)

石塔型式 祠型(北向き・高さは中)

年号 天保六年(一八三五)

〔左側面〕

天保六年正月吉日

〔正面〕

天満宮

〔右側面〕

□祐真世

5. 普門品供養塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・女帝神社(女体神社)

石塔型式 頭部山状角型(北向き・高さは中)

年号 文政五年(一八二二)

〔左側面〕

天下泰平
国土安穩

〔正面〕

普門品供養

〔右側面〕

文政五年十二月吉日

6. 文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一八二番)

所在地 平方・女帝神社(女体神社)

石塔型式 頭部山状角型(北向き・高さは中)

年号 寛政八年(一七九六)

〔左側面〕

寛政八丙辰十一月吉日

〔正面〕

青面金剛

横手
講中
南

〔右側面〕

中

7. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一六三番)

所在地 平方・女帝神社(女体神社)

石塔型式 駒型(北向き・高さは中)

年号 天明四年(一七八四)

〔正面〕

(日月・青面金剛・二鶏・鬼・三猿)

中村吉平
小川弥次兵へ
中村安五門
白石六兵へ
中村金五門
鳥海藤兵へ
関根□(吉カ)五門
鳥海新左五門
関根弥五門
関根次郎兵へ
関根武兵へ
山口良七

天明四辰正月吉日

8・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二二四番）
所在地 平方・女帝神社（女体神社）
石塔型式 頭部山状角型（北向き・高さは中）
年号 文化五年（一八〇八）

〔左側面〕
文化五 戊辰 三月吉日

〔正面〕
青面金剛（三猿）

〔右側面〕
講中

9・普門品供養塔（『越谷市金石資料集』普門品二八番）
所在地 平方・女帝神社（女体神社）
石塔型式 自然石（北向き・高さは中）
年号 弘化三年（一八四六）

〔正面〕

弘化三丙午年 横手組
平方村
並百門口口供養塔講中
後五月吉祥日 南組

10・杉奉納記念塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・女帝神社（女体神社）
石塔型式 駒型（東向き・中）
年号 天明四年（一七八四）

〔正面〕

（太陽） 杉一一本 施主中村吉平
奉納女帝権現
天明四 甲辰 正月吉日

※この石塔に刻まれている「女帝」の文字から、この女体神社はこの頃すでに「女帝神社」とも呼んでいたことがわかる。

11・僧侶の墓塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・女帝神社（女体神社）
石塔型式 自然石（南向き・高さは中）
年号 天保十年（一八三九）

〔正面〕 無縫塔の絵が刻まれ、その中に左記の銘文が書かれている。

天保十年己亥
（梵字「ア」） 権大僧都法印祐真不生位
八月廿七日

※権大僧都……「僧都」とは僧侶の最上級の位である「僧正」に次ぐ位である。僧都の中でも、大僧都・権大僧都・少僧都・権少僧都に分けられる。

※不生位……真言宗の僧侶の戒名の位号の部分によく使われる。

12・六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・女帝神社（女体神社）
石塔型式 上部隅丸角型（南向き・高さは中）
年号 享保十四年（一七二九）

〔正面〕

享保十四 己酉 施主平方南衆中
（梵字「ア」）奉納日域□中六拾六部供養宝塔也 ※日域とは日本
閏九月初八日願主常誓幻遊敬 ※□は「国」か
白

（〇〇） 白口馬家（平方一八〇六）敷地内

13・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』馬頭一〇番）
所在地 平方・白鳥家敷地内（平方一八〇六）
石塔型式 頭部山状角型（南東向き・高さは低）
年号 享和三年（一八〇三）

〔左側面〕

享和 三亥 十月十四日

（馬） □頭観世音（馬頭観音像）

(4) 九ノ里家(平方一三一一) 路傍

14. 道標付き文字庚申塔(『金石資料集』庚申塔一八〇番)
所在地 平方・九ノ里家(平方一三一一) 路傍
石塔型式 駒型(東向き・高さは中)
年号 寛政七年(一七九五)

〔左側面〕

〔正面〕

寛政七卯年

青面金剛(篆書体)

正月吉祥日

〔右側面〕

向大どまり道

- 中村□(兵) 右工門
- 中山藤左工門
- 九里佐兵工
- 宇田川□(伊) 右工門
- 金子六左工門
- 小島治右工門
- 同 七良左工門
- 同 三良右工門
- 小川嘉兵工
- 同 治良左工門
- 同 長兵工
- 白石平左工門
- 同 伊兵工
- 同 六兵工
- 同 四良左工門
- 飯山七良右工門
- 須賀□(万) 左工門
- 鳥海六右工門
- 同 金右工門
- 同 六右工門

※わらじを奉納する信仰がかつてみられたこの石塔は、大泊への道しるべも兼ねていて、ここより田畑を突っ切って大泊に通じる道があったことを示す貴重な歴史的資料である。

(5) 須賀家(平方一四二) 個人墓地

15. 宝篋印塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 平方・須賀家(平方一四二) 個人墓地
年号 寛保元年(一七四一)
石塔型式 宝篋印塔(西向き・高さは超高)

〔左側面〕

寛保元辛 西天 願主 須賀茂左衛門
奉造 立宝篋印塔 一基
八月中旬 十指合瓜敬白

〔正面〕

(梵字「アク」)

寛保元辛 西天 六親眷属
三月初三日 七世父母
権大僧都尊盛法印 不
生位
真蓮社実誉巖榮和尚
明和乙酉 天二月十八日

※権大僧都、不生位……11を参照のこと。
※他の側面(右側面・裏面)の梵字・文字は省略する

(6) 中村家(平方一六二) 個人墓地

16. 板碑型墓塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 平方・中村家(平方一六二) 個人墓地
石塔型式 板碑型(南向き・高さは中)
年号 寛文七年(一六六七)

〔正面〕

(梵字「サ」) 寛文七丁未年
讚誉宗不休信士 霊位
(梵字「キリク」)
(梵字「サク」) 六月七日

※板碑型をした江戸初期の墓石である。

※なお、このすぐ北方には、道路の西側に「崇源寺」(『新編武蔵風土記稿』による記述、地元では「宗源寺」と書かれる)跡地、道路の東側に「三島神社」跡地がある。

※崇源寺跡・中興の石塔も混じっていくつか石仏が残され、現在は上沖(かみおき)自治会集会所となっている。また、宝曆九年(一七五九)の虚空蔵菩薩像の版木があり(平成二十一年、林西寺保管)、古くから虚空蔵菩薩信仰が盛んであったことがうかがえ、今日でもその名残として十三日の縁日に虚空蔵菩薩像を前にしての集会がみられている。

※三島神社跡・三島神社の参道は平方三三三六の中島家と平方三七〇〇の中村家との間の空き地である。また三島神社のそばに月照院という寺院があったという。

(7) 林西寺

後に『子育て吞龍』として有名になる曇龍は天正十二年(一五八四)にこの寺院の第九世の住職に就いている。

17・道標付き文字庚申塔(『金石資料集』庚申塔三〇三番)

所在地 平方・林西寺
石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは高)

年号 万延元年(一八六〇)
〔左側面〕 武州埼玉郡平方郷 左赤沼渡シ場

〔正面〕

世話人

- 小川源右衛門
- 中村武左衛門
- 小嶋金左衛門
- 石川萬太郎
- 染谷伝左衛門
- 中村忠兵衛
- 大野喜三郎
- 染谷惣右衛門
- 中村又兵衛
- 同 伝兵衛
- 同 奇助
- 小川八郎右衛門
- 中村久兵衛
- 森泉清左衛門
- 中村浅右衛門
- 森田勘右衛門
- 須賀伊左衛門
- 森 久左衛門
- 高橋弥五左衛門
- 中村斧八
- 染谷与惣右エ門
- 中村三郎兵衛
- 同 惣〇(七)
- 山崎基兵衛

(太陽) 庚申塔 (三猿)
(月)

〔右側面〕 萬延元年次 庚申 十一月 右粕壁道

※向かって左側面に『右粕壁道』と刻まれ、右(西側方面)に進むと奥州道中に出てそこから北に向かい粕壁宿に通じることを示している。向

かつて右側面には『左赤沼渡シ場』と刻まれていて、左(東側方面)に進むと西楽寺や鹿島神社の前を通り、さらに砂間の香取神社の先(現在の平方六八〇一)の厚見家あたりより地元では「山道」(土手道)と呼ばれている脇道(この道は現在はない)となり、戸崎稻荷・西光寺、そして赤沼渡し場に通じるのである。

18・地蔵像付き六十六部廻国塔(『金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・林西寺
石塔型式 舟型(東向き・高さは高)

年号 宝暦十三年(一七六三)
〔左側面〕 当村施主

〔正面〕

- 西光寺
- 宇田川七良右エ門
- 同 七平
- 同 兵左エ門
- 同 七左エ門
- 同 七左エ門
- 小早川清左エ門
- 同 七良左エ門
- 同 七良左エ門
- 同 志施主
- 武州埼玉郡新方領平方村
- 願主 白石伝六
- 親類 中
- 五人組 中
- 当村 中
- 山口伝七
- 河原豈菊
- 関根惣平
- 小川弥四良
- 小早川甚左エ門
- 中村伝左エ門
- 森田佐五右エ門
- 三之宮村
- 大場村 常泉
- 長門国大津郡 甚右エ門
- 久原村
- 歎化之村 〇志
- (歎化)
- (有)

奉納大乗妙典日本廻国供養塔
天下大平
(梵字「カ」)(地蔵菩薩像)

日月清明 癸未 宝暦十三 十月吉日通誉円心法師

※大乗妙典とは法華經のことである。

19. 地藏菩薩像 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・林西寺

石塔型式 舟型(東向き・高さは高)

年号 宝永五年(一七〇八)

〔正面〕

奉造立尊像一躯日参比丘□□
(梵字「カ」) (地藏菩薩像)

相嘗妙頓 宝永五 戊子年七月吉日

20. 『新六阿弥陀四番』標識石塔 (『金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・林西寺

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは中)

年号 天明八年(一七八八)

〔左側面〕

天明八 戊申年五月廿五日

〔正面〕

新六阿弥陀四番

〔右側面〕

願主 舟渡村 受道

※20番は六阿弥陀参りのために寺院に建てた標識である。「六阿弥陀参り」とは阿弥陀如来を安置している六ヶ所の寺院を春と秋の彼岸に巡拝する信仰である。江戸の町で盛んに行われた。この越谷地域にも江戸の六阿弥陀参りをまねて『新六阿弥陀参り』として行われたのであろう。現在、増林の林泉寺に『新六阿弥陀二番』、ここ林西寺に四番、大泊の安国寺に五番、大松の清浄院に六番の標識が残っている。願主はすべて船渡村の受道である。なお、一番は不明であるが、当時勢力のあった天岳寺であらう。また三番は従来は登戸の報土院とされてきたが、平成十八年五月の調査により、江戸時代の本来の三番は松伏町赤岩の源光寺であることが判明した。以上の寺院はすべてが阿弥陀仏を本尊とする寺院である。

21. 青面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔一八九番)

所在地 平方・林西寺

石塔型式 駒型(東向き・高さは高)

年号 寛政十年(一七九八)

〔正面〕

(日月・青面金剛・二鶏・鬼・三猿)

平方村
上組
講中

〔右側面〕

寛政十 戊午年十一月吉日

22. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二六五番)

所在地 平方・林西寺

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは高)

年号 天保四年(一八三三)

〔左側面〕

天保四年癸巳正月吉辰建焉

〔正面〕

人ハセ

中村三良兵衛
森泉清左右門
小川八良右門
中村清助
高橋弥五左門
同 久右門
大野喜兵衛
中村武左右門
染谷与惣右門
石塚助左右門
中村久兵衛
須賀文蔵
小川作右門
山崎甚兵衛
大野茂八
小川源右門
森 久左右門
中村伝兵衛
同 浅右門
森田助右門
中村人兵衛

(押書)
松令徳□□

庚申塔 (三猿)

〔右側面〕

武州埼玉郡

平方郷

23. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二八五番)

所在地 平方・林西寺

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは高)

年号 嘉永元年(一八四八)

〔左側面〕

嘉永元 戊申十一月吉祥日

〔正面〕

人ハセ

中村伝兵衛
 中村久兵衛
 染谷惣左工門
 大野喜兵衛
 森田甚右工門
 中村浅右工門
 中村又兵衛
 中村武左工門
 小嶋金左工門
 中村伝助
 高橋弥五左工門
 中村三良兵衛
 須賀伊左工門
 染谷与惣右工門
 小川源右工門
 中村惣四郎
 森泉清左工門
 石川万太郎
 中村斧八
 山崎甚兵衛
 小川八良右工門
 森久左工門
 石塚勘左工門

(日月) 庚申 塔 (三猿)

〔右側面〕

武州埼玉郡 平方村

24. 名号塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・林西寺

石塔型式 笠付き円柱型 (東向き・高さは超高)

年号 不明

〔左側面〕

施主

中村藤左衛門

〔正面〕

南無阿弥陀仏

〔右側面前方〕

(吉左工門)

延宝二寅十月十日

走西清信士

地先祖 徳入清信士

十月十日

〔裏側面〕

清誉浄閑信士

二 三界萬靈六親眷属 七世父母

浄誉妙閑信女 有無縁等

※地先祖……その土地に元々昔から住んでいた住民をさすのであろうか。

25. 名号塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・林西寺

石塔型式 笠付き角柱型 (東向き・超高)

年号 享保十一年 (一七二六)

〔左側面〕

武蔵国埼玉郡

南無観世立音菩薩 願主 深誉休心

新方領平方村

〔正面〕

善光寺四十八度

南無阿弥陀仏

参詣願成就供養

〔右側面〕

享保十一年 丙午天

午天

南無大執勢五王菩薩

当村

中村寄助

九月初四日

〔裏面〕

心誉浄専信士是誉秀月

勤化村郷千五百人

法界外萬靈並有無一両縁等

転誉成輪信女

意誉随運法尼 智察童子

報謝宿六十七人

※表面に刻まれた文字から平方村の深誉休心が信州の善光寺に四十八回も参詣したことがわかる。回数には阿弥陀如来の四十八誓願にかけている。

26・名号塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・林西寺
石塔型式 笠付き角柱型（東向き・高さは超高）
年号 貞享四年（一六八七）

〔左側面〕

〔梵字「サ」〕 武州崎玉郡平方村 飯山縫之助
無観世立百笠菩薩
林西寺住仰誉代

〔正面〕

〔「キリク」〕 南無阿弥陀仏
安浄福田遊心樂土
耕衆萬人願其往生

〔右側面〕

〔梵字「サク」〕 南無十八勢至王菩薩
峯貞享四丁卯年建塔願司
四月八日 到誓直心

〔裏面〕

聞教叟
妙心信女
心立信士
二 甲介萬重 垂並十八胡規卷眷属等
妙天信女
心英童子
栄山信士

※皆……「とき」と読む。

27・六地藏石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・林西寺
石塔型式 六面石幢〔单制〕（東向き・高さは超高）
年号 享保六年（一七二一）

〔裏面〕

（幢幡「一種の旗」を持つ地藏菩薩）

〔左側面〕

（合掌する地藏菩薩像）
雪窓童子
妙輪信女

〔正面〕

（天蓋「一種の傘」を持つ地藏菩薩像）
即誉彈応信士
応誉声現信女

〔右側面〕

（両手で宝珠を持つ地藏菩薩像）
享保六 辛 天三月五日
丑

〔裏面〕

（柄香炉を持つ地藏菩薩像）

〔真裏面〕

（宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩像）

28・丸彫地藏像付き敷石供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・林西寺
石塔型式 丸彫り（東向き・高さは超高）
年号 明和三年（一七六六）

〔左側面〕

二 甲介萬重

〔正面〕

藤沼 赤沼 柳原 上原 下村 関村 赤沼 魚沼
丁子口 牛川 新沼 長角 米沼
右勸化願主 藤塚源内
寄造惣檀方中
森泉兵部 白鳥六良左工門
同 半蔵 森田勘右工門
白石将右工門 小川紋左工門
上柳 甚右工門 大戸 与左工門
江戸深川 甚助 魚屋長三良
遠藤源蔵 谷原講中
当村役人中 世話役 同上坪中

（地藏菩薩像） 敷石供養塔

※31番は吞龍上人の墓石である。太田市の金山にある大光院は『子育て吞龍』で有名であるが、吞龍上人は平方村の隣にある一ノ割村（現在、春日部市）で井上将監信貞の次男として生まれ、十四才の時に林西寺に入り、その後の天正十二年（一五八四）に第九代目の住職となっている。名を疊龍と称した。徳川家康は天正十九年に優れた学識がある吞龍のいる林西寺には高二十五石の寺領の他に高二十五石の学問料が与えられた。ある干ばつの年に吞龍は龍神の森で雨乞いの念仏祈願を行い、大雨を降らせて人々からますます尊敬されるようになったとのエピソードが残っている。吞龍上人が大光院を開山し、悪龍を呑み込む夢を見て名を吞龍と改めたのは後のこと。吞龍上人は大光院にて元和九年（一六二二）に亡くなっているが、その時に大光院に造立された墓石はここ林西寺に造立された墓石と形や大きさが同じで、分骨埋葬されたと言われる。現在の大光院の卵塔は、かなりの古さを感じ、太めであるが、林西寺のそれは、すらっとしていて新しさを感じる。越谷市にとっては吞龍上人ゆかりの寺の貴重な文化財といえる。

(〇〇) △云野川筋跡路傍

今はなき会野川の左岸（平方村側、現在の天草病院の北西角地）に次に紹介する石仏がかつて祀られていた。

32・「馬頭観音」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側

石塔型式 頭部山状角型（北向き・高さは低）

年号 嘉永二年（一八四九）

〔正面〕

嘉永二酉

馬頭観音

十二月十日

〔右側面〕

森□（森田カ）

小川

33・地藏菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側

石塔型式 舟型（北向き・高さは中）

年号 不明

〔正面〕

設我得仏国有地獄餓鬼畜生者不取正覺

（梵字「カ」）（地藏菩薩立像）

（梵字「ナムアマミダブツ」）

34・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側

石塔型式 駒型（北向き・高さは中）

年号 寛政三年（一七九一）

〔正面〕

寛政三辛亥年

（馬頭観音像）与楽離三

十月廿四日

35・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側

石塔型式 舟型（北向き・高さは中）

年号 不明

〔正面〕

（馬頭観音菩薩像）

36・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側

石塔型式 駒型（北向き・高さは中）

年号 文化五年（一八〇八）

〔左側面〕

文化五年辰四月

〔正面〕

平方村馬持中

馬頭

須賀伊左門

（馬頭観音像）

観立目

須賀文蔵

森泉清左門

中村三郎兵衛

大野喜兵衛

小川源兵衛

金子六右門

白石四郎左門

37・名号付き石橋供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）所在地 平方・春日部との市境路傍南側
石塔型式 上部隅丸角型（北向き・高さは高）
年号 宝曆六年（一七五六）

〔左側面〕

林西寺十九主到誉代

〔正面〕

宝曆六丙子十二月日 平方村願主法誉一心

南無阿弥陀仏 石橋供養塔

施入面々二世安楽 同音嘗覚山

〔右側面〕

備後 大枝 大場 大泊 大杉 銚子口
市割 大畑 中村 舟渡 川崎 赤沼
粕壁 新町 薄谷 大松 藤塚 大川戸

※37番は、平方村から会野川対岸の備後村に渡るための石橋が完成したのを記念に建立された石橋供養塔である。

※西楽寺跡（現、平方東農村集落センター）

西楽寺の墓地入口には今でも享保二年（一七一七）造立の六地藏が南北一列東向きになって見られる。それぞれの台石には「平方東」「備後村粕壁町、老ノ割村」「大枝村、大島村」「船戸村、赤沼村、丁子口村」「藤塚村、牛嶋村、新川村」「長沼村、吸角村、米嶋村」と寄贈した村名が刻まれていて、現在の越谷市（大泊、船渡）から春日部市（備後、粕壁、一の割、大枝、大畑、赤沼、銚子口、藤塚、牛嶋、新川）・庄和町（永沼、水角、米島）に至る周辺の村々との親密さを窺うことができる。

（9） 東組廿六同草地路傍傍

38・不動三尊像（『越谷市金石資料集』不動一七番）

所在地 平方・東組共同墓地そば路傍南側（元、染谷家近くにあった）

石塔型式 祠型（東向き・高さは中）

年号 文久四年（一八六四）

〔左側面〕

文久四子年正月吉日

〔正面〕

（不動明王像・二童子）

〔右側面〕

平方村東組 講中

※図38は不動明王三尊像である。中央には炎の中に岩座にすわる不動明王が剣と綱索を持ち、下には不動明王の脇侍である矜羯羅（向かって右）・制多迦（向かって左）の二童子がある。矜羯羅童子は優しい顔付きをして立って、開敷蓮華（蓮の花が開いた花）と未敷蓮華（まだ開いていないつぼみの花）とがついた長い蓮華の柄を左手は上げ、右手は下げて両方の手で持つ姿である。また制多迦童子は怖い顔付きをして、半跏座で、左手は胸のあたりの衣をつかみ、右手は下げて宝槌を持っている姿をしている。これらの像容は成田山新勝寺のものと同じである。

（10） 浅間神社

この浅間神社は平方村の総鎮守となっている。各地の浅間神社では富士山を見立てて築いた小さな山「富士塚」に六月一日（山開きの日、新暦では一カ月遅れの七月一日）に富士参りをする浅間（富士）信仰の名残が各地で見られる。この浅間神社でも七月一日の前日六月三十日に初誕生の赤子が初山参りをする習俗が今でも残っている。

現在の浅間神社は、もとは香取神社と呼ばれ、平方村の鎮守であった。

39・石段供養塔（『越谷市金石資料集』普請供養二八番）

所在地 平方・浅間神社

石塔型式 駒型（南向き・高さは中）

年号 天保十四年（一八四三）

〔左側面〕

備後村 舟戸村 川崎村
大枝村 大松村 大吉利村
大畑村 大杉村 大杉村
大泊村 向畑村 商人中

〔正面〕

石坂供養塔

世 (丸岩の印) 同行中
森田勤右工門
大野喜三郎
小川岩治郎
大野林蔵
白鳥六良左工門
森□(貞)治郎
岩井市兵工

〔右側面〕

天保十四年二月吉日

平方村中

※石坂・・・石段のこと。

40・石鳥居供養塔(『越谷市金石資料集』普請供養一九番)

所在地 平方・浅間神社

石塔型式 円柱型(南向き・高さは高)

年 号 文化十四年(一八一七)

〔正面〕

石鳥居供養

願 中村 寄 助
大野 喜兵工
主 森田 勤右工門
中村 浅右工門

〔裏面〕

大泊村 善兵衛 船渡邑 六兵工
大杉邑 與五兵工 川崎邑 仲右兵衛
大吉村 文左工門 備後邑中 六右工門
大畑村 □(幸)七 大枝村 六右工門
同行中 八セ 大道村 文蔵 吉蔵 伝
文化十四丑 武州崎玉郡 吉祥日 平方村
セ 白鳥六良左工門 伝兵工 甚左工門
森□兵工 清左工門 茂八兵工
大野林蔵 三良兵工 久兵工 八良右工門
小川市兵工 八良右工門 利左工門 半右工門

41・「小御嶽石尊大権現」文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・浅間神社

石塔型式 自然石(南向き・高さは高)

年 号 天保十四年(一八四三)

〔正面〕

小御嶽 大権現

石尊 小天狗

願 中村 斧八
大野 茂八
齋藤 忠兵工
小川 市良兵工
荒井 甚助
金子 善次郎
森田 金左工門
大塚 半三郎
小早川 甚五右工門
岩井 半六
小川 七兵工
鳥海 新五右工門
同 新左工門
同 七左工門
主 厚見 万蔵
関根 武兵工
金子 六左工門
大野 喜兵工
染谷 与三右工門
同 惣左工門
中村 人兵工
同 伝兵工
九ノ里 佐兵工
中村 安右工門
小川 嘉左工門
荒井 孫右工門
山口 五良兵工
森 銀蔵

〔裏面〕

平方村

天保十四 癸卯二月吉日

氏子中

覆はれ

四方の願ひも

※四方(よも) ※暁月(あかつき)
※あぼし(富士行者の身禄が入定した
烏帽子岩をさす。これ以降、富士

あぼし 暁月に
岩へと

講が急増し、特に江戸及びその周
辺では爆発的に増え、浅間信仰が
盛んになった。)

登るうれしき

大谷達人氏によると、読み方は和歌にして「あぼし岩 暁月にへと」と読む。

※『小御岳石尊大権現』(大天狗・小天狗)とは、富士山の五合目付近に

ある小御岳神社をさし、祭神は、コノハナサクヤヒメの姉であるイワナ
ガヒメである。コノハナサクヤヒメは、富士山頂に安置されている浅間

(仙元)大神をさす。この石塔は、この富士塚(浅間神社)の五号目に
あたる所にあつたのであろう。

(11) 鹿島神社

本宮は常陸国(茨城県)鹿島地方の鹿島神宮である。鹿島地方は古代より

畿内からみると東國のさい果てとみなされていた。その先は海となる。鹿
島信仰には弥勒の舟がこの地に漂着したとされることからの弥勒踊りや等
身大の人形を浜辺や川辺で流す鹿島送りの習俗が見られる。この鹿島神社
にもこのような習俗があつたのであろう。

42. 普門品供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 頭部山状角型(南東向き・高さは中)

年号 安永八年(一七七九)

〔左側面〕

安永八年 己亥 檢

〔正面〕

(梵字「サ」)

普門品供養塔

〔右側面〕

十一月吉祥日

43. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二九六番)

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 頭部山状角型(南西向き・高さは高)

年号 安政二年(一八五五)

〔左側面〕

安政二卯十一月穀旦

〔正面〕

(日月) 庚申塔

白龍山主檀梁拜書

〔右側面〕

武州埼玉郡平方村

東組 講中

44. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二七五番)

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 頭部山状角型(南西向き・高さは高)

年号 天保九年(一八三八)

〔左側面〕

平方村東組

〔正面〕

(日月) 庚申塔 (三猿像)

〔右側面〕

天保九戌成年

八月吉祥日

45. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔一九〇番)

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 頭部山状角型(南西向き・高さは高)

年号 寛政十年(一七九八)

〔左側面〕

寛政十一年十二月吉日

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿像)

〔右側面〕

東組講中

46. 「水神宮」文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 祠型 (南東向き・高さは低)

年号 嘉永四年 (一八五二)

〔左側面〕

嘉永四亥十一月

〔正面〕

水神宮

〔右側面〕

平方方村講中

(12) 小川家 (平方五二三) 近く掘割路傍

47. 石橋供養塔 (『越谷市金石資料集』普請供養二二番)

所在地 平方・小川家 (平方五二二) 近く会田鉄工所前の掘割そば

石塔型式 上部隅丸角型 (北東向き・高さは低)

年号 天明八年 (一七八八)

〔正面〕

天明八申年 舟戸村

石橋供養塔願主

十一月吉日 浄心

※47番は石橋供養塔である。昔はこの地に橋が架かっていたのである。

つまりこの近くの古利根川から用水として水を取り、その用水路は平方五二二番地小川家と六二九番地の中村家との間を通って平方北通り (この名称は越谷市制施行三十周年を記念して名付けられたもの) を横断していた。小川家が利用している平方北通りに出る直線の道は用水路跡地である。

(13) 砂間の香取神社

本宮は下総国 (千葉県) の佐原にある香取神宮。古代より鹿島神宮とともに皇室に厚く崇拜されていた。香取神社は中臣氏一族の氏神を祭った神社ではないかとも推定され、このあたりでは元荒川 (古代の武蔵と下総の国境) の左岸、下総側に分布している。

48. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二八〇番)

所在地 平方・東組砂間の香取神社

石塔型式 頭部山状角型 (南東向き・高さは中)

年号 天保十三年 (一八四三)

〔左側面〕

セ 大野林蔵
ハ 小川岩次郎
人 金子善次郎
中村儀右エ門

天保十二年寅十一月

大野茂八
斎藤忠兵衛
関根紋左エ門
金子庄兵衛

山口又八
小川市郎兵衛
同 弥五兵衛
同 久左エ門
九ノ里六郎兵衛

〔正面〕

(日月) 庚申塔 (三猿像)

〔右側面〕

平方村東組

森田六郎右工門
荒井甚助
白石伝兵衛
山口仁兵衛
同 四郎右工門
中村伝左工門
金子庄吉
十根川市右工門
同 八右工門
塚田源右工門
同 幸助
同 善次
山崎与左工門
厚見八〇〇
(八左衛門)

〔正面〕

(不動明王) (二童子)

講中

〔右側面〕

平方村山(谷組)

※この不動三尊像の像容は成田山新勝寺のものと同じである。しかし二童子の間には『成田山』の文字が刻まれておらず空欄のままとなっている。刻み忘れたのであろうか。

51. 六地藏塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 平方・戸崎墓地
石塔型式 笠付き角柱型(北西向き・高さは高)
年号 文化二年(一八〇五)
〔左側面〕
(香炉を両手で持つ地藏菩薩)
(天蓋を持つ地藏菩薩)

〔正面〕

(宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩)

二田介萬壺

戸崎組中

〔右側面〕

(数珠を持つ地藏菩薩)

〔裏面〕

(幢幡「二種の旗」を持つ地藏菩薩)
(合掌する地藏菩薩)

文化一乙丑年

五月吉日

〔右側面〕

安永六丁酉 八月吉日

(14) 戸崎墓地

50. 不動三尊像(『越谷市金石資料集』不動一八番)
所在地 平方・戸崎墓地そば路傍
石塔型式 頭部山状角型(南東向き・高さは中)
年号 元治元年(一八六四)
〔左側面〕
元治元 甲子 年五月吉日

52. 十三仏像容塔(『越谷市金石資料集』十三仏四番)
所在地 平方・戸崎墓地
石塔型式 駒型(北西向き・高さは高)
年号 文化九年(一八一二)
〔左側面〕
文化九甲申年
諸願成就供養塔
二月吉祥日

文化十癸酉 正月十日

方誉円了信士

荣誉清林法尼

(左) 兵右工門内立之

文化十一戌十一月廿九日

〔正面〕

(大日如来) (薬師如来) (宝塔が描かれて)
(阿閼如来) (観音菩薩) (不動明王)
(阿弥陀如来) (勢至菩薩) (地藏菩薩) (釈迦如来)
(普賢菩薩) (文殊菩薩)

〔右側面〕

智良童女
容顔童子
涼夢童女
妙法清信女 文化七年三月七日

※52番は十三仏塔である。最上段には宝冠を戴き、左手に三弁宝珠を乗せ、右手には剣を持つている虚空蔵菩薩、二段目は向かって右側から、智拳印を結ぶ大日如来、左手で衣の一端を握り、右手は降魔印の阿閼如来、阿弥陀定印を結ぶ阿弥陀如来、三段目は、右手は施無畏印、左手は薬壺を乗せた与願印の薬師如来、左手は蓮華を持ち、右手は蓮華の上に当てようとしてゐる観音菩薩、合掌してゐる勢至菩薩、四段目は、禅定印を結ぶ弥勒菩薩(本来なら宝塔を持つが、この像は持たない。描き忘れたのか。)、宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩、左手は蓮華を持ち、右手は小指と薬指を折りその他の指を伸ばして手の平を前側にして指先を外側に向けてゐる普賢菩薩、最下段は、羅索と剣を持つ不動明王、如来の特色である肉髻がはっきりしていないが、施無畏・与願印を結ぶ釈迦如来、左手はお経を載せた蓮華を、右手は剣を持つ文殊菩薩の計十三の仏さまが描かれてゐる。

53・丸彫り法然像付き名号塔(『越谷市金石資料集』名号一七番)
所在地 平方・戸崎墓地

石塔型式 角型(北西向き・高さは高)
年号 寛政四年(一七九二)

〔左側面〕

寛政四子年

〔正面〕

円光大師 南無阿弥陀仏 三億 組中
法然像(大) 師 百万遍 供養塔 戸崎

〔右側面〕

※53番は浄土宗を開いた円光大師法然の像が見られる。法然は「専修念仏」(専ら念仏を修めなさい)を奨励し、百万遍唱えることを目標とさせてゐる。この名号塔には「百万遍」との文字が刻まれている。

十一月吉日

(15) 戸崎稻荷神社

54・文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二一九番)
所在地 平方・戸崎稻荷神社

石塔型式 頭部山状角型(南西向き・高さは中)
年号 文化四年(一八〇七)

〔左側面〕

文化四丁卯年 正月 吉祥日

〔正面〕

青面金剛 (三猿像)

〔右側面〕

新方領平方村 戸崎 講中

※ここに明治十四年の大山参詣記念碑がある。

(16) 小早川家(平方一〇七二)

55・「荒神宮」文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 平方・小早川家(平方一〇七二)敷地内北側

石塔型式 祠型(南東向き・高さは低)
年号 延享三年(一七四六)

〔左側面〕

延享 寅 三歳

〔正面〕

荒神宮

〔右側面〕

(吉祥) 二月 日

※荒神(こうじん)とは、荒々しく崇りの多い神とされている。ここでは三玉荒神(さんぼうこうじん)、つまり「竈(かまど)の神」をさすと思われる。

69. なお、南隣の小早川家(平方一〇七五)の前の路傍には祠があり、その中に高さ約二十八センチの駒型の文字庚申塔の石塔が安置されている。

正面は「庚申塔」、向かって右側面は「明治三年九月吉日」、左側面は「願主 喜右エ門」と刻まれている。 函版(追加平方69)参照

◎また、県道野田岩槻線のコンビニのミニストップ南東そばに再建された高さ六三・五センチメートルの石塔がある。次の通りである。

(道標付き大國神文字塔) (『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 平方・小早川家(平方一〇八五) 南西六十五メートル先路傍
石塔型式 角型(南東向き・高さは中)

年号 昭和六十二年(一九八七)再建

〔左側面〕 成田山へ十七里

〔正面〕 大國神

〔右側面〕 不動尊へ二里

〔裏面〕 大六天へ一里二十丁

小淵観音へ二里
明治廿七年申年九月十五日
小早川定吉

昭和六十二年一月吉日
再建 小早川桂三郎

(17) 川久保旧道の小早川家(平方九六三)路傍

56. 「馬頭観音」文字塔 (『越谷市金石資料集』馬頭二八番)

所在地 平方・川久保の旧道小早川家(平方九六三)路傍
石塔型式 駒型(南西向き・高さは低)

年号 嘉永四年(一八五二)

〔左側面〕 嘉永四亥十月吉

〔正面〕 馬頭観世音

〔右側面〕 五助

57. 「馬頭観音」文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・川久保旧道小早川家(平方九六三)路傍
石塔型式 角型(南西向き・高さは中)

年号 文政十二年(一八二九)

〔正面〕 文政十二年 平方村
(梵字「カン」) 馬頭観立音
三月吉祥日 馬持子中

〔右側面〕 話 久右エ門
世 半右エ門
人

(18) 川久保の旧道の太塚家(平方二〇〇)路傍

58. 地藏菩薩像の墓塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・川久保旧道太塚家(平方二〇〇)路傍
石塔型式 舟型(北西向き・高さは中)

年号 享保八年(一七二三)

〔正面〕 為先祖代々喚誉清倫信女菩提也
(地蔵菩薩像)

于時 享保八癸卯八月吉日 宇田川 七良右衛門建之

※58番は平方二〇〇番地の太塚家にある墓石である。この墓石には次のような言い伝えが残っている。

戸崎の宇田川本家(平方一〇五七)より太塚家に嫁いだ娘(この墓石

の銘文によると、喚誉清倫が亡くなると、宇田川家（銘文によると、宇田川七郎右衛門）は娘のためにこの大塚家の地に墓を建てた。そして供養しにここまでよく出向いたが、それが大変なためこの墓石を自分の屋敷内に移した。すると宇田川家では不幸が続出した。そこで元の場所である大塚家に戻したと言う。大塚家は勿論のこと、今でも宇田川家の人によって八月二十四日の地藏盆の時に大切に供養がなされている。なお墓石は宇田川家に向けて建てられている。

(19) 赤沼の渡し場跡地

59. 「水神宮」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・川久保の渡し場跡地（平方一〇九〇小早川家東隣）
石塔型式 駒型（南向き・高さは低）
年号 天保六年（一八三五）

〔左側面〕 天保六 未 十一月日

〔正面〕

水神宮

〔右側面〕

講 中

※図59は水神宮の石塔である。このあたりは古利根川対岸の赤沼に渡るための「赤沼の渡し場」があった所で、ここに渡し守を務める小早川家（現在はこの近くの平方九六三一一に移転）が住んでいた。今でも小早川家の人が供養をしている。船の安全を願って建立したものであろう。

(20) 大塚家（平方二〇二）邸内

60. 道標付き百箇所巡礼塔（『越谷市金石資料集』道標五番）
所在地 平方・大塚家（平方二〇二）敷地内
後藤家（平方二〇二）との境界線そば
石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは中）
年号 寛政六年（一七九四）

〔左側面〕

あかぬま 道 武州埼玉郡 大塚清兵衛

〔正面〕

右 しゃうない 新方領平方村 小早川七良左エ門
天下泰平 秩父 向こしかや
〔梵字サ〕 奉納西国二百番大願成就 板東 江戸道

〔右側面〕

寛政六甲寅年 左 かすかべ
正月吉日 じをん寺

※秩父三十四箇所、西国三十三箇所、坂東三十三箇所の合計百箇所の観音巡りをした記念に建立したものである。道しるべも兼ねている。赤沼、庄内、越ヶ谷、江戸、粕壁、慈恩寺の地名が見られる。

(21) 山谷の香取神社

61. 「弁才天十五童子」文字塔（『越谷市金石資料集』弁財天二番）
所在地 平方・山谷香取神社
石塔型式 祠型（南向き・高さは中）
年号 寛保二年（一七四二）

〔左側面〕

寛保 二 戌 天 十月 吉日

弁才天宮十五童子

62. 「本宮大権現」文字塔（『越谷市金石資料集』その他二番）
所在地 平方・山谷香取神社
石塔型式 祠型（南向き・高さは低）
年号 享和三年（一八〇三）

元は大塚家敷地内の北西角地にあった。この地点から南方に向かう古道が江戸道、東西の古道には南側に沿って堀があった。（以上、大塚氏からの聞き取り 坂本誠一郎・秦野秀明・田部井久能）

〔左側面〕

享和三癸亥年

〔正面〕

(本)

宮大権現

〔右側面〕

十二月吉日

※62番の石祠には「本宮」との文字が見られる。本宮とは神社の本社という意味ではあるが、ここでは熊野本宮をさしているのであらうか。つまり「本宮大権現」とは熊野三社の一つ熊野本宮(熊野坐神社)に祭られている「家都御子神」を指すのであらう。

63・「天満宮」文字塔(「越谷市金石資料集」天神二二番)

所在地 平方・山谷香取神社

石塔型式 角型(南向き・高さは低)

年号 不詳

〔正面〕

天満宮

64・文字庚申塔(「越谷市金石資料集」に掲載なし)

所在地 平方・山谷香取神社

石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは中)

年号 寛政八年(一七九六)

〔左側面〕

寛政八辰十一月吉日

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿像)

〔右側面〕

山 谷
組 中
崎玉郡新方領平方

(22) 覚山坊墓地

65・如意輪観音像庚申塔(「金石資料集」に掲載なし)

所在地 平方・覚山坊墓地(山谷共同墓地)

石塔型式 舟型(北向き・高さは中)

年号 万治三年(一六六〇)

〔正面〕

万治三年 庚申之供養十二人

(如意輪観音菩薩像)

武州葛飾郡新方村

平方村

十月吉日

※65番は銘文を見ると「庚申の供養」と刻まれているので庚申塔である。江戸時代の寛文年間(一六六一〜七二)になると青面金剛と呼ばれる仏さまが初めて主尊として描かれるようになる。それまでは阿弥陀如来であったり地藏菩薩であったり、主尊が一定していなかった。主尊を如意輪観音菩薩としたこの庚申塔は江戸時代初期の貴重な庚申塔である。

※「武州埼玉郡新方領平方村」とするところを「武州葛飾郡新方領平方村」としている。下総国葛飾郡から武蔵国に移行しても、昔の変わる前の中の地名の名残が残ったものである。新方「庄(荘)」も古い呼び方である。

66・千手観音像付き念仏塔(「金石資料集」に掲載なし)

所在地 平方・覚山坊墓地(山谷共同墓地)

石塔型式 舟型(北向き・高さは中)

年号 寛文十二年(一六七二)

〔正面〕

寛文十二年 壬子八月吉日

奉造立念仏講供養

(多臂の菩薩像・千手観音菩薩)

武州埼玉郡新方村

(郡) 諸旦那(敬)

道行八人

※このすぐそばに、「明治十三年庚辰年十二月吉祥日」と刻まれた成田山の不動明王三尊像を安置した祠がある。

〔29〕 富士土合成工業（現在は住宅地）↑宇守路

67. 六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・旧土手道西側突き当たり路傍・クミ美容室の隣り
石塔型式 角柱型（東向き・高さは中）

年 号 宝永六年（一七〇九）

〔左側面〕

〔碁サ） 于時宝永六己丑年十月吉日願主伝心

丘 比

かつて田圃であったクミ美容室の敷地内の南東角地に埋まっていたこの石塔を発見。（クミ美容室の方より）

〔正面〕

〔碁） 奉納大乗妙典六十八部日本回国

〔塔）

※正面の梵字は「キリク」

〔右側面〕

〔碁サ） 武州新方領平方村司主惣旦那中

〔裏面〕

三界 萬 靈 六 親 眷 属 七 世 父 母 等

※市内で最古の六十六部廻国塔である。

※地元では、この石塔を「金塚」（かねづか）と呼んでいる。

※富士合成工業の場所は、現在、住宅地に変わっている。

会野川の「金塚」伝説

平方と大泊の境にかつては「会の川」が流れていた。その名残が大泊側の人々から「せどっぽり」（漢字にすると「瀬戸堀」か）と呼ばれた堀である。念仏橋通りと堀との交差する地点には比較的長い石橋が戦後まで架かっていた。すぐそばに「石橋」と呼ばれた屋号の家（大泊側）が道路西側に今でもある。その平方側の山谷（さんや）には地元では「金塚」と呼ばれた石塔が今でも建っている。その金塚についての言い伝えがある。高崎力氏によると次の通りである。
江戸時代、戦をおこなっていた侍たちが乗っている船がこの会の川を通ったが、嵐のために難破し、乗っている侍たちは亡くなった。そこで侍たちを葬り、供養するための石塔を建てた。これが金塚の石塔である。石塔の名の由来は、沈没した船には金銀財宝があったとの言い伝えがかつてあって、このように呼ばれるようになったのであろう。
以上の伝説より、地元の人は、今でもこのあたりから北にある県道にかけての地域を俗に「金塚」と呼んでいる。

〔追加・林西寺〕

68. 敷石供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・林西寺墓地内の南東・無縁仏墓所東端
石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは中）

年 号 嘉永元年（一八四八）

〔左側面〕

〔碁） 商人 世話人

〔碁） 四目屋作兵エ

〔碁） 八百屋孫助

〔碁） 山崎屋常吉

〔碁） 米屋甚右エ門 九十郎

〔碁） 肴屋忠兵エ 種 蔵

〔碁） 八百屋権 〇 〇 左エ門

〔正面〕

嘉永元年 戊申年

中村傳兵衛 願同斧八 岩井清右門 小川嘉兵衛 荒井孫右エ門

敷石 供養 塔

當主 村上 荒井孫右エ門 村話沖 両組中 人 惣氏子中

十一月吉祥日

林西寺廿五世 高誉代

〔右側面〕

〔碁） 〇 〇 五郎 小淵 七五郎 〇 〇 金五郎

大場 喜兵治 本郷 仲右エ門 藤塚 滝右エ門

中野 重右エ門 下柳 新八 赤沼 久松

番留 平太郎 樋籠 安五郎 永沼 新左エ門

袋 治郎兵エ 大杉 佐蔵 水角 伊右エ門

※この無縁仏の墓所の中に板碑あり。

追加 69. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

小早川家（平方一〇七二）の前の路傍（古道）には祠があり、その中に高さ約二十八センチの駒型の文字庚申塔の石塔が安置されている。

正面は「庚申塔」、向かって右側面は「明治三十年九月吉日」、左側面は「願主 喜右エ門」と刻まれている。

令和元年現在、所在不明

旧大泊村の石仏

(1) 大泊観音堂

千手観音菩薩を本尊として祀る大泊観音堂は左甚五郎が一夜で建立したとの言い伝えがあり、馬喰たちなどの参詣で大いに賑わった。堂内に縁日の賑わいを描いた額絵馬が掲げられている。
また、この観音堂の東隣りにある集会所は福寿山慈眼寺(浄土宗寺院)の跡地である。

1. 六観音石幢(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 六面石幢「単制」(東向き・高さは高年号 宝曆五年(一七五五))

〔裏面〕

(千手観音菩薩像)

〔左側面〕(向かって右側面)

(正観音菩薩像)

〔正面〕

〔台石〕

為村中一切精霊

為先祖一家精霊

為超譽響音信士

為思明童女

(如意輪観音菩薩像)

宝曆五乙亥年

九月十二日

施主大泊村

高崎三左衛門

〔右側面〕(向かって左側面)

(十一面観音菩薩像)

〔裏面〕

(馬頭観音菩薩像)

〔真裏面〕

(合掌する観音菩薩像) 准胝観音?

※施主の高崎三左衛門は江戸時代の大泊村の名主で、代々「三左衛門」を名乗り、その子孫は明治時代に桜井村の村長を勤めた。

2. 千手観音菩薩像(『越谷市金石資料集』庚申塔八五番)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 舟型(東向き・高さは中)年号 享保十年(一七二五)

〔正面〕

□圓大徳

(十一面千手観音菩薩像)

享保十巳天八月廿日

※頭上に十面の顔があるので、十一面観音菩薩であるが、腕が二本ではなく多臂であるので、十一面千手観音とわかる。正しくは、「十一面千手千眼(せんじゅせんげん)観音」といい、通称は千手観音という。なお、この石仏は『金石資料集』では庚申塔とされているが、庚申供養に関する文字が見当たらないので庚申塔ではない。

3. 文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一八四番)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 角柱型(東向き・高さは中)年号 寛政九年(一七九七)

〔左側面〕

寛政九丁巳二月吉日

※『資料集』では三月と誤って記載。

〔正面〕

青石面金立剛

講中

(三猿像)

◎馬頭観音菩薩文字塔(『越谷市金石資料集』馬頭五〇番)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 駒型(東向き)年号 昭和二十五年十二月吉日(一九五〇)

〔正面〕 馬頭観音世立目 ※右側面に「施主 森田軍治・源太郎」

4. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一五九番)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 駒型(東向き・高さは中)年号 天明元年(一七八一)

〔左側面〕

大泊村下 講中 願主 □(榎) 田勘右衛門

〔正面〕

(日月・青面金剛・鬼・三猿)

〔右側面〕

天明元 辛 丑年十二月朔日

5. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔五〇番）
所在地 大泊・観音堂境内
石塔型式 駒型（東向き・高さは高）
年号 正徳元年（一七一）
〔正面〕

正徳元年
（日月・青面金剛・鬼・三猿）
卯十月吉日

※『資料集』では九月と誤って記載。

6. 普門品供養塔（『越谷市金石資料集』普門品三〇番）
所在地 大泊・観音堂境内
石塔型式 自然石（東向き・高さは高）
年号 嘉永七年（一八五四）
〔正面〕

〔台石〕
高崎 大泊村
森田 〇（恵）五郎
高崎 源七
森田 〇（甚）三郎
森田 庄三郎
〇根（関根）平兵衛
〇〇〇七
〇〇孫四郎
〇〇萩原 〇三郎
〇〇（瀬緒）之伝三郎
森田 〇〇（甚五）兵衛
〇〇（瀬緒）之新五右衛門
森田 九郎兵衛
高崎 与兵衛
森田 市兵衛

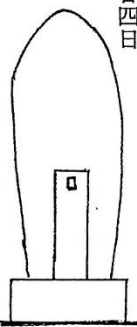
※大泊村の謎の箱屋長八
文政年間に式亭三馬の桐箱入りの化粧水
「江戸の水」の桐箱を作った大泊村の
箱屋長八の苗字は、この石塔に刻まれている
「瀬尾長八」より、瀬尾ではないだろうか。
（秦野秀明氏）

〔台石〕
那倉 彦四郎
高崎 三左衛門
長本 善三郎
那倉 政右衛門
名倉 善兵衛
金子 長次郎
瀬尾 彦右衛門
高崎 仁右衛門
同 喜四郎
瀬尾 幸七
森田 新八
萩原 平八
森田 三郎右衛門
高崎 市右衛門
藤次郎 藤次郎

〔裏面〕
嘉永七寅正月十七日 造立
別当 慈眼寺

講中安全
※江戸の「千住の名倉」高崎力氏によると、先祖は大泊村出身であるという。
大泊村には名倉（那倉）家が多いが、「骨つき」として「千住の名倉」
で有名な名接骨医の名倉家は、もとは享保年間（一七一六）初期頃に
大泊村から千住に移り住んだ名倉家十一代弥次兵衛の子孫であるという。
7. 地藏庚申供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 大泊・観音堂境内
石塔型式 舟型（東向き・高さは高）
年号 寛文九年（一六六九）
〔正面〕

念仏 井 庚之供養
（梵字「カ」）（地藏菩薩像、股のあたりに縦長の長方形の小穴）念仏講村仲
寛文九 己 酉年十月廿四日



裏側

※石仏の裏側に下図のような縦長の長方形の大きな穴の部屋がある。
縦は約62センチ、横は約18センチ、奥行きは約22センチである。フタができるようになっていて、何のためなのか不明。
※「庚之供養」との文字が見られるので、庚申信仰をもちかねた石仏である。
◎階段及敷石奉納記念塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 大泊・観音堂境内
石塔型式 頭部丸型（南向き・高さは中）
年号 昭和五年四月
〔正面〕

階段及敷石九枚
千葉縣印旛郡八生村大字山口 山田 ゆみ
東京府下 吾 嬢 請地 吉原 いと
南埼玉郡桜井村大字大里 時田 藤太郎
王子滝野川 谷津 高崎 福松
東京府下 吾 嬢 請地 吉原 富之介
南埼玉郡川通村大字大戸 小嶋 あか
納 発起人
南埼玉郡桜井村大字大泊 高崎 弥助
昭和五年庚午四月建之
粕壁町 石盛刻

8. 精霊供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 大泊・観音堂境内
石塔型式 自然石 (西向き・高さは高)
年号 文化四年 (一八〇七)
〔正面〕

雅ハ正なりと侍れハ日課の暇

風流の一句を世に残すてふ

またもとの

地蔵菩薩

精

くにへ生れむ

一名 和光

たねふくへ

霊

※碑文中で「暇」は「いとま」と読む。また「たねふくへ」(種瓢)とは種子をとるために残しておく瓢箪の実のこと。「またもとの」の句は慈眼寺十二世瑞誉の辞世の句であろう。

〔裏面〕

慈眼寺十二世

縁運社瑞誉辨隆 生年 造立墓

文化四卯三月中旬

9. 地藏菩薩像の墓塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 舟型〔推定〕 (西向き・高さは高)

年号 不詳

〔正面〕

(地蔵菩薩座像) 明誉日兄了墓

10. 六地藏石幢 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 六面石幢〔单制〕 (西向き・高さは高)

年号 寛保元年 (一七四一)

〔裏面〕

(合掌する地藏菩薩像)

〔左側面〕

(柄香炉を持つ地藏菩薩像)

〔正面〕

(数珠を持つ地藏菩薩像)

〔台石〕
為先祖一家
精霊菩提

寛保元年 辛酉 檢

念誉教順信士

九月廿五日

武州崎玉郡大泊村

施主

高崎三左右衛門

〔右側面〕

(宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩像)

〔裏面〕

(幢幡を持つ地藏菩薩像)

〔真裏面〕

(天蓋を持つ地藏菩薩像)

11. 六地藏石幢 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大泊・観音堂そば墓地 (観音堂西隣り)

石塔型式 六面石幢〔单制〕 (南向き・高さは高)

年号 享保八年 (一七三三)

〔裏面〕

(数珠を持つ地藏菩薩像)

〔台石〕
慈眼寺
品誉代
願主方誉
専西

〔左側面〕

(宝珠と蓮華を持つ地藏菩薩像)

奉読
誦三
部妙
典一
千部

〔正面〕

(天蓋を持つ地藏菩薩像)

〔右側面〕

(幢幡を持つ地藏菩薩像)

〔裏面〕

(薬壺を両手で持つ地藏菩薩像)

〔真裏面〕

(合掌する地藏菩薩像)

念仏講中
臺誉桑林
宝誉栄樹
享保八癸卯年
奉造立
八月吉日

※この石仏は国道四号バイパス建設に伴い、現バイパスの大泊交差点内の南東部分にあった金子家（大泊一七）個人墓地より移転したものである。大泊7番や次の12番も同じである。

12・六地藏石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）所在地 大泊・観音堂そば墓地（観音堂西隣り）石塔型式 六面石幢「単制」（南向き・高さは超高）年号 寛延四年（一七五二）

〔裏側面〕（柄香炉を持つ地藏菩薩像）
〔左側面〕（数珠を持つ地藏菩薩像）
〔正面〕

「台石」
寛延四年 辛未年十月七日

先祖代之精靈
一切精靈者□（興々）縁本
奉唱念仏十八億供養
清浄淨心比丘
大泊邑
施主高崎三左衛門

〔右側面〕（幢幡を持つ地藏菩薩像）
〔裏側面〕（天蓋を持つ地藏菩薩像）
〔真裏面〕（台掌する地藏菩薩像）

（2）大泊薬師堂墓地

この薬師堂はもと長福寺と呼ばれた寺院の跡地である。ここに閻魔大王が安置されていた。現在は安国寺境内に新設した閻魔堂に移されている。このお堂の名称からすると閻魔様の他に薬師如来が祀られていたに違いない。この薬師如来は長福寺の本尊だったのである。それが安国寺に安置されている出処不明の薬師如来像をさすのであろうか。

13・浮彫三尊像付き墓塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）所在地 大泊・薬師堂墓地
石塔型式 駒型（東向き・高さは高）年号 享保十八年（一七三三）

〔正面〕

（合掌する菩薩像）
（如来像）
（宝珠を持つ菩薩像）

元禄三庚午載
七月廿八日
相誉詠實信信女
皓誉輝山信信土
蘇誉妙照信信女

享保十八癸丑載
十月廿一日

※上部の三尊像で、中央の如来は残念ながら印相がはっきりしておらず、施無畏・与願印の釈迦如来像とも思われるが不明である。墓塔に誉号がみられるので浄土宗の墓地である。それゆえ阿弥陀来迎印の阿弥陀如来像だとすると脇侍は合掌する勢至菩薩像、蓮台を持つ観音像となる。また戒名の中の文字で「蘇」は「こう」と読む。

◎那倉靈神石碑（第六天と那倉靈神を祀る那倉靈堂「大泊第六天」）
薬師堂そばの那倉家（大泊六〇番）には今もお堂が建っている。大六天を祀る那倉靈堂である。その前庭には大正十一年建立の『那倉靈神』と刻まれた大きな石碑がある。他には、水ごりに使用された井戸や手水舎、天水桶の礎石が今も残っている。靈神とは靈験あらたかな神という意味で、那倉貞助（ていすけ）を神として敬ったのであろう。

那倉貞助は、川通村大戸（現、岩槻市内）に鎮座する第六天社の影響を受けて祈禱師となる。この石碑を建立したのは弟子の黒羽（くろは）幸次郎で『那倉靈神』とは師の那倉貞助をさす。また裏面の文中の良蔵は幸次郎の倅である。幸次郎は千住に移り住んで第六天の信仰を広めた。那倉靈神の元には加持祈禱を受けに来る人々が大変賑わい、『元武講』という講中もでき大いに広まった。裏面には次の文が刻まれている。（加藤幸一作成）

我師故先達那倉貞助氏今去明治二十五年妻痼疾罹醫療祈禱重更効果無病床呻吟事二年余益危篤陷困苦沈居處不思議川通村大字大戸鎮座第六天神社如何難病祈願靈顯者大告者有直祈誓荒川瀨入灌水懈愈無百度百拜動感應効驗垂賜三週日快癒向感銘銘先達為諸人病難救濟聞偶々我倅良蔵明治二十七年中發狂神力及處盡雖病勢益々昇騰快癒覺束無一家失望落膽居處其吉報依雀躍直行先達祈禱乞共寒水身滌丑刻或無言行其他難行苦行靈驗顯神鎮鎮靜以醫藥進旭天達如一週日出恢復之神力醫藥奏効覺神恩報為先達門入病難災厄除者救濟念起東都千住移任第六天神社信仰居加祈禱者續々來病災厄除去者無數回願三十有餘年其神德浴者進依講社組織之元武講稱講員日々増加廣大成之偏神力先達教導賜物肝銘紀念碑表建設

大正十一年一月

神道修成派
大六天先達
中宣教 黒羽幸次郎

カスカベ
白石代次郎彫刻

那倉靈神石碑（読み下し文）

我方師故先達那倉貞助氏 今ヲ去ル明治二十五年 妻痼疾ニ罹リ醫療ニ祈禱ヲ重ネ
 更ニモ効果無ク 病床ニ呻吟セシ事二年余 益危篤ニ陥リ困苦沈居ノ處 不思議
 二川通村大字大戸ニ鎮座ス第六天神社ハ如何ナ難病ノ祈願ニモ靈ノ顯レ著シト
 大ニ告ル者有リ 直ニ祈誓シ荒川ノ瀬ニ入り灌 Waters 懈怠無ク百度百拜ノ勤メ
 ニ感應ノ効驗ヲ垂レ賜フ 三週日ニテ快癒ニ向ヒ感銘セバ 先達ヲ為シ諸人ノ病難
 ヲ救濟セント聞ク 偶々我が伴良藏明治二十七年中ニ發狂シ神力ノ及ブ處ヲ盡スト
 雖モ病勢ハ益々昇騰シ快癒ハ覺束無シ 一家ハ失望シ落膽ニ居ル處 其ノ吉報ニ
 依リ雀躍直行シ先達ノ祈禱ヲ乞ヒ共ニ寒水シテ身ヲ滌フ 丑刻ニ或テ無言ノ
 行其他ノ難行苦行ニテ靈驗ヲ顯シ 神經ヲ鎮靜シ以テ醫藥ヲ進メ 旭天ニ達
 ス如ク一週日ヲ出テ恢復ス 之神力ト醫藥ノ奏効ト覺ユ 神恩ニ報ユル為先達ノ門ニ
 入り病難災厄者ノ救濟ヲ念起シ 東都千住へ移リ住ミ第六天神社ノ信仰ニ居ル 加持
 祈禱ノ者續々來タリテ病魔災厄ヲ除去セシ者ハ無数ト回顧ス 三十有余年其神徳ニ
 浴ス者進ミ依リ講社ヲ組織シ之ヲ元武講ト稱ス 講員ハ日々増加シ廣大ニ成ル之レ
 偏ニ神力ハ先達ノ教導ノ賜物ト肝ニ銘ジ 紀年ノ碑ヲ表シ建設ス

大正十一年一月 神道修成派

第六天先達 中宣教 黒羽幸次郎

カスカベ 白石代次郎彫刻

- 註1. 長煩い。 註2. 経る、経験する。 註3. 苦しむ。 註4. 清らかな精氣。
- 註5. 声を大にして。 註6. 神に祈って誓いを立てる。 註7. 水を注ぐ。
- 註8. 精進を怠らない。 註9. 信心が神靈に通じること。 註10. 午前2時。
- 註11. 祈願に対する靈妙(尊く不可思議な事)な効驗。 註12. 朝日に輝く天空。

(読み下し文 大谷達人氏)

(33) 大泊香取神社

大泊村上組の鎮守。ここに十一面觀音像が安置。この香取神社を持ち分
 とした安国寺のかつての仏像であったのであろう。下組の鎮守は、春日部
 バイパスの大泊交差点のそば、大泊二七九の長本家の北隣路傍にあった。

- 14. 不動三尊像(『越谷市金石資料集』不動一九番?)
- 所在地 大泊・香取神社境内
- 石塔型式 火炎光背付き浮き彫り石塔(北々東向き・高さは中)
- 年号 慶応二年(一八六六)正月?
- 〔正面〕

(火炎光背を伴った不動明王像) (二童子像) 成田山 講村

※『資料集』の不動一九番に該当するとしたら、建立年は慶応二年となる。

- ◎『水神宮』文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
- 所在地 大泊・香取神社境内
- 石塔型式 自然石(北々東向き)
- 年号 大正八年二月廿八日(一九一九)
- 〔正面〕

水神宮

15. 天神塔(『越谷市金石資料集』天神一〇番)

- 所在地 大泊・香取神社境内
- 石塔型式 祠型(北々東向き・高さは中)
- 年号 文化十年(一八一三)
- 〔左側面〕
- 文化癸酉年
- 三月二十五日

〔正面〕

表面が破損していて不明

〔右側面〕

慈眼寺十二世

瑞誉代

□(寮)主 心了

◎『御嶽神社』文字塔(『越谷市金石資料集』御嶽四番)

- 所在地 大泊・香取神社境内
- 石塔型式 自然石(北々東向き)
- 年号 「明治十三年第一月再建」(一八八〇)と裏側に記載されている。
- 〔正面〕

御嶽神社

◎『稻荷大神』文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

- 所在地 大泊・香取神社境内
- 石塔型式 自然石(南々西向き)
- 年号 明治十九年十月(一八八六)
- 〔正面〕

稻荷大神

16・四十九院塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・香取神社境内

石塔型式 家型塔（石殿せきだん、石室、石厨子・高さは中）

平入りの正面に縦長の四角形の窓が開いており、上部に小さな窓が六つ、下部に大きな窓が一つある。台石には階段らしき図が描かれている。

年号 不詳

※『石仏入門』（日下部朝一郎著）によると四十九院塔と思われる墓塔である。四十九院塔についての説明を引用すると次の通りである。

「弥勒菩薩の住む所の兜率天（とそつてん）にある内院で、中央は弥勒菩薩の宝殿、その四方に各十二院あるという。この殿を墓石としたのは人の死後兜率天に生まれることを願ったもので、普通石殿の周囲には四十九本の塔婆が刻んである。この形式は室町以降現れ室部の四囲に塔婆を彫り出し階段までついているという丁寧なもの。」

17・「諸願成就」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・香取神社境内

石塔型式 祠型（西南西向き・高さは低）

年号 宝永五年（一七〇八）

〔左側面〕 宝永五戊子 天九月

〔正面〕

奉納諸願成就□□（祈願々）

〔右側面〕

施主

大泊村 高崎三左衛門

◎『雷電』文字塔（『越谷市金石資料集』雷電三番）

所在地 大泊・香取神社境内

石塔型式 祠型（南々西向き）

年号 明治四十年十二月（一九〇七）

〔正面〕

雷田電□□（神々）※左側面に年号、右側面に「大泊村」。

（4）大泊安国寺

大龍山東光院安国寺は、もとは、鎌倉初期の武士であり、法然に帰依した熊谷蓮生坊直実の営む草庵であったという。それを康安元年（一三六一）に、紀伊国熊野路の大泊村の安国寺の住職専故がやって来て、村を開き、寺を開き、郷里や郷里の寺院の名からとり、「大泊村」「安国寺」と名付けたという。また、安国寺はもとは上間久里の堂前（字名）にあったと伝わっている。間久里方面に安国寺の檀家が多くみられるのはそのためか。

この先（南西）の新方川（千間堀）に架かる「念仏橋」は、安国寺住職が、この橋を渡るたびに念仏を唱えたとの言い伝えがある。

◎宏善上人再建の宝篋印塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・安国寺境内

石塔型式 宝篋印塔

年号 明治四年三月（一八七二）再建

18・雨乞いの名号塔（『越谷市金石資料集』名号二七番）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔型式 角型（北向き・高さは高）

年号 慶応三年（一八六七）

〔左側面〕 慶応三年丁卯六月再立

〔正面〕

南無阿弥陀仏

雨 請

※『雨請』は「あまごい」と読む。

〔右側面〕

かれ／＼の（↑） かへるなり（↑） 雨のふりきて

いねもあをさか 神のめくミの 宏善

〔裏面〕

願 大 枝 村
上 間 久 里 村
下 間 久 里 村
主 大 泊 村

19・安政コレラの名号塔（『越谷市金石資料集』名号二五番）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔型式 自然石（北向き・高さは超高）

年号 安政六年（一八五九）

〔正面〕

南無阿彌陀仏 大龍山

行眷(花押)

〔台石〕

萬

人

講

※行眷とは宏善上人の法名(戒名)

『萬人講』は地元では「まんにんこう」と読む。

〔裏面〕 ※解説にあたっては大谷達人氏の協力を得ました。

去年の七月はかり いとあやしき疾出来 初て世中なへてやミのしり

あはれにも はかなくうせにし人よ いくそばくか かそへも尽ぬ

それか為にとて 八月廿七日より いくそばく(幾十許)・幾何

十月望の日までころある限 此精舎につとひ 種々の手向して

屋夜わかす 弥陀仏の御名唱へて 懇二 わかす・分かす

とふらひつる 此ひとくハ 露もやミたるハあらざりき せらるハ

おのか志しの為にとて 物せしにハ せらる・何かをするのは

あらねど 其功德の自にむくひきぬる故にやあらんと いとまたふとく

覚えて 此度碑をつくり つかれば・このようであるから

尚もとてなん か、れハ いよく 此世は万の禍事をのかれ

さきくならへて 後の世は彼人々とともに さきく・幸いに

一つ蓮の台にのり 常に月の御面をあふかん事 疑ふへくもあらずなん

其所由する さまく 所由・理由

言葉の拙きを かへりみす やかて筆をとる

みつせ川・三途の川

人の身はあさきねさしの 芝なれやしものおくにも つかれぬはかりそ

みつせ川 わたりわつらふ 人しあらハ 手火をしとりてしるへをハせん

安政六年十月 行眷 宏善 石工春日部宮仙蔵

※粕壁東二丁目の東八幡神社の狛犬は石工・宮仙蔵の作品である。

※安政五年に長崎に上陸したコレラが東進して江戸に達したという安政五年のコレラ大流行のこの近辺の様子である。江戸近在の当時の様子を知る貴重な碑文といえる。この石碑は『安政コレラ』に際して結成された万人講の記念碑。安国寺にて昼夜参籠して念仏を唱え続け悪病の侵入が阻止できたので、その仏の功德に報いようと碑を建てたものである。

〔台石左側面〕

〔台石裏側面〕

大場 原住太郎 布富氏

武州埼玉郡新方領

一ノ割

大泊村

磯五郎 仙右衛門

石川喜八 森田弥五右衛門

越ヶ谷宿 岩吉

同 助右衛門 同 安右衛門

講中

高崎清右衛門 渡辺栄蔵

八〇(内カ)

長本万次郎 同 庄三郎

セハ人 大川戸 講中

同 平次郎 同 新八

セハ人 伊助

瀬尾仁右衛門

本所本山 喜代

那倉彦四郎 高崎三左衛門

深作村 庄之助

長本伴蔵 那倉政右衛門

船渡村 藤右衛門

那倉政之丞 関根安之丞

三ノ宮村 裕助

名倉善兵衛

前谷村 三蔵

当村 惣志中

大枝村 仁右衛門

安政六 己未年 正月廿五日

下内川村 上間久里村

院内 千代

当村 那倉氏

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

院内 千代

〔台石右側面〕

惣村志中

上間久里村 大里村 大船方村 大平枝村 大備後村 大野割村 大川崎村 大向吉村 大弥十郎村 大恩間村 大竹道村 大宮村 末ノ宮村 高曾根村 野嶋方組

上間久里村

上原政右衛門

同次右衛門

吉岡太左衛門

上原源左衛門

同五郎左衛門世

関根太右衛門

上原佐兵衛

下間久里村

松崎長左衛門

同〇〇〇(半介)

九里〇兵衛

新井新右衛門

平仙右衛門

平方村戸崎

小早川甚左衛門

同久左衛門

山谷組

森貞次郎

同次郎八

船渡村

瀬尾三左衛門

同基兵衛

同大嶋

神田仁左衛門

大林村

瀬尾弥五郎

会田徳蔵

大枝村

伊原清右衛門

大里村

源兵衛

大沢町

セハ人

※『金石資料集』では「安政〇・六・〇」と記載。

那倉靈堂「大泊第六天」境内にある石仏(平成二十七年二月追加)
 大泊六〇の那倉家敷地内には、明治の頃の石仏が二基ある。もとは、那倉家の裏、せどつぼり(会野川の名残)側から住居そばに移してきたものである。
 一つは、「明治廿一年十月 水神宮 那倉氏」と刻まれた高さ三十七センチの駒型の石塔である。もう一つは、「明治廿〇年 馬頭観世音 七月廿四日」と刻まれた高さ四十一センチの頭部山状角形の石塔である。左側面に「櫻井村大字 大泊 施主 那倉貞助」と刻まれている。

20. 六地藏石幢(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 六面石幢(東向き・高さは高)

年号 正徳五年(一七一五)

〔裏面〕 (数珠を持つ地藏菩薩像)

〔左側面〕 (柄香炉を持つ地藏菩薩像)

〔正面〕 「台石」 正徳五協洽祀

(合掌する地藏菩薩像) 四極上流五柘

※協洽(きょうごう)は十二支の未。上流は上旬。台石に刻まれた文は、「正徳五未年四月五日」という意味か。

〔右側面〕 (天蓋を持つ地藏菩薩像)

〔裏面〕 (幢幡を持つ地藏菩薩像)

〔真裏面〕 (宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩像)

21. 名号塔(『越谷市金石資料集』名号二二番)

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 ほぼ角柱型(東向き・高さは高)

年号 宝暦三年(一七五三)

〔正面〕 奉唱念仏六億六百六十万六千遍

南無阿弥陀仏(蓮台) 百万遍講中上組

宝暦三癸酉 年十一月十五日 願主那倉玄鈞

22. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔七五番)

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 笠付き型(東向き・高さは高)

年号 享保六年(一七二二)

〔左側面〕 享保六辛丑 年 願主小嶋孫八

〔正面〕
（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）
〔右側面〕

十二月吉祥日講中男女四拾七人

23. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一八三番）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 角柱型（東向き・高さは中）

年号 寛政九年（一七九七）

〔左側面〕
寛政九丁巳二月吉日

〔正面〕

（日月） 青面金剛（三猿）

24. 『新六阿弥陀五番』標識石塔（『越谷市金石資料集』掲載なし）所

所在地 大泊・安国寺墓地、現在は境内地の正面に移転。

石塔形式 角型（東向き・高さは中）

年号 天明八年（一七八八）

〔左側面〕
天明八戊申五月廿五日

〔正面〕
新上八阿弥陀五番 ※平方二〇番の解説を見よ。

〔右側面〕
武州埼玉郡新方領船渡邑 願主

受道欽□

25. 三界万霊塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 角型（東向き・高さは中） ※頭部上面に盆状穴が見られる。

年号 弘化四年（一八四七）

〔左側面〕

弘化四□□□□

〔正面〕

願以此功德平等施一切

三界万霊等 同発菩提心住生安楽園

〔右側面〕
当寺 行誉上人代

※三界万霊等の『等』は『塔』の俗字

26. 念仏供養塔（『越谷市金石資料集』掲載なし）
所在地 大泊・安国寺墓地
石塔形式 笠付き角型（北向き・高さは中）
年号 不明

〔左側面〕

寂室貞田大姉 了淨自柏信女 照願清鏡比丘尼

長受正意居士 大安道慶居士 紅月妙秋大姉

樹院林誉光栄比丘尼 光誉心桂信士 照山高哲童子

忠屋桃林童子 暁月露幻童子

〔正面〕

（梵字「サ」）
（梵字「キリク」）奉称念仏廿一億四百万遍 供

（梵字「サク」）

養 溪月院方誉樂水蓮西居士

〔右側面〕

桐院道圭居士 談月妙光大姉 本室正玄居士

松岳利貞大姉 清誉浄西居士 言誉妙忠禅尼

融智院願證正鐵居士 夢覚常隠信士

誠円院唯證妙智大姉 清庵妙意信女

〔参考〕中興・宏善上人の地藏尊像付き墓塔（『金石資料集』掲載なし）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 丸彫り像（北向き・高さは中）

年号 不明

〔地藏尊像の裏側の背中〕

明治廿五年 中興乗蓮社行誉上人称阿入楽 善

一月十四日写

〔地藏尊像の右肩後ろ〕

北豊島郡岩淵町

正光寺廿六世

願主 大谷栄純

安国寺エ 日課講中

同郡同町

発起 佐野政右衛門

〔地藏尊の台座の反花（かえりばな）〕

周囲に十一組の反花がみられ、それぞれに多くて十名程度の名前がびっしりと刻まれ、合わせると、その数は百名を超す。

※以上の他に、土台となる台石にも、東京や千葉にも及ぶ出身地の地名が添えられた名前がびっしりと刻まれている（次の頁参照）。

宏善上人の巨大な墓の造立に協力した人々の総数はおよそ七百六十名に及ぶ。広範囲の多くの人々に慕われた宏善上人の遺徳が偲ばれる。

※正光寺（しょうこうじ）は、現・北区岩淵町にあり。

正面

台石 I

中興宏善墓

増上寺

竟譽(花押)

吉水善了 坂本作司 石川太左工門 小坂菊太郎 武正松五郎 細井平右工門 坂本徳次郎 大山牛五郎 篠崎仙八 星野忠次郎 小林六之丞 小管三次郎 高橋惣左工門 高橋キノ 香山三木蔵 越沼惣右工門 川辺桂次郎 奥泉市三郎 奈良清八 坂田三右工門 小磯作之丞 斎藤松五郎 関口シケ 田川新三郎 田川市之助 池次清兵衛 上原新次郎 上原周次郎 坂巻太良 金子清次郎 金子勘太郎 荒井平八 九ノ里惣次右工門 松崎健蔵 松崎長左工門 松崎久真 坂巻勝五郎 坂巻久八 清水清太郎 坂田シケ 中村林蔵 稲葉作蔵 那倉官三郎 林屋タカ 堀井マス 斎藤孫兵衛 森 貞喜 小早川清左工門 森田倉次郎 金子彦右工門 長本長左工門 山口佐吉 森田藤三郎 長本善吉 那倉松次郎

台石 II

森田助右工門 那倉末次郎 森田〇五右工門 那倉岩吉 今井清三郎 今井イノ 岸 久次郎 吉田光次郎 高橋〇〇 関根仙蔵 長野田吉 浦野キク 石川権平 石倉又右工門 新井助蔵 長野権兵衛 長野兼三郎 長野卓爾 渡辺与右工門 福井シユン 福井キセ 岡安久兵衛 神田八十吉 種村忠次郎 神田能蔵 金子由太郎 柳 福太郎 小島鑄四郎 染谷七良兵衛 小林浅五郎 小林鉄五郎 岩井テイ 角山島太郎 渡辺長吉 宮次常五郎 八木下喜志太郎 大川儀兵衛 中村国蔵 鈴木重左工門 谷古字次兵衛 太田九左工門 念仏同行 小野沢八造 斎藤善兵衛 芝田安平 飯嶋常五郎 長野四良兵衛 高次五三郎 小宮ヤマ 細沼良助 八嶋フノ

台石 III

村々世話人 小鈴儀右工門 嶋村利助 前橋常五郎 新井助蔵 関 石蔵 渡邊藤七 青木助太郎 鈴木勝右工門 中山平八 岡田吉蔵 川口与左工門 坂巻由之 面來勝五郎 同 権次郎 名倉福松 豊田久次郎 中村平左工門 同 太市 念仏講中 金子与平 増田伝蔵 鈴木吉右工門 山崎甚三郎 古谷菊次郎 豊田五助 加藤松石 堀井三蔵 小林浅三郎 同与五郎 山崎五良右工門 石塚友治郎 嶋源之丞 根岸鉄太郎 藤波次郎右工門 高橋〇太郎 山下才之丞 橋本杉右工門 萩原佐太郎 白倉甚左工門 関根忠太郎 吉沢長太郎 嶋田武八 高橋利右工門 青羽吉之助 須賀伊左工門 関根仙蔵 中村安右工門 藤波清太郎 正木伊三郎 斎藤治兵衛

左側面

台石 I

砂岡九平 檀中世話人 上原次良右工門 同 徳治郎 吉岡吉太郎 川村三蔵 関根団蔵 石嶋イク 荒井新右工門 藤野ミク 飯野佐左工門 平 仙右工門 飯野中 松崎康之助 萩野宗七 瀬尾八良右工門 腰塚宗吉 会田喜〇工門 同 源蔵 瀬尾伝吉 石川重三郎 瀬尾五良左工門 増田仁三郎 神田常五郎 乘運講世話人 神田次兵衛 乘運講世話人 森 大儀 真々田岩太郎 小早川小三郎 石井広三郎 伊原静助 中村治太郎 高崎三左工門(大泊村) 新井助蔵 高崎三木蔵 西岩寺 渡邊梅之助 小川栄治郎 那倉貞助 川嶋喜藻治 長本継次郎 木内慎吉 宏誉妙善尼 大聖寺 藤浪伝左工門 長福寺 藤浪伝左工門 慈眼寺 小川源右工門 慈眼寺 中村喜太郎 当寺廿七世 田村トク 諸善善成代 清水フン 維時明治廿六歳次※ 鹿間市兵衛 四月二十五日立之

台石 II

樋口清吉 岡田仁左工門 小森伝三郎 嶋田基次郎 尾ヶ井清蔵 塩田キヨ 鈴木宗次郎 永嶋七三郎 戸辺千代松 保長与三郎 永瀬源五郎 倉持栄七 小川万平 篠田藤次郎 赤沼和助 飯山久次郎 増田福次郎 増田豊吉 原田長之助 関根三良兵衛 並木次左工門 並木春蔵 嶋村クノ 関根シマ 小倉三左工門 山川仁兵衛 野本ワシ 宇田川重左工門 金子六右工門 大越兵左工門 斎藤善三郎 百足新太郎 橋本幸松 横張忠右工門 萩原松五郎 小宮兄三郎 徳井忠次郎 山本祖戒尼 浅子長吉 中山スカ 鹿間フサ 同 サタ

台石 III

平井助治郎 岡田亀五郎 瀬田民五郎 鈴木太右工門 川口与平次 飯嶋庄蔵 浅古清右工門 関根伝吉 大熊伊左工門 〇田市五良 藤間助右工門 福田金蔵 坂巻善三郎 岡本久太郎 田中清助 今井勘右工門 小岩井七蔵 藤井定吉 山崎清左工門 鈴木源次良 飯箸新五郎 吉田順吉 中村種武 宮田兵右工門 山崎熊蔵 新井助蔵 大橋八八 白井七五郎 瀬田丑蔵 篠田弁治良 宮田新三郎 小川啓助 九ノ里桑次良 篠崎織右工門 名倉与左工門 細沼貞之助 小林浅五郎 岩井テイ 木村甚右工門 小倉長右工門 同 勘蔵 宇佐美半兵衛 関口菊蔵 白石弥平 小沼吉左工門 辻 清次郎 稲葉喜左工門 岩佐長右工門 鈴木直次郎 真々田キヨ 山口キシ 嶋村新五右工門 小嶋太兵衛 須賀惣治良 山田マス 金子サト 関根源吉 長谷川伊蔵

右側面

台石 I

小野塚銀三郎 根津勝治郎 古庄象次郎 神谷卯吉 吉田泰助 太田滝右工門 中村勘右工門 荒井吉右工門 堀井三藏 矢嶋清五郎 矢嶋常吉 橋本幸吉 石川仁平治 石川卯石工門 尾崎伝八郎 白鳥忠治郎 小早川卯之松 新井伝六 吉岡太郎助 吉岡太四郎 吉岡吉兵工 池沢勝藏 山崎金右工門 長本善四郎 那倉五右工門 関根源治郎 森田安右工門 大熊マツ 池田良随尼

台石 II

松木房五郎 田中恒周 長谷川仙藏 辻清次郎 松崎千代藏 豊田久左工門 渡辺忠八 加藤周助 高梨千代松 中田仙五郎 松沢仙助 中村仲右工門 マツ(妻) 瑞光哲林尼 隅田武八 関根宗輔 櫻本ヒサ 石川鳳藏 長本馬次郎 森 留伝之助 森 善吉 角田善藏 山崎常右工門 藤波伝左工門 鈴木庄五郎 梅馨花香 奈良治良兵工 萩原百助 浅子リッ 酒井忠藏 瀬尾ハケ 長本馬次郎 長本善吉 石嶋藤兵工 堤作右工門 法養寺※ 鈴木道太郎 三浦秀次郎 駒崎幸右工門 遠藤小兵工 有滝平太郎

台石 III

市川金藏 中嶋忠吉 内田岩藏 同モロ 石岡小右工門 山崎与右工門 金森勇治郎 都築ソツ 山口ミネ 飯嶋宗藏 宮田弥三郎 飯嶋又平 片倉甚右工門 椎名宗治良 同スマ 石川権平 石倉又右工門 吉田元治郎 高橋定之助 岸 久治郎 同 仙三郎 大橋ノ八 山口力松 山田茂八 中村兼吉 中村六次良 長野四良兵工 長谷川仙藏 関根徳右工門 星野幾太良 野沢平右工門 鈴木芳兵工 佐久間半次良 森田次良右工門 長井弥兵工 山崎秋藏 高鹿忠藏 鈴木辰藏 八木盛之助 川尻清右工門 鈴木弥三郎 浜野一良右工門 浜野助右工門 大貫万吉 富田岩吉 池田岩藏 矢野安次郎 市川金藏 井上弥平治 香山三木藏 清水巳之助 大野周次郎 青木小吉 齋藤真藏 関根平右工門 同 長右工門 神田熊藏 小嶋智松 長野権兵工 山崎金右工門 小沢仲次郎 中村嘉右工門 渡邊長吉 遠藤幸藏 須賀常吉 須賀常吉 木村助次郎 坂巻要吉 芝田安平 齋間富藏 中村新内 小野次八藏 大雲寺 ※ 正田治郎右工門 中野市十郎 中村治太郎 筋由太郎 鈴木喜兵工 五井弥右工門 岡部初次郎 市川金藏 内田モロ 飯野佐左工門 早川セイ 川村三藏 野口仙藏 同 清治郎 斎藤仙之助 吉田定吉 中川忠藏 橋本幸松 増田吉郎右工門 野口栄人 宇田川八藏

※「大雲寺」は、現・佐野市内。

裏面

地蔵尊の反花 直下の台座

講中三年積金高 金二百五拾六円 但シ利子共内 奉鑄造入費 金百拾円也 金物壹式寄附 岩淵正光寺 金拾三円也 上人葬式但シ 樂人声名布 金拾円安国寺工 地蔵尊供養料 金拾五円也 位牌六本代 金三拾円祠堂 講元観音寺工 金三拾円祠堂 講元光正寺工 金一拾円祠堂 十条雪峯庵工 金拾円祠堂 浅草西光寺工 金拾円祠堂 岩淵梅翁庵工 増田吉郎右工門 野口栄人 宇田川八藏 古田雪三郎 会姓平兵工 戸張松五郎 谷古宇治兵工 谷田又右工門 小堤作右工門 田中三郎右工門 福田周治郎

台石 I

小林賢太郎 高橋善吉 熊倉新三郎 長野半右工門 野本依七 矢作七左工門 原慶三郎 矢作常右工門 齋藤善八 小原宗次良 源法寺 小倉長右工門 岸本浪太郎 小倉甚藏 良学院 大熊喜右工門 小山喜太郎 中野七良右工門 照善明光法尼 浅井由藏 長徳五郎 森田元吉 長梅三郎 大熊黄石工門 平本伊右工門 桜井原松 山本清兵工 秋口竹松 浅子保太郎 福田作藏 石塚半次良 田中利三郎 松井長左工門 高藤善七 山本市太郎 中村スカ 山口喜助 酒巻巳之助 外世話人 森田弥五右工門 鈴木要吉 上原周藏 三ノ輪嘉忠次 松崎岩藏 内木口次郎 嶋村吉三郎 中野田謙中 鈴木勘右工門

台石 II

高橋喜六 石井ウメ 山崎常三郎 谷塚五良左工門 真々田岩太良 中嶋卯八 森田淺五良 城地音治郎 鈴木五良平 新井富七 小森谷才助 宇田川多吉 鈴木歌藏 浅見三五郎 荒井吉左工門 会田清太郎 高橋六左工門 中村吉太郎 小倉市五良 杉村林右工門 吉田新藏 高橋孫治郎 石川由藏 石川権十良 羽生シホ 中嶋茂吉 細井弥惣八 関根周太郎 船津文治良 漆間義治 金子栄助 柴田善治 鐵場義助 木村金三郎 須賀己之助 小暮仙藏 古橋ソウ 小林甚左工門 鈴木吉兵工 小菅助治良 小松吉藏 川上市太郎 斎藤直治良 佐久間六左工門 伊藤七良 広木新太良 中村喜太郎 高梨千代松 嶋根八十八 諸町庄治良 田中音次良 小嶋長治良 加藤耕之助 金井キヨ 中村喜太良 願成寺(伊奈町)小憲

台石 III

東京本郷区 駒込浅嘉町 石工 石井幾治郎 同区 上富士前町 石井力藏 字三野宮蔵伝八郎 森 新三郎 大沢半右工門 小倉源右工門 原 矢秋喜次郎 宮内政五郎 狩馬勝三郎 小宮七右工門 安宮周助 萩原松五郎 渡辺和助 根岸鶴助 福田源助 木村甚左工門 木村佐七 堀切伝右工門 太田太左工門 平井彦太郎 立沢吉兵工 立沢吉口工門 岡田助右工門 関根音次郎 葛島村長次良 岡田末之助 杉浦伊八 藪口太左工門 田嶋五郎次 森谷喜右工門 山菜長右工門 菊名小平 互井弥左工門 井原秀吉 吉田後一郎

※野本依七は、伊勢町(現日本橋本町) 法養寺は、現・江戸川区東小松川 ※良学院は、鷺宮町 維時明治廿五年十一月造立之

旧上間久里村の石仏

(1) 上間久里下堂(しもんどう)

こはもと稲荷山正覚院(真言宗寺院)の跡地である。江戸時代の上間久里村の名主である上原家(上間久里八四)の墓塔が多く見られる。

1. 百八十八箇所巡礼塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 上間久里・下堂(しもんどう) 墓地

お堂の南側前列向かって左端より二番目
石塔型式 笠付き型(北向き・高さは高)

年号 宝曆九年(一七五九)

〔正面〕

宝曆九卯年

奉供養 西国四国 巡礼

二月十五日

願主即誓到運比丘

※西国、秩父、坂東の観音靈場百か所と四国の弘法大師靈場八十八か所のすべての巡礼地合わせて百八十八か所を徒歩で巡った記念の石塔である。

(2) 上間久里閻魔堂

この近くの上間久里自治会館は地蔵堂があった所である。かつては、地蔵の縁日の前日の八月二十三日には、地蔵供養のための念仏信仰が盛大に行われていた。

地蔵堂の北西側の道路沿いに並べられていた石仏類が道路の拡張にとまない近くのゲートボール場の南西端に移され、さらにこの閻魔堂の塀の外側に移転された。

このあたりは、字名が「堂前(どうまえ)」と呼ばれる。地元では、大泊の安国寺はもと堂前にあったとの伝えがある。間久里には、現在も安国寺の檀家が多く見られるのはそのためであろうか。

2. 文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一七九番)
所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

もと近くの地蔵堂(現、上間久里自治会館)にあった
石塔型式 頭部山状角型(南東向き・高さは高)

年号 寛政七年(一七九五)

〔右側面〕

寛政七卯年

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿)

講中

〔右側面〕(向かって右側面)

正月吉日

3. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔九一番)

所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

もと近くの地蔵堂(現、上間久里自治会館)にあった
石塔型式 笠付き型(南東向き・高さは高)

年号 享保十六年(一七三二)

〔左側面〕

奉造立庚申待供養講中為現世

安穩凌生善果也

享保十六 天五月吉祥日

交

武州新方領上間久里村

上原 善兵衛
吉岡 安左衛門
関根 左衛門
上原 佐次右衛門
上原 善兵衛
吉岡 平蔵
池澤 清兵衛
本領 小倉 三左衛門

〔正面〕

(青面金剛像) (二鶏) (鬼) (三猿)

〔右側面〕

天下泰平 国土安穩
願以此功德 普及施一切
我等与衆生 皆共成仏道

上間久里の地蔵堂(現・上間久里自治会館)

江戸時代、上間久里の関根氏が上野東叡山寛永寺にお仕えし、その後、帰郷の前夜、夢枕に日頃崇拜していた地蔵尊が立ち、一緒に連れて帰るようにと告げられた。そこで建立されたのが、その地蔵尊を安置する地蔵堂であるという。かつては「東叡山観成院常純寄附之、明和八卯三月(どうえいざんかんじょういん・つねずみこれをきふす、めいわはち・う・さんがつ)」と書かれた飾り幕があったという。

明和八年は、西暦一七七一年。

4. 青面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔一三二番)
所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

石塔型式 もと近くの地蔵堂(現、上間久里自治会館)にあった
駒型(南東向き・高さは中)
年号 明和二年(一七六五)

〔左側面〕 上間久里村

〔正面〕 「台石」
願主 太右衛門
里蔵 文右衛門
□左衛門 文右衛門
彦右衛門 久蔵
半右衛門

〔日月〕 (青面金剛像) (鬼) (三猿)
〔右側面〕 明和二乙 西三月吉日

◎不動三尊線刻像 (『越谷市金石資料集』不動二二番)
所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い
もと閻魔堂北東の今はなき道路沿いにあった
石塔型式 自然石(南東向き・高さは高)
年号 明治十八年(一八八五)一月

〔正面〕 發起 吉岡重太郎
上原治郎右衛門
伊川院法印栄信圓圖

人話世 關根團蔵
田川新三郎
上原佐兵衛
田川松五郎

(不 動 明 王 三 尊 像)

村内為女善女置之 鶴龜山鑄

※この図案と同じものが、野田市の西光院隣の愛宕神社にある。二十三年前の文久二年(一八六二)に西光院の住職によって造立。また野田市五木の香取社にも明治二十年のものがある。もとの原図は、成田山新勝寺にある文政十年(一八二七)造立の「石摺り不動」で、これより由来する。

社風神

5. 阿弥陀像付き念仏塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

石塔型式 もと近くの地蔵堂(現、上間久里自治会館)にあった
舟型(南東向き・高さは高)
年号 寛文四年(一六六四)

〔正面〕 □念仏講中菩提也
(阿 弥 陀 如 来 像)
寛文四年十月十五日

※この像は螺髪らまつをしていて、さらに左右の手とも人差し指が伸びていないために阿弥陀来迎印を結んでいる如来像と推定できる。
向かって右上の「□念仏講中」の文字で□は「四」とも読める。すると「四念仏」つまり「夜念仏」を指すのであろうか。

また、この像の両脇には阿弥陀四十八誓願にちなんで四十八名の人名が刻まれているが、摩耗が激しく解読は困難である。

6. 名号塔 (『越谷市金石資料集』名号塔二六番)
所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

石塔型式 もと近くの地蔵堂(現、上間久里自治会館)にあった
頭部山状角型(南東向き・高さは中)
年号 文久二年(一八六二)

〔左側面〕 供養養塔 文久二戌年 六月吉日

〔正面〕 南無阿弥陀仏

7. 信州出身僧侶供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 上間久里・閻魔堂の外の東側道路沿い

石塔型式 もと近くの地蔵堂(現、上間久里自治会館)にあった
角型(南東向き・高さは中)
年号 明和五年(一七六八)

〔正面〕 信州高井郡安源寺村住人
梵字「ア」白氏慶法法師 位
明和五年四月十三日

(3) 上間久里香取神社

上間久里村の鎮守である。

8. 「稻荷大明神」文字塔 (『越谷市金石資料集』掲載なし)
所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 祠型(笠無し、南向き・高さは中)
年号 延享元年(一七四四)

〔左側面〕

延享元年
子 天六月吉日

〔正面〕 稻荷大明神

9. 「稻荷大明神」文字塔 (『越谷市金石資料集』掲載なし)
所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 祠型(笠無し、南向き・高さは中)
年号 延享元年(一七四四)

〔正面〕

稻荷大明神

〔右側面〕

延享元年
子 天六月吉日

10. 「神宮」文字塔 (『越谷市金石資料集』掲載なし)
所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 祠型(南向き・高さは中)
年号 文化十三年(一八一六)

〔左側面〕

□□□三
子 十二月吉日

〔正面〕

□ 神宮

〔右側面〕

□ 子中 願主

子供

11. 「良公神」文字塔 (『越谷市金石資料集』掲載なし)
所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 祠型(東向き・高さは中)
年号 天明六年(一七八六)

〔左側面〕

天明六年三月吉日

〔正面〕

良公神

〔右側面〕

善右衛門

小倉

仙右衛門

◎ 「天照皇大神」文字塔 (『越谷市金石資料集』神明三番)

所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 自然石(東向き)
年号 明治三十七年十月(一九〇四)

〔正面〕

天照皇大神

※本殿などの新築と境内地の整備が平成十四年十二月に完成。

ここに記載されている石仏石塔の向きは、調査した時の向きである。

現在では、すべての石仏石塔が一か所に集められ、横一列に並べかえられて、すべて東南東の向きとなる。

※上間久里の香取社の南側の道は、恩間の勢至堂脇の道から続き、日光

街道に合流する古道(岩槻道)で、袋山の周りに流れた古川のかつての土手道であったと思われる。

12. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

もと近くの地藏堂(現、上間久里自治会館)にあった
石塔型式 駒型(南東向き)
年号 明治十二年(一八七九)

〔正面〕

庚申塔

明治十二年

旧下間久里村の石仏

(1) 下間久里香取神社

村の鎮守の香取神社は例年七月十五日に行われる「下間久里の獅子舞」として有名で、この獅子舞は県の無形文化財に指定されている。獅子頭の角に「雨下無双角兵衛」と刻まれている。「雨下無双」とは、「雨」は「天」つまり「天下無双」という意味を表しているであろう。この下間久里の獅子舞は、古風の名残をよく残しているといわれ、江戸時代に県東部周辺の春日部市銚子口、春日部市赤沼、庄和町中野、野田市清水などに伝わり広がったと考えられている。

1. 疱瘡神供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 下間久里・香取神社境内、木製の祠の中に奉納されている
石塔型式 祠型(東向き・高さは低)
年号 不詳

〔正面〕
疱瘡神

(2) 下間久里の寮(阿弥陀堂)

下間久里公民館の百メートル南先の道路西側に墓地がみられる。地元では「寮」と呼び、堂には阿弥陀如来座像が安置されている。新編武蔵風土記稿に記載されている「庵、阿弥陀を安ず、開演寺の持ち」のことであろう。平成5年に「阿弥陀堂」と名付けられた。

2. 阿弥陀・如意輪浮彫り像付き墓塔 (『金石資料集』に掲載なし)
所在地 下間久里・開演寺跡地墓地
石塔型式 駒型(北向き・高さは中)
年号 元禄元年(一六八八)

〔正面〕

(阿弥陀如来像) 寛文十三丑年
為宗念信土菩提也
正月七日

(如意輪観音菩薩像) 元禄元年
為智泡信女仏果也
辰十月日

※令和元年現在、
当時の台座部分が
所在不明

3. 筆子建立墓塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 下間久里・開演寺跡地墓地
石塔型式 笠付き型(南向き・高さは高) ※令和元年現在、北向きに変更
年号 安政二年(一八五四)

〔左側面〕(向かって右側面)
筆子 五十五人
〔正面〕
実誉源浄信土 各名霊
〔台石〕
金

還譽到安信女 子
〔右側面〕(向かって左側面)
宝天 天保九戌年六月五日 俗名源次郎 六十六才
三代目

還 安政二乙卯年十二月十三日 船渡村 孫平娘 俗名かつ 八十才

※筆子(寺子屋の生徒)だった教え子ら五十五人が師匠夫婦のために墓塔を建立したものである。金子家(下間久里一三八六)の先祖は江戸時代にこの開演寺で師匠となって寺子屋を営んだのであろう。

(3) 下間久里不動堂(開演寺跡地)

この不動堂は代々金子家(下間久里一三八六)が管理している。不動堂と金子家とは何らかの密接なかわりがあったのであろう。不動堂に安置されている本尊は開演寺の本尊と思われる。『金石資料集』の「普請供養九番」によると、開演寺の建立を示す安永七年(一七七八)六月十日建立の「奉建立開演寺一字」と刻まれた柱状型の普請供養塔がこの不動堂境内にあるというが、残念ながら今は不明である。願主は下間久里村の開帳法師となっている。

4. 出羽三山供養塔 (『越谷市金石資料集』出羽三山一番)
所在地 下間久里・不動堂境内
石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは高)
年号 安永元年(一七七二)

〔左側面〕

天下泰平

東叡山御持羽黒山別当代戒光院亮晝

国士女公

〔正面〕

梵字「キヤ」十一面觀世世音

〔台石〕

村

〔正面〕

月山

講

梵字「アーンク」湯殿山 供養塔

羽黒山

中

〔右側面〕

安永元年壬辰十一月吉日

武州埼玉郡新方領

下間久里村

〔台石正面〕

初めに縦書きで「講頭」と刻まれ、以下十四名の名前が刻まれているが、
摩耗が激しく、解説は極めて困難である。

〔台石左側〕(向かって右側)

寄進

大里村 喜八

同 宗仙

当所

藤田久右衛門

同 九里佐次右工門

同 金子清 六

福田重右工門久学房

5. 「十一面観音」文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは高)

年号 文政八年(一八二五)

〔左側面〕

天下泰平国土安全

〔左側面〕

文政八乙酉正月吉日
下間久里村

6. 文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔三五一番)

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは高)

年号 文政八年(一八二五)

〔左側面〕

下間久里

文政八乙酉正月吉日

〔正面〕

〔日月〕 青玉面公並剛 (三猿)

〔右側面〕

天下泰平国土安全

7. 「弁財天」文字塔(『越谷市金石資料集』弁財天三番)

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 祠型(東向き・高さは中)

年号 延享四年(一七四七)

〔左側面〕

延享四丁卯 四月吉祥日

〔正面〕

辨財天

〔右側面〕

武州新方領下間久里邑

中 講

8. 板碑型三猿庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 板碑型(東向き・高さは高)

年号 寛文五年(一六六五)

〔正面〕

奉造立石仏者為庚申待講衆中廿六人二世安樂

寛文五乙巳年十月吉日武州下間久里村 施主 敬白 (三猿)

本願浄□院 (雲々)

9. 千庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二四三番) 所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 駒型(東向き・高さは中) 年 号 文政四年(一八二二)

〔正面〕

文政四巳年願主 (日月) 奉納千庚申供養 (三猿)

八月 吉祥 日是心

※多ければ多いほど御利益があるとの考え方から生まれたのであろうか。数にものを言わせて庚申の功德を得ようと「千」を付けている。

10. 「勢至菩薩」文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 下間久里・不動堂境内 石塔型式 駒型(東向き・高さは中)

年 号 宝暦九年(一七五九)

〔正面〕

(月) 宝暦九己卯 梵字「サク」 南無勢至王入菩薩

(日) 九月 吉祥 日 下間久里

※『越谷市金石資料集』の「不動六番」で紹介している石塔に該当か。

11. 観音像付き百堂巡礼塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 下間久里・不動堂境内 石塔型式 舟型(東向き・高さは高)

年 号 寛文五年(一六六五)

〔正面〕

奉造立石仏者為百堂順礼衆中七十一人逆修也本願七郎兵衛

(正) 観 音 菩 薩 立 像 ()

寛文五乙巳十月吉日武州西新方下間久里村 施主 敬白

※神社仏閣の百のお堂巡りが完了したのを記念して造立したものである。

数にものを言わせて功德を得ようとする百堂巡りは、観音堂・薬師堂・地藏堂・大師堂・阿弥陀堂などさまざまなお堂を巡拝したものである。

江戸時代初期の主に寛文年間前後に、埼玉県東部から千葉県、茨城県にかけて見られた。この辺りの例としては、大相模の東方の観音寺境内に

明暦二年(一六五六)の板碑型の百堂巡礼塔と末田須賀堰そば末田側塔、砂原八五〇―二の松沢家前の路傍に阿弥陀像付き百堂巡礼塔がある。

※この石塔には「西新方」との文字が見られる。間久里地域は、新方領の西部にあるので江戸初期は「西新方」と呼ばれていたであろう。

「西新方」の文字は、大里9の阿弥陀如来像石仏にも見られる。秦野秀明氏によると、この「西新方」の文字は、大沢香取神社境内にある

天和二年(一六八二)の手水鉢にも見られるという。

(4) 立(たいら) 家吹陀娑房(下間久里六〇番地)

12. 青面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 下間久里六〇番地平家正門前の東西に走る道路南側沿い 石塔型式 正面は駒型(西向き・高さは中)

年 号 享保六年(一七二二)

〔正面〕

奉建立庚講諸願成就為千 世亦楽也

(日月) (青面金剛像) (二鶏) (鬼) (三猿) 金子五郎右門 平 吉左

享保六 丑十一月 吉祥 日 施主 竹田清左門 同 兵衛 吉思庄右門 平 奥太

※平家(下間久里六〇番地)には、越谷市の文化財に指定された文久二年(一八六二)の『算額』が保管されている。この『算額』はもと旧日光道中沿いの平家(下間久里一四〇〇番地)の南にある『第六天宮』の祠の中に祭られていたものである。

(5) 荒井家(下間久里一〇)邸内

13. 道標付き大乗妙典供養塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 荒井家(下間久里一〇)敷地内の角地 ※大谷達人氏からの
石塔型式 頭部山状角型(北東向き・高さは中) 情報がきっかけで
年号 天明四年(一七八四) 調査

〔左側面〕 是舟戸道 ※「舟」は、「より」と読む。

〔正面〕 (梵字 サ) 戒應定圓信士
(梵字キリク) 奉納大乗妙典供養塔

(梵字サク) 天明四 辰 三月廿六日

〔右側面〕

武州埼玉郡下間久里村

行者荒井宗左衛門

※この道しるべは、江戸時代は、現在地より北方の荒井家本家(下間久里一三四〇)の道路反対側の下間久里会館近くにあったものと思われる。ここから間久里と船渡を結ぶ古道が日光街道から別れていたためである。ところが、大正年間から荒井家(下間久里一〇)南側の道路が船渡道に変わったので、現在の荒井家角地に移されたものと思われる。

※間久里と船渡を結ぶ舟戸(船渡)道

間久里の日光街道から間久里新田を通して、船渡村の新田や本村に通じる主要な道の江戸時代の道しるべである。もとは、日光街道に沿った現在の下間久里会館の南方路傍にあったと推定できる。この辺りから、船渡に通じた古道があった。この古道は現在のマクドナルド下間久里店の東側隣の大杉公園通りにつながり(ここまでの古道の道筋は不明)、せんげん堀に架かる間久里新田橋を渡り、船渡新田の集会所(船渡二八六の海老名家の西隣、かつての山王社)の北側(現在はその北側古道の名残は全く無い)を通って行ったと思われる。

明治の終わり頃から大正にかけて行われた新方領の耕地整理事業の時に、大里の鎮守稻荷神社から北東、間久里新田橋の方向に向かう直線の新道(現在の大里稻荷社からマクドナルド下間久里店の手前までの間のバイパスの一部にあたる)ができ、現在のマクドナルド下間久里店先の江戸時代の古道である船渡道につながった。この道しるべは、その頃に荒井家角地に移されたのであろう。荒井家南側の道は細い古道(農道)で、この古道を進むと、大正時代にできたこの新道にぶつかり、そこからは一直線に船渡に行けたのである。

なお道しるべに刻まれている荒井宗左衛門は荒井家本家の先祖であろう。また、道しるべがあったと思われるあたりは、荒井家本家の土地である。

(6) 松崎墓地(松崎紙工の北東隣)

14. 百八十八箇所巡礼塔
所在地 下間久里・「松崎紙工」(下間久里一三三五)の北東隣
石塔型式 頭部山状角柱型(東向き・高さは中)
年号 文化四年(二八〇七)

〔左側面〕 天下和順日月清明

文化四乙卯十一月吉日立之

〔正面〕

〔台石〕

一八〇七 ※乙は丁の誤り

(梵字「サ」) 秩父坂東 氏 崎
奉巡礼供養塔 西国四国 松

〔右側面〕

〔台石〕

文化四丁卯十一月十三日 一八〇七

(梵字「キリク」)

念蒼隨応信士 靈位 幸助
耀蒼珠光信女

文化四卯十二月八日 一八〇七

〔裏面〕

莊蒼惠嚴信士 寛政八辰年 一七九六
五月十九日

勸祐妙遍信女 文化七年年 一八一〇
正月四日

廓然常照信士 文化十癸酉年 一八一三
六月廿四日

英巖信士 文化十二乙亥年 一八一五
八月初五日 ※初五日=五日

(7) 松崎墓地 (松崎紙工の北、日光街道西側裏)

日光街道西側裏

下間久里一三二五の「松崎紙工」北西裏の駐車場の東側隣にある。
15. 六十六部廻国塔

所在地 下間久里・松崎家墓地の北西隅

※この石塔は坂本

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは中)

誠一郎氏により

年号 享保十三年(一七二八)

見つける。

〔左側面〕

正徳六丙 申稔閏二月吉日

一七二六

〔正面〕

奉納大乘妙典六十六部日本回国

※稔II年

光誉直心比丘

享保十三 戊申天七月十九日

一七二八

〔右側面〕

南無阿弥陀仏

(2) 下間久里の寮(阿弥陀堂)の石仏追加

16. 宝篋印塔

所在地 下間久里・下間久里の寮(阿弥陀堂)

石塔型式 宝篋印塔(南向き・高さは超高)

年号 正徳二年(一七二二)

〔左側面塔身・東側〕

(時に) 正徳二龍次壬辰

十月二十八日

(梵字「阿克」 不空成就如来)

〔正面塔身・南側〕

(梵字「ウン」 阿閼如来)

※右側面の塔身は梵字「タラク」裏面塔身は梵字「キリク」、

南側の基礎には「奉造立」から始まる文章が見られる。基礎や

台石には文字がびっしり刻まれているが、解説困難で仏の功德や

教えを説いた偈を含む文章が含まれているのであろう。

※宝篋印塔の本来の向きは、ウンが東向き、タラク(宝生如来)が南向き、キリク(阿弥陀如来)が西向き、阿克が北向きである。

旧大里村の石仏

(1) 大里稲荷神社

文政十三年(一八三〇) 造立の不明の石塔(祠型)があり、左側面に「文政十三年正月吉日」と刻まれているが、他は不明。「越谷市金石資料集」に全く掲載なし。ここは大里村の鎮守である。

(2) 大里自治会館

(ここは春日山秀蔵院(真言宗寺院)の跡地である)

1. 永代施餓鬼供養塔(「越谷市金石資料集」に掲載なし)

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 頭部山状角型(西向き・高さは中)

年号 文政十年(一八二七)

〔正面〕

文政十 丁亥年

梵字「アインク」永代施餓鬼供養誌

世 会田半五郎
宇田利右衛門
話 深野清左衛門
願 土教圓
人 中村弥平治
中村重蔵

十月 吉祥日

2. 文字庚申塔(「越谷市金石資料集」庚申塔二〇六番)

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 頭部山状角型と推定(西向き・高さは中)

年号 享和二年(一八〇二) ※盃状穴が見られる。

〔左側面〕

藤田 仁右衛門
同 八蔵
藤井

享和二 壬戌年

会田 平左衛門
根本 磯八
佐藤 孫兵衛
同 藤右衛門
同 善右衛門

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿)

〔右側面〕

新方領大里村

中村 伊右衛門
仲右衛門
藤五郎
半蔵

正月吉日祥日

世話人

長野 新五兵衛
同 惣兵衛
同 彦右衛門
同 兵助
中村 □左衛門

3・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二六八番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 頭部山状角型と推定（西向き・高さは中）

年号 天保五年（一八三四）※2番と共に盃状穴が見られる。

〔左側面〕

天保五甲午九月吉日

この2基は江戸時代には日光街道沿いにあつたのであろう。

〔正面〕

青面金剛（三猿）

〔右側面〕

大里村

講中

4・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔五九番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 舟型（西向き・高さは高）

年号 正徳四年（一七一四）

〔正面〕

奉造立供養青面金剛像二世安楽伎

（鶏）

（日月）（青面金剛像）（鬼）（三猿）

正徳甲午十一月吉祥日

敬白

（鶏）

※二鶏・三猿の下部に二十名分の名前が刻まれているが、摩耗が激しく、
解読不能である。

※女人をぶら下げている青面金剛像は一般には左手を降ろして女人の髪の毛をつかんでぶら下げるのであるが、この庚申塔の青面金剛像は左手を上方に挙げて女人の髪の毛をつかんでその女人をぶら下げている姿を描いた珍しい庚申塔である。

5・普門品供養塔（『越谷市金石資料集』普門品一七番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは中）

年号 文化十二年（二八一四）

〔左側面〕

天下泰平国土安全

〔正面〕

梵字「サ」並首門口口二萬巻供養塔

〔右側面〕

文化十一年 戌年十二月吉日

※『資料集』では三月となっているが誤り。

〔台石左側面〕

〔台石正面〕

〔台石右側面〕

深野安右衛門 深野権左衛門 佐藤孫兵衛
小出弥五衛門 宇田助右衛門 根本 磯
藤井金兵衛 深野兵左衛門 佐藤藤右衛門
会田市左衛門 山田七右衛門 長野長左衛門
宇田利右衛門 中村武右衛門 藤田八蔵
同 太兵衛 中村仲右衛門 長野彦右衛門
下田五右衛門 藤田三右衛門 同 兵助
同 四郎左衛門 藤井弥五兵衛 同 勝右衛門
深野忠右衛門 藤田平八 同 佐藤善右衛門
下田長右衛門 中村吉左衛門 □人深野源次郎

6・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一九六番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 駒型（西向き・高さは中）

年号 寛政十一年（一七九九）

〔左側面〕

寛政十一年 己未十一月吉祥日

〔正面〕

梵字「ウーン」 青面金剛

〔右側面〕

武州崎玉郡新方領大里村

7・「大六天」文字塔（『越谷市金石資料集』第六天四番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 祠型（西向き・高さは中）

年号 不詳

〔台石〕
名前が多数刻まれているが
摩滅しているため解読困難

〔正面〕

大八八二大

※大六天(他化自在天)とは、正しくは「第六天」と書き、この天に生まれた者は他の作り出した楽しみを自由自在に自分の楽しみとすることができるという。仏法の妨げをするといわれる「第六天の魔王」の魔力で願い事をかなえてもらおうとする信仰に基づいている。
元禄十六年の水野長福著「結城使行」によると、日光街道の道路反対側に大六天がかつて置かれていたようである。ゆえに、この石塔はもともとはこの地にあつたのではない。道路の反対側にあつたのである。

8. 名号塔(『越谷市金石資料集』名号三〇番)

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 自然石(南向き・高さは中)

年号 不詳

〔正面〕

梵字「ア」 南無阿弥陀仏

9. 出羽三山供養塔(『越谷市金石資料集』出羽三山一二番)

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは中)

年号 天保十五年(一八四四)

〔左側面〕

天保十五年二月吉日

〔正面〕

梵字「アーンク」 湯殿殿山 月山

羽黒山

〔台石正面〕

大里村

講中

〔台石左側面〕

小出 茂 吉

宇田利右衛門

深野清右衛門

飯山勘兵衛

深野三郎右衛門

会田武右衛門

藤田仁右衛門

中村仲右衛門

藤井 兵 蔵

〔台石右側面〕

中村弥平治

佐藤弥左衛門

長野彦右衛門

同 兵 助

同 勝右衛門

中村 重 蔵

佐藤善右衛門

会田市左衛門

※2、3の石仏と同様に盃状穴が見られる

(90) 文月藤家路傍(大里八二〇番地)

以前は齊藤家(大里八二〇)の敷地南方の藤田家(大里八二三)よりの路傍にあつて、石仏の向きは南西であつた。

10. 勢至菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 齊藤家(大里八二〇)南端路傍(もとは、大里八二二の一の石塔型式 舟型(南東向き・高さは中) 吉田家の日光街道に面した年号 元禄十一年(一六九八) 入口北側路傍)

〔正面〕

元禄十一年

(勢至菩薩像)

十一月廿九日

※かつては、地元の人々によつて「お勢至様」と呼ばれ、特に目を患つてゐる人が、目の病を治そうと願(がん)をかけての石仏の前で押んだという信仰が見られた。秦野秀明氏によると、江戸時代の「増補行程記」に紹介されている奥州道中(日光道中)沿いの古絵図の中に、大里村の「勢至えのき」と呼ばれた大櫃が記載されているが、勢至えのきのそばにあるだろう勢至塚は地元で大切に信仰されたこの石仏であるという。他に勢至像造立以前の三猿庚申塔、釈迦如来像も一緒にあつたと推定。

11. 三猿庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔八番)

所在地 齊藤家(大里八二〇)南端路傍

石塔型式 板碑型(南東向き・高さは高)

年号 寛文九年(一六六九)

〔正面〕

寛文九年 己 武州葛飾郡

奉造立石仏庚講衆中拾三人為二世安穩也 (三猿)

□月廿七日□□新方大里村

※□月は「三月」か

※江戸初期の貴重な庚申塔である。「庚講」は、「かのえこう」と読む。庚申講の意味である。

12. 釈迦如来像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 齊藤家(大里八二〇)南端路傍

石塔型式 駒型(南東向き・高さは高)

年号 天和二年(一六八二)

〔正面〕

天和二年 戊 天

十一月五日 (釈迦如来像)

13 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一七二番）
所在地 齊藤家（大里八二〇）南端路傍
石塔型式 駒型（南東向き・高さは中）
年号 寛政二年（一七九〇）
〔左側面〕

中村半蔵 会田清右エ門
同 宇田 〇右エ門
同 藤田弥五兵エ 平 〇左エ門
同 岩右エ門 嶋村 〇次右エ門

〔正面〕
〔日月〕 青面金剛像（鬼）（三猿）
〔右側面〕

願主 藤田八蔵 佐藤藤右エ門
同 仁右エ門 同 孫兵エ
寛政二庚 十一月吉日 長野左エ門 高橋次良左エ門
根本 〇八 中村吉左エ門

（4） 中村家改路傍

14 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 大里・中村家（大里五三四）路傍
石塔型式 舟型（北西向き・高さは中）
年号 宝永七年（一七一〇）
〔正面〕

奉造立庚申供 養三世安楽処

（鶏）

〔日月〕 青面金剛像（鬼）（三猿）

宝永七庚寅年九月

（鶏）

長野 〇〇
長野 〇〇
中村 〇〇
中村 〇〇
中村 〇〇
中村 〇〇
中村 〇〇
中村 〇〇
中村 〇〇
中村 〇〇

※奉納者名を見ると、大部分が中村の名前が刻まれている。中村家と縁が深い庚申塔であろう。中村家（大里五三四）がこの庚申塔を代々管理してきている。

（5） 藤田家邸内（大里八五五番地）

15 無双角兵衛守護神「文字塔」（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 藤田家（大里八五五）邸内
石塔型式 祠型（南々西向き・高さは中）
年号 寛政二年（一七九〇）
〔左側面〕

寛政二庚 十一月吉日

〔正面〕
天 下 無双角兵衛（守）護神
〔右側面〕

願主八蔵

※「天下無双角兵衛」とは、下間久里の雨下無双角兵衛獅子舞の「雨下無双角兵衛」を指す。「雨」とは「天（あめ）」という意味である。「雨下」の読み方は、「あめのした、あめがした」である。

※願主の八蔵は、藤田家の先祖である。大里の村人もこの獅子舞に加わっていた。江戸時代前期の獅子舞の世話人には、下間久里村以外の大里の村人の名もよくみられたことが次にあげる資料によってわかる。かつては大里の村人も加わって一緒に運営し、参加していたのである。

※昭和四十三年七月十日出版の三原善太郎氏著「下間久里（雨下無双角兵衛）獅子舞考（第三集資料編）」によると、地元「香取大明神御帳」（保管は新井隆一郎家）があり、その表紙には「文禄甲午」との年号が書かれ、文禄三年の甲午年（一五九四）を指しているという。そしてその中身は、下間久里村にある香取社の祭礼にあたった宿元（やどもと）世話人、つまり年番を勤めた人々の名前が慶長元年より年ごとに代々記載されている。宿元は、下間久里村のみならず、南隣の大里村の住民の名もみられる。三原氏（故人）は、文禄三年を香取神の勧請（かんじょう）の年ととらえ、二年後の慶長元年の丙申（一五九六）に社殿が出来上がり、第一回の祭礼が実施したと推定している。そして獅子舞の初代太夫は新井太夫とし、慶長十七年（一六二二）頃と推定している。

※江戸時代の新井家（下間久里一三七七）は太夫を代々引き継ぐ家柄だったか。

(6) 桜井分団第一部消防小屋

16. 馬頭観音菩薩像 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 桜井分団第一部消防小屋 (大里七七八) そば
石塔型式 駒型 (東南東向き・高さは中)

年号 寛政六年 (一七九四)

〔正面〕

大里村

願主 善兵衛

平八 想馬物

※衣の下部の先端が 地面から

上向きに描かれているが、その

先端部分が蛇の鎌首のように

見える (大谷達人氏)。

寛政六甲寅二月吉日

※ここは江戸時代の大里村はずれの馬捨て場。地元では「馬頭墓地」と呼ばれた。

(7) 中村家邸内 (大里八七五番地)

17. 『車地藏』石仏 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 中村家 (大里八七五・達磨屋) 邸内

石塔型式 丸彫り (東向き・高さは高)

年号 宝永七年 (一七一〇)

〔左側面〕

(田の穴)

〔正面〕

(地藏菩薩座像) (縦長の穴) 奉造立地藏菩薩像為自他法界平等利益

〔右側面〕 (田の穴) 十月吉祥日

※輪廻車付き地藏菩薩像である。大泊7番を参照のこと。

※この石仏は、昔からこの位置にあり、この石仏の前 (東側、つまり日光

街道側) には、村が管理する下組 (しもぐみ) のお堂があった。お堂か

ら日光街道に出る参道には敷石が敷かれていた。上組のお堂は、大里村

の北の外れ、現在の稻荷神社である。上、下ともに村の外れにあった。

(追加・大里自治会館)

18. 大日如来梵字宝塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大里自治会館の日光街道路傍

石塔型式 宝塔型 (西向き・高さは高)

年号 不詳

〔左側面〕

武州崎玉郡新方領

(胎蔵界大日如来梵字「ア」)

〔正面〕

奉納

諸願

法界平等

〔右側面〕

(金剛界大日如来梵字「パン」)

※昭和四〇年頃に、大里八七五の中村家から

境内地にあったものである。最下段の台石に盃状穴の跡が多く見られる。

(追加・大里自治会館)

19. 阿弥陀如来像

所在地 大里・大里自治会館

石塔型式 舟型 (東向き、高さは中)

年号 寛文三年 (一六六三)

〔正面〕

奉造立石仏為念仏講衆中二十七人安穩 施主

(梵字「サ」)

(梵字「キリク」)

(阿 弥 陀 如 来 像)

(梵字「サク」)

寛文三天十二月吉日武州西新方大里村 敬白

※「西新方」と刻まれた石造物が、越谷市内に他に二基ほどある。

下間久里の不動堂の寛文五年 (一六六五) 百堂巡礼塔 (下間久里11番)

と大沢の香取神社の天和二年 (一六八二) の手水鉢である。